

柿樹類

安息香科

圖六十九百第

ひひらき



を搾り、もうりんくわ類の花より香油を製し、ひらぎとねりこ類等よりは木材を採り、もくせい(木犀)わらばいれんげうきそけいそけいひひらぎ等を觀賞用に供す。

第七目 柿樹類

此の目の植物は四乃至八の數より成れる萼片及び花瓣を有し、雄蕊は花冠に著生し、花冠の裂片と同數或は其の二倍若くはそれより多數あり。子房は必ず數室を有す。

第一 安息香科

此の科の植物は木本にして托葉なき單葉を互生し、萼は四裂或は五裂し、

圖七十九百第

えごのき



或は稀に殆ど全邊にして宿存す。花冠は概ね五裂稀に四裂六裂或は七乃至十裂し、時としては全く離れたる五乃至十箇の花弁より成る。雄蕊は花冠の裂片と同數二倍或は三倍なり。子房は上生或は半

下生にして五乃至二室を有し、單體の花柱を具ふ。果實は肉果或は乾果なり。種子は胚乳を有す。

此の科は殆ど四百種の植物より成りて熱帯及び温帯地方に産す。

效用 此の科には藥用材用油料觀賞等に供するものあり。あんそくかう安息香は藥用に供し、えごのきはくらんぼくはひのき等は材用となし、えごのきはくらんぼく等の種子より油を搾り、又是等の植物を觀賞用とし



柿樹科

はひのき

て栽培す。

第二 柿樹科

此の科の植物は木本にして托葉なき單葉を互生し、通常結實する花と結實せざる花とを生ず。萼は三乃至七裂し、結實する花に於ては宿存す。花冠は三乃至七裂す。雄蕊は花冠の裂片と同數或は三倍乃至四倍なり。子房は上生にして三乃至十二室を有し、各室に一箇或は二箇の胚珠を含む。果實は漿果にして胚乳ある種子を有す。

第九百八十八圖



此の科は凡そ三百二十種より成り、重に亞細亞の熱帶地方に産す。效用 此の科の植物は通常黒色を帯びたる堅き心材を有し、此の材を建

赤鐵科

築器具等の用に供す。又此の科の植物には食用に適したる美果を生ずるものあり、澁汁を採るべき果實を生ずるものあり。こくたんかき柿しなのがき等良材を生じ、かきは美果を結び、しぶがきかきの一種しなのがき及びこくたんの果實より澁汁を採る。

第三 赤鐵科

此の科の植物は木本にして概ね乳様の汁液を含み、托葉なき堅き單葉を互生し、兩性花を生ず。萼は四乃至八裂して宿存し、花冠は四乃至八裂し或は萼の裂片の數の二倍或は三倍に分裂す。雄蕊は定數より成り、其の半數は不完全にして花粉を生ぜず。子房は上生にして四乃至十二室を有し、各室に一胚珠を含む。果實は漿果にして種子は胚乳を有せず、或は少量の胚乳を有す。

此の科は凡そ六百種の植物より成り、熱帶及び亞熱帶地方に産す。

效用 此の科には良材を有するもの、グッタペルカと稱する一種の彈性護膜を生ずるもの等あり。あかてつ(赤鐵)の如きは良材を有し、グッタペルカの



櫻草類

きの乳様液より「グッタペルカ」を製す。

第八目 櫻草類

此の目の植物は柿樹類に酷似せる花を有すれども、特立中央胎座或は脚生胎座を具へたる一室の子房を生ずるを以て異なりとす。

此の目を紫金牛科

磯松科及び櫻草科の

三科に分つ。

第一 紫金牛科

此の科の植物は木本にして概ね小點を具へたる革質の單葉を生ず。此の葉は托

紫金牛科

第九百九十九圖



磯松科

葉を有せず。萼及び花冠は四裂或は五裂す。雄蕊は花冠の筒部或は咽部に著生し、概ね花冠の裂片と同數にして之に對生す。子房は上生或は下生にして一室を有し、脚生或は特立中央胎座を具ふ。果實は核果或は漿果なり。種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ一千種の植物より成り、重に熱帶地方に産す。

效用 此の科には觀賞用に供せらるるものあり、**やぶかうじ**、**紫金牛**、**まんりやう**等は觀賞用植物なり。

第二 磯松科

此の科の植物は草本或は小灌木にして托葉なき單葉を生ず。花は兩性にして各花の下に三乃至二箇の苞を具ふ。萼は五裂し、乾燥して宿存す。花冠は五裂し、或は離れたる五花瓣より成る。雄蕊は五箇ありて花冠の裂片に對生す。子房は一室にして脚生胎座を具へ、一箇の胚珠を有す。果實は乾果にして胚乳ある種子を含む。

此の科は凡そ二百六十種の植物より成り、重に海濱に産す。**いそまつ**、**磯**



櫻草科

松はまさじ等は本邦の海岸に産す。東郷草は遼東半島の海岸に生ずる草本にしてはまさじに似たるものなり。

效用 此の科には觀賞用に供するものあり、いそまつはまかんさしアルメリアの如きは觀賞用として栽培せらる。

第三 櫻草科

此の科の植物は托葉なき葉を生ず。花は完全にして整齊なり。萼は通常五裂し、稀に四乃至九裂して宿存す。花冠は通常五裂し、稀に四乃至九裂し、雄蕊は花冠の裂片と同數にして之に對生す。子房は上生或は稀に半下生にして一室を有し、特立中央胎座を具ふ。果實は蒴にして胚乳ある種子を有す。

此の科は凡そ五百種の植物より成り、重に温帯及び寒帯地方に産す。

效用 此の科には觀賞用に供するもの多し、然れども有毒なる汁液を含むものあり。さくらさうくりんさうくされだまとの等を觀賞用植物なり、然れどもさくらさうくりんさう等の汁液は有毒なり。

雙角葇類

第九目 雙角葇類

此の目の植物は概ね四或は五の數より成れる萼片及び花瓣を有し、雄蕊は花冠の裂片と同數或は其の二倍ありて概ね花冠に著生せず、或は稀に花冠に著生す。花粉粒は往々四箇づつ結合す。雌蕊は二乃至多數の心皮より成り、多くは上生子房を具ふ。

此の目を岩梅科及び石南科の二科に分つ。

岩梅科

第一 岩梅科

此の科の植物は草本或は小灌木にして托葉なき單葉を生ず。花は整齊にして完全なり。萼は五裂して宿存し、花冠は五裂す。雄蕊は五箇ありて花冠に著生し、結合せざる花粉粒を有す。子房は上生にして三室を有す。果實は蒴にして胚乳ある種子を含む。

此の科は凡そ十二種の植物より成り、本邦及び北亞米利加等に産す。

效用 此の科には觀賞用に供するものあり。例へばいはかがみいはらめ(岩梅)等なり。



石南科

第二 石南科

此の科の植物は木本或は草本にして緑色の尋常葉或は緑色ならざる鱗状葉を生ず。萼は通常四裂或は五裂し、花冠は通常四裂或は五裂し、雄蕊は通常花冠の裂片の数の二倍あり、或は稀に花冠の裂片と同數或は二倍より少し、其の同數なるものは必ず雙角状の附屬物を具ふ。子房は通常上生、稀に下生にして四乃至五室を有す。果實は蒴漿果或は核果なり。種子は概ね胚乳を有す。

此の科は凡そ一千四百種の植物より成り、重に温帯及び熱帯地方に産す。此の科を分ちて鹿蹄草亞科水晶蘭亞科石南亞科及び越橘亞科の四亞科となす。

鹿蹄草亞科

(第一) 鹿蹄草亞科

此の亞科の植物は草本或は木本なり。萼は子房に著生せず。花冠は殆ど離れたる花瓣より成る。

例、リヤウブイチャクサウ鹿蹄草、ウメガササウ等。

水晶蘭亞科

(第二) 水晶蘭亞科

此の亞科の植物は寄生植物にして緑色ならざる鱗状葉を生ず。

例、ギンリようさう水晶蘭、しやくぢやうさう等。

石南亞科

(第三) 石南亞科

あせび

此の亞科の植物

は木本なり。萼は

子房に著生せず。

花冠は合瓣花冠な

り。

例、しやくなげ

(石南) つつじ類あせ

びはなひりのきい

はなし等。

(第四) 越橘亞科

越橘亞科

第 二 百 二 圖





此の亞科の植物は灌木或は小灌木なり。莖は子房に著生す。果實は肉果なり。

例、こけもも越橋つるこけももすのきはりがねかつら等。

效用 此の科には材用食用觀賞用藥用等に供するものあり。又有毒なるものあり。リやうぶあせびつつじ類ねぢき等は材用となり、こけももつるこけももすのき等の果實りやうぶの若き葉等は食用となり、つつじ類しやくなげあせび等は觀賞用に供し、ウヴァウルシの如きは藥用となす。又あせびはなひりのき等は著名なる有毒植物なり。

### 第四章 離瓣類

#### 第二亞綱 離瓣類

#### 第一目 荳莢類

此の目の植物は概ね五の數より成れる萼片及び花瓣を有す。雄蕊は通常十箇稀に一乃至多數ありて雌蕊周位なり。雌蕊は一箇の心皮より成り

荳莢類

合歡科

て上生子房を有し、果實は莢なり。葉は概ね複葉にして托葉を具ふ。

此の目の植物を合歡科雲實科及び荳科の三科に分つ。

#### 第一 合歡科

「アラビアゴム」のき

第二百一圖



此の科の植物は通常木本稀に草本にして葉枕を具へたる葉柄を有す。花は整齊にして概ね頭狀花序或は穗狀花序に排列す。萼は四裂或は五裂し、花瓣は四箇或は五箇あり、全く離生するか或は結合す。

雄蕊は概ね花瓣の二倍或は數倍ありて離れたる花絲を有す。種子は概ね胚乳を有せず、甚だ稀に之を有す。

此の科は凡そ一千七百種の植物より成り、重に熱帶地方に産す。



效用 此の科にはアラビア護謨を産するものあり、薬用或は材用となすものあり、又觀賞用に供するものあり。アラビアゴムのきよりはアラビア護謨を探り、アカシアあせんやくは薬用となし、ねむのき合歡は材用及び觀賞用となし、ねむりごさきんがふくわんぎんがふくわん及びアラビアゴムのき類の植物は觀賞用として栽培す。

雲實科

第二 雲實科

此の科の植物は木本にして直立し或は上昇す。花は假蝶形花冠或は殆ど整齊なる花冠を有し、總狀花序或は穗狀花序に排列す。萼は通常五裂し、雄蕊は十箇或はそれより少數あり、花糸は概ね離生す。種子は胚乳を有せず或は之を有す。

此の科は凡そ一千四百種の植物より成り、重に熱帯に産す。

效用 此の科には染料薬用材用觀賞用或は食用等に供するものあり。すはう、ログウッド等の材は染料に供し、センナはぶさう、コバイバルサムのき、タマリンド等は薬用となし、さいかちの如きは材用となし、はなずはう

荳科

あづき

じやけついはら雲實、こはのセンナ、さいかち等は觀賞用となし、又さいかちの葉いなごまめの果實等は食用に供し、又かはらけつめいは茶の代用となす。

第二百二圖



第三 荳科

此の科の植物は草本或は木本にして直立し或は上昇す。花は蝶形花冠を有し、萼は五裂し、雄蕊は十箇ありて通常單體或は二體をなし、稀に離れたる花糸を有す。種子は胚乳を有せず或は之を有す。

此の科は凡そ七千種の植物より成り、熱帯温帯及び寒帯の諸部に産す。



效用 此の科には食用及び飼料に供するもの多く、又藥用材用纖維用染料肥料及び觀賞用に供するものあり。だいづゑんどうそらまめあづきいんげんまめふぢまめささげなんきんまめ等は食用となし、くすの地下部よりは澱粉を採り、前記の諸植物及びつめくさ類うまごやし等は飼料となし、かんだうキノのきカラバルまめ等は藥用となし、したんいぬゑんじゆゑんじゆ等は



は材用となし、ふぢくすくらら等の莖の内皮より纖維を採り、インドあるい

圖三百二第

ぬゑんじゆ等は染料となし、げんげしろつめくさ等は肥料となし、はぎふぢせんたいはぎたぬきまめ等は觀賞用として栽培す。

第二目 薔薇花類

此の目の植物は木本或は草本にして整齊なる花を生ず。葉は單葉或は複葉にして通常托葉を具ふ。萼は五裂或は四裂し花瓣は萼の裂片と同數なり。雄蕊は通常多數ありて雌蕊周位なり。雌蕊は一箇或は數箇の心皮より成り、上生或は下生子房を有す。果實は核果、梨果、瘦果、蓇葖果等なり。種子は胚乳を含まず或は甚だ稀に胚乳を具ふ。

此の目の植物を薔薇科の一科となす。

薔薇科

第一 薔薇科

此の科の植物は凡そ二千種より成り、重に溫帶及び熱帶地方に産す。

此の科を分ちて櫻亞科薔薇亞科梨亞科及び珍珠花亞科の四亞科となす。

櫻亞科

(第一) 櫻亞科

此の亞科の植物は總べて核果を生ず。



薔薇亞科

(第二) 薔薇亞科

此の亞科の植物は總べて閉果を生ず。

例、やまぶききいちごへびいちごオランダいちごきじむしろたいこん  
さうきんみづひきわれもからばら薔薇類等。

梨亞科

(第三) 梨亞科

此の亞科の植物は梨果を生ず。

例、まるめろくわりんくさほけなし梨りんごかいだうびは等。

珍珠花亞科

(第四) 珍珠花亞科

此の亞科の植物は破面乾果を生ず。

例、しもつけこてまりごめはな珍珠花やまぶきしようま等。

效用 此の科には食用果實を生ずるもの及び觀賞用となるもの多く、又  
藥用材用香水用等に供するものあり。ももうめあんずみざくらすももな  
しりんどまるめろびはオランダいちごしろはなのへびいちごきいちご等

瑞香類

第 二 百 四 圖



びは

の果實は食用となし、ばら類はまなすさくら類  
うめももにはうめかいだうごめはなこてまりざいふりほくさんざしやまぶきしろやまぶき等は觀賞用に供し、ラウロセラスス、くへんたう苦扁桃(クソ)、苦蘇、あんず等は藥用となし、さくら類うめあんずなし  
うらじろのきななかまどりんほく等は材用となし、ばら類はまなす等の花より香水を製し、又はまなすの根皮を染料に供す。

第三目 瑞香類



山茂榿科

此の目の植物は木本にして托葉なき葉を生じ、四の數より成れる花冠様の萼片を有し、花冠は概ね存在せず。雄蕊は一列或は二列に排列し、雌蕊は一箇の心皮より成り、子房は上生にして概ね一箇の胚珠を含む。

此の目の植物を山茂榿科、胡頹子科及び瑞香科の三科に分つ。

第一 山茂榿科

此の科の植物は概ね常緑葉を生じ、花は概ね兩性にして鑷合様に排列せる萼片或は萼の裂片を有す。雄蕊は萼片或は萼の裂片と同數にして之に對生す。果實は閉果或は裂果にして種子は胚乳を有せず。

此の科は一千餘種の植物より成り、重に濠洲及び南部亞非利加に産す。

效用 此の科には材用及び觀賞用に供するもの多し。やまもがし山茂榿は本邦の産にして材用及び觀賞用となす。

第二 胡頹子科

此の科の植物は落葉或は常緑葉を生じ、葉及び若き莖は銀色或は褐色の鱗を以て被はる。花は單性或は兩性にして覆瓦様に排列せる萼片或は萼

胡頹子科

なつぐみ

圖 五 百 二 第



の裂片を有す。雄蕊は萼片或は萼の裂片と同數にして之と互生し、若くは萼片或は萼の裂片の二倍あり。果實は成長して肉質となれる萼の脚部によりて

被はれ、種子は少量の胚乳を含む。

此の科は凡そ十七種の植物より成り、温帯及び熱帯地方に産す。

效用 此の科には食用果實を生ずるもの多く、又觀賞用として栽培する



瑞香科

ものあり。どみ類の果實は食用に供す、又なはしろどみ胡頹子(は美麗なる常綠葉を有するを以て觀賞用となす。

第三 瑞香科

が ん び



圖 六 百 二 第

果實は堅果、核果漿果或は稀に蒴なり。種子は胚乳を有せず、或は少量の胚乳を有す。此の科は凡そ四百六十種の植物より成り、温帯及び熱帶地方に産す。

此の科の植物は強韌なる内皮を有し、苛烈の汁液を含み、革質の全邊葉を有す。花は通常兩性にして筒狀の萼を有す。萼は整齊にして花冠様をなし、覆瓦様に排列せる裂片を有す。雄蕊は二箇、四箇或は八箇あり、其の四箇なるものは萼の裂片と互生す。

み つ ま た



圖 七 百 二 第

もどきおにしはり等は觀賞用に供す。又きやら伽羅は著名なる薰香料植物なり。

第四目 蒲桃花類

蒲桃花類

效用 此の科の植物は苛烈の汁液を有するを以て有毒なれども強韌なる良質の内皮を有するを以て總べて製紙の料に供すべし、又觀賞用に供するもの多し。

が ん び 類 み つ ま た 等は製紙の料に供し、ちんちやうげ(瑞香)ふぢ



此の目の植物は概ね葉を對生或は輪生し、花は兩性にして通常下生子房を有し、萼片及び花瓣は概ね四或は五の數より成り、稀に二乃至十六の數より成る。雄蕊は定數或は不定數なり。雌蕊は結合せる心皮より成りて數室の子房を有す。

此の目の植物を分ちて桃金娘科野牡丹科千屈菜科紅樹科使君子科蟻塔科及び柳葉菜科の七科となす。

桃金娘科

第一 桃金娘科

此の科の植物は概ね木本にして通常小點を具へたる葉を生ず。萼は概ね四或は五裂し、花瓣は通常四箇或は五箇ありて覆瓦様に排列し、雄蕊は多數或は花瓣の二倍或は稀に花瓣と同數あり。子房は下生にして一乃至六室を有し、單體の花柱及び柱頭を具ふ。果實は肉果或は乾果なり。種子は胚乳を有せず。

此の科は凡そ二千七百五十種の植物より成り、重に熱帯に産す。效用 此の科には藥用材用或は觀賞用に供するものあり。又食用果實

第 二 百 八 十 八 圖



ざくろ  
一、花を有する枝  
二、果實

を生ずるものあり。ちやうじ、カエブチ、ざくろ等は藥用となし、ユーカリ類は材用となし、てんにんくわ桃金娘、ふとももざくろはんじらう等は觀賞用となし、又ふとももざくろはんじらう等の果實は食用に供す。



野牡丹科

第二 野牡丹科

此の科の植物は木本或は草本にして小點なき葉を生ず。萼は五裂四裂、六裂或は三裂し、花瓣は萼と同數にして回旋様に排列す。雄蕊は花瓣と同數或は其の二倍あり。葯は通常孔開し、子房は上生或は下生にして數箇の室を有す。果實は乾果或は肉果なり。種子は胚乳を有せず。

此の科は凡そ千八百種の植物より成り、重に亞米利加の熱帶地方に産す。  
效用 此の科には觀賞用に供するもの多し、のぼたん(野牡丹)くさのぼたんはしかん等は觀賞用植物なり。

千屈菜科

第三 千屈菜科

此の科の植物は草本或は木本にして托葉なき葉を生ず。花は兩性にして概ね整齊稀に不整齊なり。萼は宿存し、花瓣は萼の裂片と互生し、稀に存在せず。雄蕊は花瓣と同數にして之と互生し、或は花瓣の二倍若くは三倍なり、甚だ稀に花瓣より少數なり。子房は上生にして一室二室或は六室を有し、概ね多數の胚珠を含む。果實は蒴なり。種子は胚乳を有せず。

紅樹科

第二百九圖



みそはぎ

此の科は凡そ四百五十種の植物より成り、多數は熱帶地方に産し、少數は温帶地方に産す。

效用 此の科には觀賞用に供

するものあり。みそはぎ千屈菜さるすべり等の如き是なり。

第四 紅樹科

此の科の植物は木本にして通常托葉ある單葉を生ず。花は兩性なり。萼は三乃至十四裂し或は全邊にして宿存す。花瓣は萼の裂片と同數にして之と互生す。雄蕊は概ね花瓣の二倍三倍或は四倍あり、稀に花瓣と同數なり。子房は通常下生にして一乃至六室を有す。果實は閉果或は稀に裂



果にして種子は胚乳を有せず、或は之を有す。此の科の植物の特徴は果實  
が未だ母植物より脱落せざる間に其の内の種子が萌發して長き幼根を果  
實外に突出するにあり。

此の科は凡そ六十種の植物より成り、重に熱帯に産す。

效用 此の科の植物の樹皮を染料及び鞣皮料に供す。をひるぎ一名た  
んがら(紅樹)の如き是なり。

使君子科

第五 使君子科

此の科の植物は木本にして托葉なき葉を生ず。花は兩性或は單性なり。  
萼は四裂或は五裂し、花瓣は萼の裂片と同數にして之と互生す。雄蕊は花  
瓣と同數或は其の二倍なり、甚だ稀に三倍なり。子房は下生にして一室を  
有し、果實は閉果にして種子は胚乳を有せず。

此の科は凡そ四百五十種の植物より成り、熱帯地方に産す。

效用 此の科の植物には樹皮を染料及び鞣皮料に供するものあり。又  
觀賞用となるものあり。しくんし使君子は東印度の産にして觀賞用植物

蟻塔科

第六 蟻塔科

なり。

此の科の植物は通常草本にして往々水中に生ず。葉は托葉を有せず。  
花は兩性或は單性なり。萼は概ね四裂し、花瓣は萼の裂片と同數にして之  
と互生し或は存在せず。雄蕊は萼の裂片と同數にして之と對生し或は其  
の二倍なり、或は稀に一箇なり。子房は下生にして一乃至四室を有し、各室  
に一胚珠を含む。果實は堅果に類し、胚乳ある種子を含む。

此の科は凡そ一百六十種の植物より成り、温帯及び亞熱帯地方に産す。  
本邦に普通なるものはありのたふ蟻塔なり。

效用 此の科には著しき效用を有するものなし。

柳葉菜科

第七 柳葉菜科

此の科の植物は草本或は灌木にして托葉なき單葉を生ず。花は兩性に  
して概ね整齊なり。萼は通常四裂し、花瓣は萼の裂片と同數にして之と互  
生す。雄蕊は花瓣と同數にして之と互生し、或は其の二倍なり、或は稀に花



瓣より少數なり。子房は下生にして概ね四室稀に二室を有し、果實は蒴漿果或は堅果狀なり。種子は通常胚乳を有せず。

まつよひぐさ

第 二 百 十 圖



此の科は凡そ四百七十種の植物より成り、重に温帯及び亞熱帯地方に産す。

さまつよひぐさやなぎらんあかはな(柳葉菜)等は觀賞用植物なり。つりうきさう(フクシア)つきみどら(つりうきさ)の果實まつよひぐさの根等は食用に供す。

第五目 西蕃蓮類

西蕃蓮類

秋海棠科

第 二 百 一 十 圖



しうかいだう

此の目に於ては雌蕊は三箇の結合せる心皮より成り、子房は一室にして側膜胎座を具ふるか或は數室なり數室の子房を有する植物は斜形葉を生ず。此の目を分ちて秋海棠科及び西蕃蓮科の二科となす。

第一 秋海棠科

此の科の植物は草本或は小灌木にして托葉ある斜形葉を互生す。莖は多汁にして膨大せる節を有し、葉も亦多汁なり。花は單性にして雌雄同株に生ず。雄花は通常四片より成れる花



蓋を有し、多数の雄蕊を具へ、雌花は二乃至八片より成れる花蓋を有し、三室の下生子房を具ふ。果實は蒴にして翅を有し、種子は多数ありて胚乳を有せず。

此の科は凡そ四百二十種の植物より成り、重に熱帯地方に産す。

效用 此の科には觀賞用に供するもの多し。しうかいだらう秋海棠類の如き是なり。

西蕃蓮科

第二 西蕃蓮科

此の科の植物は草本或は木本にして通常卷鬚により上昇す。葉は互生して托葉を具ふ。花は通常兩性甚だ稀に單性なり。萼は五裂し、其の咽部に多数の絲狀突起を有す。花瓣は五箇あり、稀に存在せず。雄蕊は概ね五箇ありて單體をなす、稀に多数あり。子房は上生にして柄を有し、一室なり。果實は漿果或は蒴なり。種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ三百九十種の植物より成り、重に亞非利加及び亞米利加の熱帯地方に産す。

仙人掌類

仙人掌類

效用 此の科には觀賞用に供するものあり、とけいさう(西蕃蓮)の如き是なり。

第六目 仙人掌類

此の目の植物は多汁にして概ね針を有し、尋常の葉を生ずること稀なり。莖は肉質、多汁にして通常綠色を呈し、球狀柱狀、扁平狀等なり。花は兩性にして單生す。萼片及び花瓣は概ね多数ありて覆瓦様に排列す。雄蕊は多数ありて長さ花絲と丁字様葯とを有す。子房は下生にして一室を有し、側膜胎座を具ふ。果實は漿果なり。種子は多数ありて、通常胚乳を含ます。此の目の植物を仙人掌科の一科となす。

仙人掌科

第一 仙人掌科

此の科は凡そ一千五百種の植物より成り、重に亞米利加の熱帯及び溫帯地方に産す。

效用 此の科には食用果實を生ずるものあり。洋紅を生ずる小蟲を寄生せしむるものあり。又觀賞用に供するものあり。おほづつかにさぼて



虎耳草類

ん等は觀賞用植物なり。

第七目 虎耳草類

此の目の植物は概ね兩性花を有し、雄蕊は概ね二列をなし、雌蕊は二乃至數箇の離れたる或は結合せる心皮より成り、種子は多數あり。

此の目を分ちて、**篠懸木科**、**金縷梅科**、**虎耳草科**及び**景天科**の四科となす。

篠懸木科

第一 篠懸木科

此の科の植物は木本にして托葉を具へたる掌狀裂葉を互生す。花は單性にして雌雄同株に生じ、頭狀花序に排列す。雄花は少數の雄蕊を有し、雌花は四箇の心皮を具ふ。果實は閉果にして球狀に集り、宿存する花柱を具ふ。種子は少量の胚乳を有し或は之を有せず。

此の科は五六種の植物より成り、主に北亞米利加及び亞細亞に産す。

**效用** 此の科の植物は觀賞用或は並木用として栽培せらる、**すずかけ**のき(篠懸木)の如き是なり。

金縷梅科

第二 金縷梅科

此の科の植物は木本にして托葉ある葉を互生す。葉脈は通常羽狀なり。花は兩性或は單性にして頭狀花序或は穗狀花序に排列す。萼は四裂或は五裂し、花瓣は四箇或は五箇あり、或は存在せず。雄蕊は花瓣の數の二倍或は多數あり、花瓣の數の二倍なるときは花瓣に對生するものは鱗狀にして花粉を生ぜず。子房は下生にして二室を有し、二箇の花柱を具ふ。果實は蒴にして胚乳ある種子を有す。

此の科は凡そ五十種の植物より成り、熱帯及び温帶地方に産す。

**效用** 此の科には藥用材用或は觀賞用に供するものあり。それが**ふかう**(蘇合香)、**ふう**(楓)等は藥用に供し、**いすのき**の如きは材用となし、**まんさく**、**金縷梅**と**さみづき**、**ひらがみづき**等は觀賞用に供す。

虎耳草科

第三 虎耳草科

此の科の植物は草本或は木本にして葉を互生對生或は輪生す。花は兩性にして通常整齊、稀に不整齊なり。萼は通常五萼片より成り、萼片は離生し或は合生す。花瓣は通常五箇ありて萼片と互生し、甚だ稀に存在せず。



雄蕊は花瓣と同數にして之と互生し、或は花瓣の二倍若くは三倍なり、甚だ稀に不定數なり。雌蕊は通常二箇の心皮より成り、稀に一箇三箇或は五箇の心皮より成り、心皮は離生し或は合生す。果實は肉果或は乾果にして種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ六百五十種の植物より成り、熱帶・温帶及び寒帶地方に産す。此の科を酢栗亞科ずみな亞科紫陽花亞科及び虎耳草亞科の四亞科に分つ。

酢栗亞科

(第一) 酢栗亞科

此の亞科の植物は灌木にして托葉なき葉を互生し、雄蕊は五箇あり。子房は一室にして二箇の側膜胎座を具ふ。果實は漿果なり。

例、すどり(酢栗)、やしやびしやくまるすどり(グースベリー)、こまがたけすどりやぶさんざしざりこみ等。

ずみな亞科

(第二) ずみな亞科

此の亞科の植物は木本にして托葉なき葉を互生し、雄蕊は五箇あり。子

紫陽花亞科

(第三) 紫陽花亞科

此の亞科の植物は木本にして托葉なき葉を概ね對生す。雄蕊は十箇あり。子房は下生或は半下生にして通常三乃至五室を有す。果實は上部に於て裂開す。

例、あぢさゐ(紫陽花)のりうつぎあまぢやのきごとうづるうつぎひめらつぎはいくわうつぎ等。

虎耳草亞科

(第四) 虎耳草亞科

此の亞科の植物は草本にして概ね葉を互生す。雄蕊は五箇或は十箇あり。子房は上生或は下生なり。

例、あわもりしようまちだけさしゆきのした(虎耳草)、たいもんじさうくろくもさうねこのめさううめはちさう等。

效用 此の科には食用果實を生ずるもの、糊料となすもの、飲料となすもの



ゆきのした



第 二 百 十 二 圖

りうづき等は材用となしあぢさゐあまぢやのきうづきゆきのしたあわもりしようまほいくわうづぎやしやびしやく等は觀賞用に供す。

景天科

第四 景天科

の材用或は觀賞用に供するもの等あり。まるすどりこまがたけすどり等は食用果實を生じのりうづきの樹皮よりは製紙の糊料を採りあまぢやのきの葉を飲料に用ひうづぎの

此の科の植物は多肉多汁の草本なるか或は小灌木にして肉質多汁の莖を有す。葉は肉質多汁にして托葉を有せず。花は整齊にして通常聚繖花序に排列す。萼は通常五萼片より成りて宿存し、花瓣は萼片と同數にして之と互生し、雄蕊は花瓣と同數にして之と互生し、或は花瓣の二倍なり。雌蕊は花瓣と同數の心皮より成り、其の心皮は離生し或は合生す。果實は蓇葖或は蒴なり。種子は少量の胚乳を有す。

此の科は凡そ五百種の植物より成り、温帯及び熱帯地方に産す。

效用 此の科には觀賞用に供するもの多し、べんけいさう景天、きりんさうみせばやをのまんねんどさいはれんげ等はなり。

繖形花類

第八目 繖形花類

此の目の植物は兩性花を有し、萼片、花瓣及び雄蕊は五或は四の數より成り、萼は不十分に發育し、花冠はよく發育す。雌蕊は通常二箇の結合せる心皮より成り、子房は下生にして各室に一箇の胚珠を含む。花は概ね繖形花序に排列す。

第六篇 植物の分類 第四章 繖形類

四一七



山茱萸科

此の目を分ちて山茱萸科五加科及び繖形科の三科となす。

第一 山茱萸科

此の科の植物は通常木本稀に草本にして托葉なき葉を概ね對生す。花は通常兩性にして聚繖花序に排列し、繖狀頭狀繖房狀或は圓錐狀等をなす。其の繖狀或は頭狀に排列するものは通常著色せる總苞を有し、繖房狀に排列するものは總苞を具へず。萼は四裂し、花瓣は四箇あり。雄蕊は四箇ありて花瓣と互生す。子房は通常二室を有し、單體の花柱を具ふ。果實は核果にして種子は胚乳を有す。

此の科は一百餘種の植物より成り、歐羅巴亞細亞及び亞米利加の温帶地方に産す。

效用 此の科には材用及び觀賞用に供するものあり。みづきやまほうしあをき等は材用となし、さんしゆゆ(山茱萸)あをきみづきやまほうしごぜんたちはな等は觀賞用に供す。

五加科

第二 五加科

此の科の植物は通常木本稀に草本にして托葉なき葉を概ね互生す。花は通常兩性にして概ね繖形花序或は頭狀花序に排列し、此の花序は往々集りて總狀花序或は圓錐花序等をなす。萼は全邊なるか或は鋸齒を有し、花瓣は概ね五箇あり、稀に二箇四箇十箇或はそれより多數なり。雄蕊は花瓣と同數にして之と互生し或は稀に花瓣の二倍若くは不定數なり。子房は二乃至十五室を有し、花柱は概ね離生し、稀に合生す。果實は肉果或は乾果なり。種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ六百六十種の植物より成り、熱帶地方に多し。

效用 此の科には薬用、食用、材用或は觀賞用に供するものあり。にんじん(人參)とちばにんじん等は薬用となし、うどうこぎ(五加)たらきのき等は食用となし、はりぎりたらきのきこしあぶらいものきつうだつぼく等は材用に供す。つうだつぼくは莖の髓より薄片を作り、之を紙の代用となし或は之を以て裝飾品を製す。かくれみのきづたやつて等は觀賞用として栽培す。

第三 繖形科

繖形科



此の科の植物は通常草本稀に木本にして托葉なき葉を互生す。葉の下部は概ね廣がりて莖を抱く。花は繖形花序に排列し、此の花序は概ね再び繖形に集りて複繖形花序をなす。萼は全邊なるか或は五箇の鋸齒を有す。花瓣は五箇あり、往々二裂す。雄蕊は五箇ありて花瓣と互生す。子房は二室を有し、離れたる二箇の花柱を具ふ。果實は雙懸果なり。種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ二千六百種の植物より成り、温帶地方に多し。

此の科を胡蘿蔔亞科、變豆菜亞科及びつぼくさ亞科の三亞科に分つ。

胡蘿蔔亞科

(第一) 胡蘿蔔亞科

此の亞科の植物に於ては果實は柔軟なる蜂窩組織より成れる内果皮を有し、往々木質をなせる上皮下の細胞によりて堅果状をなす。

例、しやくどくにんじんどくぜりみしまさいこ、オランダみつば、オランダぜりいぶきぜり、だけぜりさはぜりいぶきぼうふううみきやうたうきあぎにんじん、胡蘿蔔、ぼうふう等。

變豆菜亞科

(第二) 變豆菜亞科

此の亞科の植物に於ては果實は柔軟なる蜂窩組織より成れる内果皮を有し、花柱は長くして頭狀の柱頭を有す。

例、うまのみつば(變豆菜)。

つぼくさ亞科

(第三) つぼくさ亞科

此の亞科に於ては果實は纖維組織より成れる木質の内果皮を有す。

例、つぼくさちどめどさ等。

效用 此の科には食用となるもの多く、薬用となるもの或は有毒なるものあり、又觀賞用に供するものあり。にんじん、みつば、ぜり、オランダみつば、オランダぜりはまぼうふう等は食用となし、アンモニアクム、うみきやうあぎ等は薬用に供す。どくにんじんどくぜり、ぼたんぼうふう等は有毒植物なり。うみきやうこえんどもろ等は觀賞用に供す。

第九目 品字果類

品字果類

此の目の植物は單性花を有し、花は概ね花冠を缺き或は全く花被を缺く。



岩高蘭科

雌蕊は通常三箇の心皮より成り、心皮は結合して概ね品字形を成す。  
此の目を分ちて**岩高蘭科**、**黃楊科**、**水馬齒科**及び**大戟科**の四科となす。

第一 岩高蘭科

此の科の植物は常緑小灌木にして托葉なき細き全邊葉を生ず。花は整齊・單性にして葉腋に生ず。萼は三箇或は二箇の萼片より成りて宿存す。花瓣も亦宿存す。雄蕊は二箇或は三箇あり。子房は上生にして二乃至九室を有し、果實は核果にして種子は胚乳を有す。

此の科は四五種の植物より成り、寒帯及び温帯地方に産す。

**效用** 此の科の植物は食用果實を生じ、又觀賞用に供す。 **がんかうらん**

(岩高蘭は觀賞用として栽培し、又其の果實を食用に供す。)

黃楊科

第二 黃楊科

此の科の植物は木本或は多年生草本にして托葉なき常緑葉を生ず。花は單性にして雌雄同株に生じ、孰れも花瓣を有せず。雄花は四裂せる萼と萼の裂片に對生せる四雄蕊とを有し、雌花は四乃至十二裂せる萼と二室乃至四室をなせる上生子房とを有す。花柱は二箇乃至四箇あり。果實は乾果或は肉果にして種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ三十種の植物より成りて温帯及び亞熱帶地方に産す。

**效用** 此の科には良材を有するものあり。

又觀賞用に供するものあり。

つげ(黃楊類)の植物は印判、櫛等に適したる良材を有し、又つげ類及びふつきさうを觀賞用に供す。

第三 水馬齒科

此の科の植物は小草本にして全邊の單葉を對生し、多くは水中に生ず。

水馬齒科

第二百三十三圖



つげ



花は單性・小形にして葉腋に單生し、花被を有せず。雄花は一箇或は二箇の雄蕊を有し、雌花は四室の上生子房を有し、各室に一箇の胚珠を含む。果實は閉果にして種子は胚乳を有す。

たりこま

圖 四 十 百 二 第



大戟科

此の科は二十六種の植物より成り、亞細亞・歐羅巴及び北亞米利加に産す。其の本邦に普通なるものはみづはこべ(水馬齒及びあわごけなり)。

效用 此の科には有用なるものなし。

第四 大戟科

此の科の植物は木

圖 五 十 百 二 第



本或は草本にして往々苛烈の乳様液を含む。葉は互生對生或は輪生し、單葉或は稀に複葉をなし、托葉を有し或は之を有せず。花は單性にして雌雄異株或は同株に生ず。萼は通常三乃至五箇の結合せる萼片より成り、或は稀に存在せず。

あぶらぎり

花冠は存在し或は存在せず。花瓣は若し萼の裂片と同數なる時は之と互生す。雄花は一箇或はそれより多數の雄蕊を有し、雄蕊は箇々離生し或は結合して單體



若くは多體をなす。雌花は上生子房を有し、子房は有柄或は無柄にして一室二室三室或は多室を有す。花柱は子房の室數と同數なるか或は存在せず。果實は乾果或は肉果にして種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ四千五百種の植物より成り、温帯及び熱帯地方に産す。

效用 此の科には薬用、彈性護膜料、油料、材用、觀賞用等に供するものあり、然れども有毒なるもの多し。「カスカリラ」「カマラ」「たうごまはづ(巴豆)ほるとさう等は薬用

たかとらたい

に供し、「ヘベアゴム」のき一名「バラゴムのき」及び之に類似せる植物より彈性護膜を製し、「あぶらぎり」「なんきんはぜ」等

第二百六十圖



鼠李類

の種子より油を搾り、ゆづりはあかめがしはあぶらぎり等は材用となし、ゆづりはあかめがしはしやうじやうほくなんきんはぜ等は觀賞用に供す。あぶらぎりほるとさうたかとうらたいなつとうらたい等は有毒植物なり。

第十目 鼠李類

此の目の植物は概ね木本にして整齊なる兩性花を有し、花は種々の盤を具ふ。萼片及び花瓣は四或は五の數より成り、雄蕊は概ね花瓣と同數なり。雌蕊は二乃至五箇の結合せる心皮より成り、概ね上生子房を有す。

此の目を分ちて泡吹科鼠李科葡萄科幌々木科冬青科海桐花科省沽油科及び衛矛科の八科となす。

第一 泡吹科

此の科の植物は木本にして托葉なき葉を互生す。花は小形にして概ね圓錐花序に排列す。萼は四裂或は五裂し、其の裂片は覆瓦様に排列す。花瓣は四箇或は五箇あり、整齊或は不整齊にして覆瓦様に排列す。雄蕊は四箇或は五箇ありて花瓣と對生す。子房は二室或は三室を有し、各室に一箇

泡吹科



鼠李科

或は二箇の胚珠を含む。果實は乾果或は肉果なり。種子は胚乳を有せず、或は薄き層をなせる胚乳を有す。

此の科は凡そ七十種の植物より成り、重に熱帶地方に産す。

效用 此の科には材用及び觀賞用に供するものあり。あわぶき泡吹の如きは材用となし、あをかづらの如きは觀賞用として栽培す。

なつめ

第二 鼠李科

此の科の植物は木本にして往々莖針を生ず。葉は單葉にして通常互生し、托葉は小形なるか針形をなすか或は存在せず。花は整齊小形にして概ね綠色を帯ぶ。萼は五裂し、其の裂片は

圖七十七百二第



葡萄科

鑷合様に排列し、花瓣は四箇或は五箇あり、内向鑷合様に排列す、或は稀に存在せず。雄蕊は四箇或は五箇ありて花瓣と對生す。子房は上生し或は盤中に埋存し、二乃至四室を有し、各室に一箇或は二箇の胚珠を含む。果實は肉果或は乾果なり。種子は通常少量の胚乳を有す。

此の科は凡そ五百種の植物より成り、溫帶及び熱帶地方に産す。

效用 此の科には食用果實を生ずるもの、材用或は觀賞用に供するもの等あり。なつめの如きは果實を食用に供し、けんぼなし、くろかんぼ、くろらめもどき、鼠李等は材用となし、くまやなぎはまなつめ等は觀賞用に供す。

第三 葡萄科

此の科の植物は木本或は草本にして卷鬚により上昇す。葉は單葉或は複葉にして莖の上部にあるものは互生し、下部にあるものは對生す。托葉は存在し或は存在せず。花は整齊小形にして綠色を帯び、兩性或は單性なり。萼は淺く四裂或は五裂し或は全邊なり。花瓣は四箇或は五箇ありて鑷合様に排列し、早く脱落す。雄蕊は四箇或は五箇ありて花瓣と對生す。



幌々木科

子房は上生にして盤上に位し、二乃至八室を有し、各室に一箇或は二箇の胚珠を含む。果實は漿果にして種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ四百八十種の植物より成り、温帯及び熱帯地方に産す。

效用 此の科には食用果實を生ずるものあり、又觀賞用に供するものあり。ぶどう、葡萄、やまぶどう、えびづる等の果實は食用及び釀酒用となし、つたかがみどさ等は觀賞用に供す。

第四 幌々木科

此の科の植物は木本にして托葉なき葉を互生し、花は小形、整齊にして葉腋に生じ、兩性或は單性なり。萼は概ね不明瞭にして淺く四乃至六裂す。花瓣は四乃至六箇ありて鑷合様に排列す。雄蕊は花瓣と同數なるか或は其の二倍若くは三倍なり。子房は通常一室或は稀に三室を有す。果實は核果或は堅果にして胚乳ある一箇の種子を含む。

此の科は凡そ百三十種の植物より成り、重に熱帯に産す。ぼろぼろのき(幌々木)は本邦の暖地に産す。

冬青科

效用 此の科には藥用材用等に供するものあり。

第五 冬青科

そよご

第二百八十八圖



々基部に於て結合す。雄蕊は花瓣と同數にして之と互生す。子房は上生にして二乃至八室を有し、各室に一箇の胚珠を含む。果實は肉果にして種子は胚乳を有す。

此の科の植物は木本にして托葉なき或は小形の托葉ある葉を生ず。花は小形にして葉腋より生じ、通常兩性稀に單性なり。萼は四乃至六箇の結合したる或は離れたる萼片より成り、花瓣は四乃至六箇ありて覆瓦様に排列し、往



此の科は凡そ二百八十種の植物より成り、温帯及び熱帯地方に産す。  
**效用** 此の科には材用、觀賞用、飲料、藥料等に供するものあり。いぬつげあを、はたそよご、冬青、たらえふもちのき等は材用となし、いぬつげ、うめもどきたらえふ等は觀賞用となし、パラグアイ、ちやばは葉を茶の代用に供し、もちのきたらえふ等の樹皮より烏糞を採る。

海桐花科

第六 海桐花科

此の科の植物は木本にして托葉なき單葉を互生す。花は整齊にして兩性なり。萼は四箇或は五箇の離れたる或は基部に於て結合したる萼片より成り、花瓣は四箇或は五箇ありて覆瓦様に排列す。雄蕊は花瓣と同數にして之と互生す。子房は上生にして完全なる二室を有するか或は不完全なる一乃至五室を有す。果實は蒴或は漿果にして種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ一百種の植物より成り、熱帯及び温帯地方に産し、濠州に最も多し。

**效用** 此の科には材用、觀賞用等に供するものあり。とべらのき、海桐花

省沽油科

第七 省沽油科

の如きは材用及び觀賞用となす。

此の科の植物は木本にして三箇の小葉より成れる複葉或は奇數羽狀複葉を對生す。花は整齊にして兩性或は單性なり。萼は花瓣様にして五裂し、花瓣は萼の裂片と同數にして覆瓦様に排列し或は存在せず。雄蕊は花瓣と同數にして之と互生し或は花瓣より多數通常八箇なり。子房は上生にして二裂或は三裂し、二乃至三室を有す。果實は漿果或は膜質膀胱狀の蒴等なり。種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ二十種の植物より成り、温帯及び熱帯地方に産す。

**效用** 此の科には材用或は觀賞用等に供するものあり。やまできみつばうつぎ、省沽油等は材用となし、又みつばうつぎは觀賞用に供す。

第八 衛矛科

衛矛科

此の科の植物は木本にして單葉を互生或は對生す。花は整齊、小形にして多くは兩性なり。萼は四箇或は五箇の離れたる或は結合したる萼片より



にしきぎ



一、花を有する枝  
二、果實を有する枝

り成り、花瓣は四箇或は五箇ありて覆瓦様に排列す。雄蕊は花瓣と同数にして之と互生す。子房は盤によりて圍まれ二乃至五室を有し、各室に概ね二箇の胚珠を含む。果實は漿果或は蒴なり。種子は胚乳を有す、或は之を缺く。

此の科は凡そ四百三十種の植物より成り、温帯及び熱帯地方に産す。  
 效用 此の科には材用、觀賞用等に供するものあり。まゆみにしきぎ、衛矛、こまゆみ等は材用となし、まゆみにしきぎ、こまゆみつるうめもどき、まさ

第 二 百 十 九 圖

無患樹類

第十一目 無患樹類

きつるまさき等は觀賞用に供す。

此の目の植物は通常木本にして概ね四或は五の數より成れる花瓣を有し、雄蕊は花瓣の二倍或はそれより少數なり。盤は若し存在する時は雄蕊の外にあり。雌蕊は二乃至四箇の心皮より成り、上生子房を有す。

此の目を分ちて遠志科、槭樹科及び無患樹科の三科となす。

遠志科

第一 遠志科

此の科の植物は草本或は木本にして全邊の單葉を互生し或は對生し、花は不整齊にして兩性なり。萼は離れたる五萼片より成り、内部の二箇は大形にして花瓣様なり。花瓣は三箇或は五箇なり、稀に存在せず。雄蕊は八箇、五箇或は四箇ありて概ね單體をなす。子房は通常二室稀に一室或は三乃至五室を有す。果實は乾果或は肉果にして種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ七百八十種の植物より成り、温帯及び熱帯地方に産す。  
 效用 此の科には藥用に供するものあり。セネガ、ひめはぎ、遠志等は藥



槭樹科

用植物なり。

第二 槭樹科

此の科の植物は木本にして通常甘き汁液を含む。葉は托葉を有せずして對生す。花は整齊にして兩性なるか或は單性花を混ず。萼は通常五裂し、



第二百二十圖

往々四乃至九裂す。花瓣は萼の裂片と同數にして之と互生し、覆瓦様に排列す、或は存在せず。雄蕊は四乃至十二箇あり、最も多くの場合に於ては八箇なり。子房は上生にして二裂し、二室を有し、各室に二箇の胚珠を含む。果實は翅果なり。種子は胚乳を有せず。

無患樹科

此の科は凡そ一百二十種の植物より成り、温帶地方に多し。效用 此の科には材用及び觀賞用に供するもの多し。又製糖の料となすものあり。かへて槭樹はうちのかへてあさのはかへてみつてかへてうりはだかへてうりかへてやましはかへてときはかへて等は材用及び觀賞用に供し、さたらかへての汁液より砂糖を製す。

第三 無患樹科

此の科の植物は通常木本甚だ稀に草本なり。葉は概ね複葉稀に單葉にして互生或は對生し、托葉を有し、或は之を有せず。花は總べて兩性なるか或は單性花を混ず。萼は四箇或は五箇の離れたる若くは結合したる萼片より成り、花瓣は四箇或は五箇ありて覆瓦様に排列し、萼片と互生す、或は存在せず。雄蕊は八乃至十箇稀に五乃至七箇、甚だ稀に二十箇なり。子房は通常三室、稀に二室或は四室を有す。果實は肉果或は蒴なり。種子は胚乳を有せず。

此の科は凡そ一千五十種の植物より成り、温帶及び熱帶地方に産す。



漆樹類

效用 此の科には材用・食用・觀賞用等に供するものあり。又有毒なるもの多し。とちのきむくろじ(無患樹等)は材用となし、れいしりうがん等の假種被及びとちのきの種子は食用に供し、ふうせんかつらとちのきむくろじ等は觀賞用となす。

第十二目 漆樹類

此の目に於ては萼片及び花瓣は四或は五の數より成り、雄蕊は概ね花瓣の二倍なり。盤は雄蕊より内部に位す。雌蕊は離れたる或は結合したる心皮より成り、子房は上生す。

此の目を分ちて漆樹科・毒空木科・苦木科・棟科・蒺藜科及び芸香科の六科となす。

漆樹科

第一 漆樹科

此の科の植物は木本にして概ね托葉なき複葉を互生し、空氣に觸るれば黒色に變化する苛烈の汁液を含む。花は小形、整齊にして兩性或は單性なり。萼は三乃至七裂し、往々宿存す。花瓣は萼の裂片と同數にして概ね覆

毒空木科

瓦様に排列す、或は稀に存在せず。雄蕊は花瓣と同數にして之と互生し、或は花瓣の二倍若くはそれより多數なり。雌蕊は一室或は二乃至五室の子房を有するか或は五六箇の離れたる心皮より成る。果實は通常核果なり。種子は胚乳を有せず。

此の科は凡そ五百種の植物より成り、熱帯及び温帯地方に産す。

效用 此の科の植物には塗料となるべき汁液を有するもの蠟を含める果實を生ずるもの・食用果實を生ずるもの・材用となるもの等あり。うるしのきの汁液を漆と稱し、之を塗料となし、うるしのきはぜのき等の果實より蠟を製し、マンゴのきの果實を食用に供し、うるしのきやまうるしはぜのきぬるて等は材用となす。又うるしのき類の汁液は有毒なり。就中つたうるしは最も有毒なり。

第二 毒空木科

此の科の植物は灌木にして托葉なき平滑全邊の單葉を對生或は輪生す。花は兩性或は單性にして總狀花序に排列す。萼片は五箇ありて宿存し、花



瓣は五箇あり、肉質にして花後成長し、果實の主部を形成す。雄蕊は十箇あり、雌蕊は五乃至十箇の心皮より成り、各心皮は一箇の胚珠を含む。果實は閉果にして肉質の花弁によりて圍まる。種子は薄き胚乳を有するか或は之を有せず。

此の科は八種の植物より成り、總べて温帯地方に産す。

**效用** 此の科の植物は總べて有毒にして果實を被包する花瓣は特に有毒なり。どくうつぎは有毒植物中の著名なるものなり。

第三 苦木科

苦木科

此の科の植物は木本にして概ね托葉なき複葉を互生す。花は整齊にして單性或は兩性なり。萼は三乃至七裂し、花瓣は三乃至七箇ありて覆瓦様、回旋様或は鑷合様に排列す。雄蕊は花瓣の二倍或は花瓣と同數なり。雌蕊は二乃至五箇の離れたる或は結合したる心皮より成り、稀に一箇の心皮より成る。果實は通常核果稀に蒴果若くは翅果なり。種子は胚乳を有せず、或は之を有す。

此の科は一百二十五種の植物より成り、重に熱帯地方に産す。

**效用** 此の科の植物は總べて苦味質を含むを以て薬用或は驅蟲用に供するものあり。又此の科には材用觀賞等に供するものあり。クワ、シア、にはうるし等は薬用となし、にがき苦木は材用及び驅蟲用となし、にはうるしは觀賞用に供す。

第四 楝科

楝科

此の科の植物は木本にして概ね托葉なき複葉を互生す。花は整齊にして圓錐花序に排列し、兩性或は單性なり。萼は三乃至五裂し、花瓣は萼の裂片と同數にして覆瓦様回旋様或は鑷合様に排列す。雄蕊は概ね八箇或は十箇稀に五箇甚だ稀に十六乃至二十箇なり。子房は上生し、通常三乃至五室を有し、各室に一箇二箇或は稀に四箇六箇或はそれより多數の胚珠を含む。果實は核果漿果或は蒴果なり。種子は胚乳を有せず、或は之を有す。

此の科は凡そ六百七十種の植物より成り、重に熱帯地方に産す。

**效用** 此の科には材用觀賞用或は薬用等に供するものあり。ちやんち



蒺藜科

んせんたん種等は材用・觀賞用及び藥用に供す。

第五 蒺藜科

此の科の植物は草本或は木本にして托葉ある複葉を對生或は互生す。花は兩性にして整齊或は不整齊なり。萼は五箇或は四箇の離れたる或は結合したる萼片より成り、花瓣は五箇或は四箇あり、甚だ稀に存在せず。雄蕊は通常花瓣の二倍なり。子房は上生にして通常四室或は五室を有し、或は横隔膜によりて數室をなす。果實は通常蒴或は離果稀に閉果なり。種子は少量の胚乳を有し、或は之を有せず。

此の科は凡そ一百六十種の植物より成り、重に熱帶地方に産す。本邦にははまびし蒺藜と稱する草本あり。

芸香科

第六 芸香科

此の科の植物は通常木本稀に草本にして托葉なき單葉或は複葉を生ず。葉は透明の小點を有す。花は整齊にして兩性或は單性なり。萼は三乃至

効用 此の科には藥用に供するものあり。ゆさうぼくの如き是なり。

柑橘亞科

第 二 百 二 十 一 圖



五裂し、花瓣は萼の裂片と同數なり、或は存在せず。雄蕊は花瓣と同數、二倍或は數倍或は稀に少數なり。雌蕊は二乃至數箇の離れたる或は結合したる心皮より成り、子房は上生なり。果實は肉果或は乾果なり。種子は胚乳を有し、或は之を有せず。

此の科は凡そ九

百四十種の植物より成り、熱帶及び溫帶地方に産す。

此の科を分ちて柑橘亞科・黃蘗亞科及び芸香亞科の三亞科となす。

(第一) 柑橘亞科



黃蘗亞科

此の亞科の植物は柑果と稱する特別の果實を生ず。柑果は漿果の一種にして其の果肉は子房の内壁より突出せる細胞塊より成る。

例、みかん(柑)、たちばな(橘)、ゆず、だいだい、レモン、からたち等。

(第二) 黃蘗亞科

此の亞科の植物は核果或は翅果を生ず。

例、きはだ(黃蘗)、みやましきみ等。

(第三) 芸香亞科

此の亞科の植物は莖を生ず。

例、ヘンルーダ(芸香)、さんせうこくさぎはくせん等。

效用 此の科には食用果實を生ずるもの、薬用、香料、材用、觀賞用等に供するものあり。又此の科には有毒なるものあり。みかん類は食用果實を生じ、ヤボランヂ、ヘンルーダ、きはだ、ごしゆゆ等は薬用となし、さんせうみかん類は香料となし、さんせう類、きはだ等は材用となし、みかん類、みやましきみ、ヘンルーダ、はくせん等は觀賞用に供す。みやましきみこくさぎ等は

芸香亞科

嘴狀果類

は有毒植物なり。

第十三目 嘴狀果類

此の目に於ては花は兩性にして花葉は總べて五の數より成り、雄蕊は一列或は二列なり。雌蕊は結合せる心皮より成りて上生子房を有す。蜜腺は存在することあれども真正の盤は存在せず。

此の目を分ちて鳳仙花科、亞麻科、酢漿草科、金蓮花科及び牻牛兒科の五科となす。

鳳仙花科

第一 鳳仙花科

此の科の植物は草本にして多汁の莖を有し、托葉なき單葉を生ず。花は兩性にして不整齊なり。萼は三乃至五箇の不整齊にして著色せる萼片より成り、其の内大形の萼片は距を有す。花冠は五花瓣より成れども、往々合生して三花瓣より成れるが如くに見ゆ。花瓣の内一箇は他のものより大形なり。雄蕊は五箇あり。子房は五室を有し、各室に概ね多數の胚珠を含む。果實は概ね蒴にして烈しく裂開す。種子は胚乳を有せず。



此の科は凡そ二百二十種の植物より成り、重に熱帶地方に産す。  
效用 此の科には觀賞用に供するものあり。ほうせんくわ(鳳仙花)きつりふね等はなり。

亞麻科

第二 亞麻科

此の科の植物は通常草本稀に灌木なり。葉は單葉全邊にして互生對生或は輪生し、通常托葉を有せず、稀に之を有す。花は整齊にして兩性なり。萼は五箇、四箇或は三箇の萼片より成りて宿存す。花冠は五箇或は四箇の花弁より成りて回旋様に排列し脱落す。雄蕊は五乃至二十箇あり、基部に於て結合す。子房は五室、四室或は稀に三室を有し、各室に二箇の胚珠を含む。果實は蒴にして種子は胚乳を有し、或は之を有せず。

此の科は凡そ一百五十種の植物より成り、温帶地方に多し。

效用 此の科には纖維料、油料、觀賞用等に供するものあり。あま(亞麻)は纖維料、油料及び觀賞用となす。

酢漿草科

第三 酢漿草科

此の科の植物は通常草本稀に木本にして概ね酸性の汁液を含む。葉は通常複葉にして互生し、花は兩性にして整齊なり。萼は五裂し、花瓣は五箇ありて回旋様に排列す。雄蕊は花瓣の二倍あり。子房は五裂して五室を有し、果實は蒴或は漿果なり。種子は胚乳を有し、概ね假種皮狀の彈性ある皮を有し、其の皮の裂開によりて烈しく飛散す。

此の科は凡そ三百四十種の植物より成り、温帶及び熱帶地方に産す。

效用 此の科には觀賞用として栽培せらるるものあり。又食用果實を生ずるものあり。かたはみ酢漿草類の植物は觀賞用となし、ごれんし(五欸子)の果實は食用に供す。

金蓮花科

第四 金蓮花科

此の科の植物は多汁平滑の草本にして上昇す。初に生じたる葉は托葉を具へて對生し、後に生じたる葉は托葉を生ぜずして互生す。花は兩性にして距を有し不整齊なり。萼は五裂して宿存す。花瓣は五箇或はそれより少數なり。雄蕊は六乃至八箇あり。子房は三裂して三室を有し、各室に



一箇の胚珠を含む。果實は離果なり。種子は胚乳を有せず。

此の科は凡そ五十種の植物より成り、亞米利加に産す。

效用 此の科には觀賞用及び香味料に供するものあり。のうぜんはれ

げんのしょうこ

ん金蓮花は觀賞

用となし、又其の

芽及び若き果實

を香味料に供す。

第五 牻牛兒

科

此の科の植物

は草本或は灌木

にして概ね膨大

せる節を有し、葉

は對生或は互生

牻牛兒科

圖 二 十 二 百 二 第



し多くは托葉を具ふ。花は兩性にして整齊或は不整齊なり。萼は離れたる或は基部に於て結合したる五萼片より成り、花冠は通常五花瓣稀に四花弁より成り、花弁は概ね回旋様に排列す。雄蕊は通常花弁の二倍なり。雌蕊は五心皮より成り、子房は五裂して五室を有し、各室に二箇の胚珠を含む。果實は離果或は蒴にして種子は胚乳を有せず。

此の科は凡そ六百三十種の植物より成り、温帯及び亞熱帶地方に産す。

效用 此の科には觀賞用或は藥用に供するものあり。てんぢくあふひ

類は觀賞用として栽培し、げんのしょうこ牻牛兒苗は藥用となす。

第十四目 戴柱花類

戴柱花類

此の目に於ては花は兩性にして萼及び花冠を有し、萼片は鑷合様に排列し、花弁は往々回旋様に排列す。雄蕊は花弁と同數にして概ね分裂して多數となり、通常單體或は多體をなす。雌蕊は二箇以上の心皮より成り、子房は上生にして完全なる室を有す。

此の目を分ちて錦葵科、梧桐科及び田麻科の三科となす。



錦葵科

第一 錦葵科

此の科の植物は草本或は木本にして托葉ある單葉を互生す。葉身は通常掌狀脈を有す。花は兩性にして整齊なり。萼は通常五裂し、稀に三乃至四裂し、其の下に通常總苞を具ふ。花瓣は萼の裂片と同數なり。雄蕊は單體をなし、葯は腎臟形にして一室を有す。雌蕊は結合したる或は離れたる心皮より成る。果實は離果或は蒴なり。種子は胚乳を有し或は之を有せず。

此の科は凡そ九百種の植物より成り、熱帯及び温帯地方に産す。

效用 此の科には綿を生ずるもの及び纖維料・糊料・食用・藥用・觀賞用等に供するものあり。わた類の種子に生じたる毛を綿と稱し、之を織物及び其の他の用に供し、又わた類の種子より油を搾る。むくげ・いちび等の莖より纖維を採り、とろろあふひの根の糊を製紙の用に供し、オクラの若き果實或はをかのり・ふゆあふひの一種の葉等を食用となし、アルテアの如きは藥用に供し、もみぢあふひぜにあふひ錦葵・とろろあふひふよううきつりぼくた

梧桐科

第二百二十三圖



「ココア」のき  
一、枝  
二、花の縦斷  
三、種子

ちあふひ・むくげ等は觀賞用となす。

第二 梧桐科

此の科の植物は木本或は草本にして單葉或は複葉を互生す。花は兩性或は單性にして整齊若くは不整

齊なり。萼は五箇・四箇或は三箇の離れたる或は結合したる萼片より成る。花瓣は存在せず、或は萼片と同數あり。雄蕊は通常單體をなし、雌蕊は三乃至五箇稀に十乃至十二箇の離れたる或は結合したる心皮より成る。果實は蒴・蒴或は稀に肉果なり。種子は胚乳を有し或は之を有せず。此の科は凡そ六百六十種の植物より成り、重に熱帯地方に産す。

效用 此の科には飲料・食用・材用及び觀賞用等に供するものあり。「ココ



田麻科

圖 四 十 二 百 二 第

あまぎり



アのきの種子は菓子及び飲料となし、あまぎりは觀賞用植物にしてその材を種々の用に供し、樹皮より纖維を採り、種子を食用に供す。又ごじくわは觀賞用草本なり。

第三 田麻科

此の科の植物は通常木本稀に草本にして托葉ある單葉を生ず。花は通常兩性にして整齊なり。萼は通常五箇稀に四箇或は三箇の離れたる或は結合したる萼片より成り、花瓣は萼片と同數にして全邊なるか或は分裂し、稀に存在せず。雄蕊は多體をなすか或は離生し、子房は二乃至十室を有し、果實は乾果或は肉果

董菜類

圖 五 十 二 百 二 第

ほだいじゆ



效用 此の科には纖維料材用及び觀賞用等に供するものあり。しなのきつなそ等は纖維料となし、しなのきほるとのき等は材用となし、ほだいじゆの如きは觀賞用に供す。

第十五目 董菜類

なり。種子は胚乳を有し、或は稀に之を有せず。此の科は凡そ四百七十種の植物より成り、其の多數は熱帶地方に産す。しなのきからすのごま(田麻)等は本邦に普通なるものなり。



山茶科

圖六十二百二第



此の目に於ては萼片及び花瓣は五の數より成り、萼片は覆瓦様に排列す。雄蕊は花瓣と同數或はそれより多數なり。雌蕊は概ね三箇の結合せる心皮より成り、子房は上生なり。果實は概ね蒴なり。

つばき

此の目を分ちて山茶科、檉柳科、溝繁縷科、金絲桃科、椅科、猪籠草科、瓶子草科、茅膏菜科、堇菜科及び木犀草科の十科となす。

第一 山茶科

此の科の植物は木本にして概ね單葉を互生し、托葉は通常存在せず。花は通常兩

性稀に單性にして整齊なり。萼は通常五箇稀に四箇六箇或は七箇の萼片より成る。花冠は通常五箇稀に四箇乃至九箇の花弁より成り、花弁は覆瓦様或は回旋様に排列す。雄蕊は通常多數稀に花瓣と同數或は其の二倍ありて離生し、或は種々に結合す。子房は通常三乃至五室稀に二室或は多室をなす。果實は肉果或は乾果なり。種子は胚乳を有し或は之を有せず。

さるなし 一、同上の果實ある枝 二、同上の花ある枝

圖七十二百二第



此の科は五百餘種の植物より成り、熱帯及び亞熱帯に多し。效用 此の科には飲料材用、油料、觀賞用等に供するものあり。又食用果實を生ずるものあり。ちやの葉を飲料に供し、つばきを飲料に供し、つばきを



檉柳科

(山茶) さざんくわなつつはきひめしやらもくこくさかきひさかきさるなし。またたび等を材用及び觀賞用に供し、つばきさざんくわちや等の種子を油料となし、またたびさるなし等の果實を食用に供す。

第二 檉柳科

此の科の植物は通常木本にして小形鱗片状の全邊葉を互生す。枝には二種あり、一は宿存し、一は毎年脱落す。花は兩性整齊にして總狀花序或は穗狀花序に排列す。萼は通常五萼片より成り、花瓣は萼片と同數にして覆瓦様に排列す。雄蕊は花瓣と同數にして之と互生し或は花瓣の二倍あり。子房は一室にして側膜胎座を有す。果實は蒴にして種子は胚乳を有せず。

溝繁縷科

第三 溝繁縷科

此の科の植物は通常小草本にして托葉ある葉を對生或は輪生す。花は兩性小形にして整齊なり。萼は二乃至五箇の萼片より成り、花冠は二乃至

金絲桃科

五箇の覆瓦様に排列せる花瓣より成る。雄蕊は花瓣と同數或は其の二倍なり。子房は萼片と同數の室を有す。果實は蒴にして種子は胚乳を有せず。

此の科は三十五種の植物より成り、温帶・亞熱帶及び熱帶地方に産す。本邦に産する普通なるものはみぞはこべ(溝繁縷)なり。

效用 此の科の植物は一般に苛烈の性を有すれども效用あるものなし。

第四 金絲桃科

此の科の植物は草本或は木本にして托葉なき單葉を對生或は互生す。葉身は小點を有す。花は兩性整齊にして圓錐花序或は聚繖花序に排列す。萼は四箇或は

第 二 百 二 十 八 圖



ぎなやうやび



椅科

五箇の萼片より成りて宿存す。花瓣は萼片と同數にして回旋様或は覆瓦様に排列す。雄蕊は三體或は五體をなす。子房は一室或は三乃至五室をなす。果實は蒴或は漿果なり。種子は胚乳を有せず。  
此の科は二百餘種の植物より成り、温帯及び熱帯地方に産す。  
效用 此の科には觀賞用或は藥用に供するものあり。びやうやなぎ(金絲桃) きんしはいともゑさうおとぎりさう等は觀賞用となし、おとぎりさうは又藥用に供す。

第五 椅科

此の科の植物は木本にして通常單葉を互生す。托葉は小形なるか或は存在せず。花は兩性或は單性にして整齊なり。萼は二乃至多數の離れたる或は結合したる萼片より成り、花瓣は通常萼片と同數にして覆瓦様或は回旋様に排列す。雄蕊は通常多數稀に定數あり。子房は通常一室にして側膜胎座を有す。果實は肉果或は乾果なり。種子は胚乳を有す。  
此の科は凡そ五百種の植物より成り、重に熱帯地方に産す。

猪籠草科

效用 此の科には材用或は觀賞用等に供するものあり。いざり(椅)の如きは材用及び觀賞用となす。

第六 猪籠草科

此の科の植物は著名なる食蟲植物なり。葉は互生し、其の上部に壺狀の捕蟲器を有し、其の上に蓋狀部を具ふ。花は單性にして雌雄異株に生じ、雄花は四分せる一層の花蓋と四乃至十六箇の葯を具へたる單體雄蕊とを有す。雌花は雄花に等しき花蓋と三箇或は四箇の心皮より成れる三乃至四室の子房とを有す。果實は蒴にして種子は胚乳を有す。

此の科は五十八種の植物より成り、重に馬來半島に産す。  
效用 此の科には有用なるものなし、然れども其の捕蟲葉の奇異なるにより栽培せらるるものあり。うつぼかづら(猪籠草)の如きは是なり。

瓶子草科

第七 瓶子草科

此の科の植物は著名なる食蟲植物なり。葉は總べて地下部より生じ、瓶子狀をなせる葉柄と小形の葉身とを有す。此の葉柄は捕蟲器なり。花莖



は葉叢の中央より生じ、概ね頂に一箇の花を著け、或は稀に少數の花を總狀に著く。萼は四乃至八箇の萼片より成りて宿存す。花瓣は五箇ありて覆瓦様に排列し、或は稀に存在せず。雄蕊は多數なり。子房は三乃至五室を有す。果實は蒴にして種子は胚乳を有す。

此の科は九種の植物より成り、總べて亞米利加に産す。

效用 此の科には有用なるものなし、然れども捕蟲葉の奇異なるにより栽培せらるるものあり。へいしさう(瓶子草)の如き是なり。

第八 茅膏菜科

此の科の植物は通常草本稀に小灌木にして捕蟲葉を有す。其の或るものは葉の表面に腺毛狀の突起を有し、之より消化液を分泌し、他のものは葉の上面に強き感覺性を有する毛を具へ、小蟲の之に觸るるあれば直に閉合して其の小蟲を捕ふ。花は兩性にして整齊なり。萼は五萼片より成り、花瓣は五箇ありて覆瓦様に排列す。雄蕊は花瓣と同數なるか或は二倍三倍若くは四倍なり。子房は一室にして側膜胎座を有し、或は稀に二室或は三

堇菜科

室を具ふ。果實は蒴にして種子は胚乳を有す。

此の科は八十七種の植物より成り、温帶及び熱帶地方に産す。

效用 此の科には捕蟲葉の奇異なるにより栽培せらるるものあり。はへとりどさいしもちさう(茅膏菜)、まうせんごけ等是なり。又まうせんごけは昔時肺癆を治するに用ひたり。

第九 堇菜科

此の科の植物は草本或は灌木にして托葉ある葉を生ず。花は兩性にして概ね不整齊なり。萼は五箇の萼片より成り、花瓣は五箇あり、概ね不整齊にして其の内の一箇は距を具ふ。雄蕊は五箇あり、其の内二雄蕊は突起を出だし、突起は距の中に存す。子房は一室にして側膜胎座を具ふ。果實は蒴なり。種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ四百五十種の植物より成り、熱帶、亞熱帶及び温帶に産す。

其の本邦に普通なるものはすみれたちつぼすみれつぼすみれ(堇菜)等なり。效用 此の科の植物には觀賞用に供するものあり。又香水料となすも



木犀草科

のあり。さんしきすみれにほひすみれ等は觀賞用として栽培し、又ほひすみれの花より香水を製す。

第十 木犀草科

此の科の植物は通常草本稀に灌木なり。葉は單葉にして互生し、全邊なるか或は分裂し、細微の托葉を有し或は之を有せず。萼は四乃至八裂して不整齊なり。花瓣は通常四乃至八箇稀に二箇あり、或は存在せず。花瓣は全邊なるか或は分裂す。雄蕊は三乃至四十箇あり。子房は一室にして側膜胎座を有す。果實は通常乾果稀に肉果なり。種子は胚乳を有せず。

此の科は凡そ六十種の植物より成り、重に地中海の沿岸に産す。

效用 此の科には觀賞用に供するものあり。もくせいさう(木犀草)の如きは是なり、此の植物は芳香を有す。

第十六目 罌粟類

此の目に於ては萼片及び花瓣は二乃至四の數より成り、雄蕊は定數或は多數あり。雌蕊は二箇或はそれより多數の結合したる心皮より成り、子房

罌粟類

白花菜科

は上生にして側膜胎座を有す。種子は概ね胚乳を有せず。

此の目を分ちて**白花菜科**、**十字花科**、**紫堇科**及び**罌粟科**の四科となす。

第一 白花菜科

此の科の植物は草本或は木本にして水様の汁液を含む。葉は單葉或は複葉にして概ね互生し、稀に對生す。托葉は存在せず或は存在し、往々針狀をなす。花は通常兩性にして整齊なるか或は稍不整齊なり。萼は四乃至八箇の離れたる或は結合したる萼片より成る。花瓣は概ね四箇ありて覆瓦様或は回旋様に排列し、雄蕊は多數乃至四箇あり。子房は一乃至數室を有し、果實は蒴或は肉果なり。種子は概ね胚乳を有せず。

此の科は凡そ四百五十種の植物より成り、熱帶地方に多し。

效用 此の科には觀賞用に供するものあり。ぎよほくふうてうさう(白花菜)等是なり。

第二 十字花科

此の科の植物は通常草本にして水様の汁液を含む。葉は通常互生し、概

十字花科



ね托葉を有せず。花は兩性にして通常總狀花序に排列す。花序の若き間は繖房花序様をなす。萼は四箇の離れたる萼片より成り、花瓣は四箇ありて十字形に排列し、白色黄色或は帶紫色を呈す。雄蕊は六箇ありて四強なり。雄蕊の間に綠色の蜜腺あり。子房は上生一室にして二箇の側膜胎座を有し、或は假隔膜によりて二室をなす。果實は長角或は短角にして種子は胚乳を有せず、或は甚だ稀に之を有す。

第二百二十九圖



效用 此の科には有毒なるもの極めて少く、食用に供するもの多し。又油料香味科、觀賞用染料等となるものあり。だいこんかぶらはぼたんなど

な等は食用となし、あぶらなの種子より油を搾り、からしなの種子、わさび、オランダみづたがらし等は香味料となし、あらせいとうにほひあらせいとう等は觀賞用となし、たいせいよりは藍を採る。

紫萇科

第三 紫萇科

此の科の植物は草本にして概ね水様の汁液を有す。葉は細裂して互生し、托葉を有せず。花は兩性にして不整齊なり。萼は二箇の萼片より成りて早く脱落す。花瓣は四箇あり、不整齊にして其の中の一箇或は二箇は距を具ふ。雄蕊は通常六箇ありて二體をなす。子房は上生にして一室を有し、果實は裂果或は閉果なり。種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ一百五十種の植物より成り、重に温帯地方に産す。むらさきけまん紫萇、きけまん等は本邦に普通なるものなり。

效用 此の科には觀賞用に供するものあり、けまんさうこまくさ等はなり。

罌粟科

第四 罌粟科



此の科の植物は通常草本にして概ね白色或は著色せる乳様の汁液を含み、葉を互生す。花は兩性にして整齊なり。萼は通常二箇稀に三箇の萼片より成りて花の開く時脱落す。花瓣は四箇或は稀に六箇・八箇或は十二箇あり、又稀に存在せず。雄蕊は通常多數あり。子房は一室にして二箇或はそれより多數の側膜胎座を有す。果實は通常蒴にして稀に閉果なり。種子は胚乳を有す。

此の科は四百餘種の植物より成り、重に歐羅巴に産す。

**效用** 此の科には薬用・食用油料・觀賞用等に供するものあり。而して此の科の植物は一般に麻酔毒を含む。けし(罂粟)くさのわう等は薬用となし、けしの種子及び若き葉を食用に供し、けしの種子より油を搾り、けしひなげしあざみげしはなびしさう等は觀賞用植物なり。

第十七目 多心皮類

多心皮類

此の目に於ては萼花冠及び雄蕊は概ね雌蕊の下に位し、雌蕊は通常數箇或は多數の離れたる心皮より成る。種子は概ね多量の胚乳及び小形の胚

を含む。

此の目を分ちて睡蓮科毛茛科木蘭科臘梅科防已科小蘗科木通科及び樟科の八科となす。

睡蓮科

第一 睡蓮科

此の科の植物は多年生の水生草本にして往々乳様の汁液を含む。葉は互生或は對生し、往々楕形をなす。花は大形兩性にして整齊なり。萼は通常四箇・五箇或は六箇の萼片より成り、稀に三乃至多數の萼片より成る。花瓣は通常多數稀に三箇ありて覆瓦様に排列す。雄蕊は通常多數稀に六箇あり。雌蕊は多數或は八乃至十箇の心皮稀に三箇或は四箇の心皮より成り、心皮は離生し或は結合す。果實は閉果なり。種子は胚乳を有し或は之を有せず。

此の科は五十餘種の植物より成り、熱帯及び温帯地方に産す。

此の科を分ちて睡蓮亞科蓴亞科及び蓮亞科の三亞科となす。

(第一) 睡蓮亞科

睡蓮亞科



蕁亞科

此の亞科に於ては萼片は四箇或は五箇あり。花瓣及び雄蕊は多數ありて數列をなす。心皮は數箇ありて倒圓錐形をなせる花托の凹所内に位す。果實は堅果に類し、種子は胚乳を有せず。

例、はす(蓮)。

此の亞科に於ては萼片は四乃至十二箇あり。花瓣は多數ありて數列をなし、心皮は輪生し、種子は胚乳を有す。

例、かはほね、ひつじどさ、睡蓮、おにはす、ヴァイクトリア、レギア<sup>等</sup>。

(第二) 蕁亞科

此の亞科に於ては萼片



圖 十 三 百 二 第

ひつじどさ

蓮亞科

(第三) 蓮亞科

此の亞科に於ては萼片は四箇或は五箇あり。花瓣及び雄蕊は多數ありて數列をなす。心皮は數箇ありて倒圓錐形をなせる花托の凹所内に位す。果實は堅果に類し、種子は胚乳を有せず。

例、はす(蓮)。

效用 此の科には食用、觀賞用等に供するものあり。はす及びおにはす

の根莖及び種子じゆんさいの若き葉及び莖等を食用となし、かはほね、ヴァイクトリア、レギア、ひつじどさはす等を觀賞用に供す。

第二 毛茛科

此の科の植物は通常草本稀に木本にして概ね苛烈水様の汁液を含む。葉は通常互生し、稀に對生し、概ね托葉を具へず。花は通常整齊稀に不整齊にして多くは兩性なり。萼は三箇或はそれより多數の離れたる萼片より成り、花冠は三箇或はそれより多數の花弁より成り、花弁は覆瓦様に排列す、或は存在せず。雄蕊は通常多數ありて數列に排列す。雌蕊は少數稀に一

毛茛科



筒或は多數の心皮より成り、心皮は通常離生す。果實は瘦果、蓇葖或は漿果なり。種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ一千二百種の植物より成り、温帯及び寒帯地方に産す。

效用 此の科の植物は苛烈の汁液を有するを以て一般に有毒なり。然れども觀賞用に供するもの多く、又薬用、食用等に供するものあり。とりかぶとせんにんさうきんばうげきつねのぼたんたがらし等は著名なる有毒植物なり。わうれんしやくやくほたん等は薬用となし、ぼたんの花瓣は食

しきみ

用に供し、ぼたんしやくやくふくじゆさうしうめいぎくてつせんかざぐるますはまさうむらさきをだまきとりかぶと等は觀賞用となす。

第三 木蘭科

木蘭科

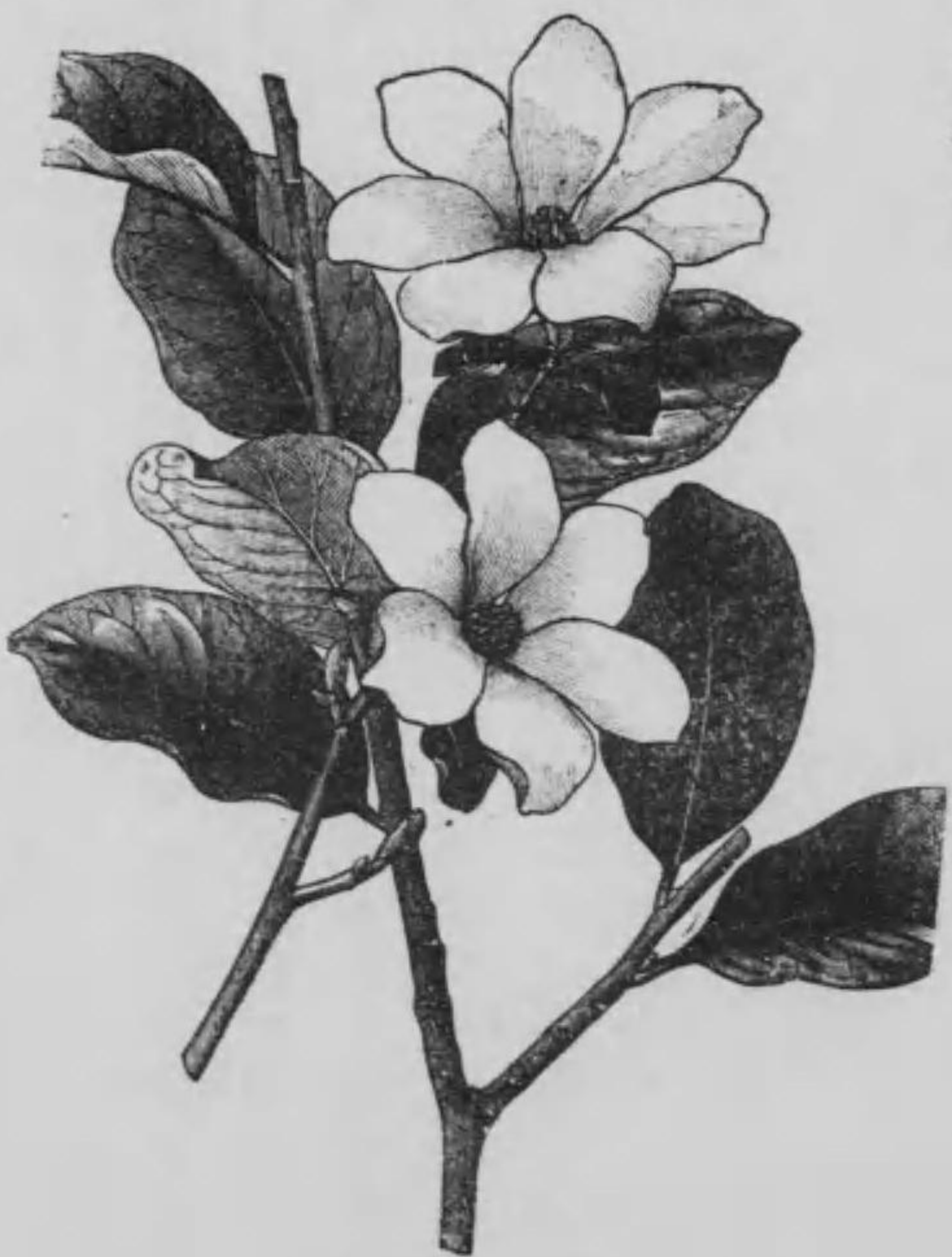
圖一十三百二第



此の科の植物は木本にして革質の單葉を互生し、托葉は存在し或は存在せず。花は概ね兩性にして通常大形なり。萼は通常三箇稀に六箇或は二乃至四箇の萼片より成り、多くは花冠様なり。花冠は六箇或はそれより多

こぶし

圖二十三百二第



數の覆瓦様に排列せる花瓣より成る。雄蕊は多數ありて數列に排列す。雌蕊は多數或は少數の心皮より成り、心皮は通常離生す。果實は乾果或は肉果なり。種子は胚乳を有す。



此の科は凡そ一百種の植物より成り、亞細亞及び亞米利加の温帯及び熱帯地方に産す。

效用 此の科には材用、觀賞用及び雜用に供するものあり。又有毒なるものあり。ほほのきこぶしをがたまのきしきみ等は材用となし、はくもくれんさらさもくれんしもくれん(木蘭)してこぶしこぶししきみをがたまのきさねかづら等は觀賞用となし、さねかづら一名びなんかづらの莖の粘液を製紙の糊料となし、又之を頭髮に塗付す。しきみは著名なる有毒植物なれども其の葉を乾かして抹香を製す。

臘梅科

第四 臘梅科

此の科の植物は木本にして若き莖は方形なり。葉は對生し、全邊にして托葉を有せず。花は兩性にして整齊なり。萼は數列をなせる多數の萼片より成り、外部の萼片は苞狀をなし、内部の萼片は花瓣様をなし、花冠は存在せず。雄蕊は多數あり、外部に位するものは花粉を生ずれども、内部に位するものは之を生ぜず。雌蕊は多數の離れたる心皮より成り、杯狀の花托に

著生す。果實は瘦果にして稍、肉質をなせる花托によりて圍まる。種子は胚乳を有せず。

此の科は五種の植物より成り、東部亞細亞及び北亞米利加の温帯に産す。效用 此の科の植物は觀賞用として栽培す。らふばい臘梅の如き是なり。

防已科

第五 防已科

此の科の植物は木本或は草本にして通常纏繞す。葉は互生し、通常掌狀脈を有し、托葉を具へず。花は單性にして雌雄異株に生ず。萼片は通常六箇ありて二列をなし、或は九箇ありて三列をなし、或は十二箇ありて四列をなし、稀に四箇、八箇或は五箇あり。花瓣は通常六箇ありて二列をなし、覆瓦様に排列し、稀に四箇或は八箇あり、甚だ稀に一箇、三箇、五箇或は二箇あり、或は存在せず。雄蕊は花瓣と同數にして之と對生し、或は多數あり。雌蕊は通常三箇、稀に六箇、九乃至十二箇或は一箇、二箇若くは四箇の心皮より成り、各心皮は一箇の胚珠を含む。果實は核果様なり。種子は胚乳を有し、或は



小蘗科

之を有せず。胚は通常彎曲す。

此の科は凡そ二百六十種の植物より成り、重に熱帶地方に産す。

效用 此の科の植物には薬用・編物用等に供するものあり。「ユロンボ」は著名なる薬用植物にしてあをつづらふぢ(木防己)は編物用植物なり。

第六 小蘗科

此の科の植物は草本或は木本にして複葉・單身複葉或は多身複葉を互生す。托葉は存在せず、或は小形にして早く脱落す。花は兩性にして整齊なり。萼は三箇・四箇・六箇或は九箇の萼片より成り、花瓣は萼片と同數にして之と對生し、或は萼片の二倍あり、稀に缺如す。雄蕊は花瓣と同數にして之と對生し、或は稀に花瓣の二倍あり。葯は通常瓣開す。雌蕊は一箇の心皮より成り、果實は漿果或は乾果なり。種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ一百五十種の植物より成り、總べて温帶地方に産す。

效用 此の科には薬用・染料・觀賞用等に供するものあり。「ヒドラスチス」、「ポドフィルム」等は薬用に供し、へびのほらすは黄色の染料となし、なんてんひ

木通科

第七 木通科

らぎ・なんてんめぎ・小蘗・へびのほらす・いかりさう等は觀賞用に供す。

此の科の植物は木本にして通常纏繞す。葉は複葉にして互生し、托葉を具へず。花は單性にして雌雄同株なり。雄花に於ては萼は六箇或は三箇の著色せる萼片より成り、花瓣は六箇ありて萼片より小形なるか或は存在せず。雄蕊は六箇ありて花瓣と對生す。子房は不完全なり。雌花に於ては萼及び花冠は雄花に於けるよりも大形なり。雄蕊は六箇ありて全く葯を有せず、或は不十分なる葯を有す。雌蕊は三箇或は六乃至九箇の離れたる心皮より成り、果實は漿果様或は乾果なり。種子は胚乳を有す。

此の科は十一種の植物より成り、亞細亞及び南亞米利加に産す。

效用 此の科の植物には食用果實を生ずるもの及び編物用に供するものあり。是等の植物を又觀賞用となす。むべあけび(木通)、みつばあけび等の果實を食用となし、あけび類の莖を編物用に供し、又むべあけび等を觀賞用となす。



樟科

第八 樟科

此の科の植物は木本にして芳香を有す。葉は單葉にして托葉を具へず、通常互生す。花は兩性或は單性にして整齊なり。萼片は花瓣様にして黄色白色或は綠色をなし、四乃至九箇あり。花冠は存在せず。雄蕊は定數或は稀に不定數あり。葯は瓣開す。雌蕊は一箇の心皮より成り、一箇或は二箇の胚珠を含む。果實は漿果或は稀に核果なり。種子は胚乳を有せず。此の科は殆ど一千種の植物より成り、重に熱帶地方に産す。

效用 此の科には藥用材用、觀賞用等に供するものあり。「サ、サフラス」にくけいくすのき樟等は藥用となし、くすのきやぶにくけいぬぐすかどのきしろだもくろもじあぶらちやんかなくぎのき等は材用に供し、げつけいじゆくすのきくろもじぬぐすしろだもやぶにくけい等は觀賞用となす。又やぶにくけいしろだもあぶらちやん等の果實より油を搾り、いぬぐす類の樹皮は褐色の染料となす。

中央子類

第十八目 中央子類

此の目の植物は概ね草本にして萼及び花冠を有するものと花冠を有せざるものとあり。萼片及び花瓣は通常五乃至三の數より成り、雄蕊は一列或は二列に排列す。雌蕊は通常二乃至五箇稀に一乃至多數の心皮より成り、心皮は概ね結合し、子房は上生にして通常一室を有し、特立中央胎座或は脚生胎座を具ふ。花柱は分離す。種子は胚乳を有し、胚は彎曲す。此の科を分ちて馬齒莧科、善杏科、石竹科、紫茉莉科、商陸科、莧科及び藜科の七科となす。

馬齒莧科

第一 馬齒莧科

此の科の植物は通常多汁の草本稀に木本なり。葉は互生或は對生し、全邊にして往々肉質をなし、托葉を有せず、或は之を有す。花は兩性にして通常整齊なり。萼は二箇の萼片より成り、或は稀にそれより多數の萼片より成る。花瓣は五箇、四箇或は三箇あり。雄蕊の數は種々なり。子房は上生或は半下生にして一乃至五室を有し、果實は通常蓋果稀に閉果なり。種子は胚乳を有す。



蕃杏科

此の科は凡そ二百十種の植物より成り、重に亞米利加に産す。  
效用 此の科には觀賞用或は食用等に供するものあり。まつぼたん、はぜらん等は觀賞用となし、すべりひゆ馬齒莧は食用に供す。

第二 蕃杏科

此の科の植物は通常草本にして單葉を對生、互生或は輪生す。托葉は存在せず、或は存在す。花は整齊にして通常兩性稀に單性なり。萼は四箇或は五箇の離れたる或は結合したる萼片より成る。花瓣は多數若くは少數あり或は存在せず。雄蕊は定數或は不定數あり。子房は上生或は下生にして通常二箇以上の室を有し、稀に一室を有す。果實は通常蒴稀に瘦果或は核果或は胞果等なり。種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ六百種の植物より成り、重に亞非利加に産す。

效用 此の科には食用或は觀賞用等に供するものあり。つるな蕃杏の如きは食用となし、まつぼぎくの如きは觀賞用に供す。

石竹科

第三 石竹科

此の科の植物は草本或は稀に灌木狀にして明瞭なる節を有す。葉は全邊にして對生し、托葉を有せず、或は小形の托葉を有す。花は整齊にして通常兩性稀に單性なり。萼は四箇或は五箇の離れたる或は結合したる萼片より成りて宿存す。花瓣は萼片と同數にして往々小舌を有し、覆瓦様或は回旋様に排列す、或は存在せず。雄蕊は八乃至十箇あり、或は稀に萼片と同數若くは少數あり。子房は上生、一室にして特立中央胎座を具ふ。果實は蒴なり。種子は胚乳を有し、或は稀に之を有せず。

此の科は凡そ一千四百五十種の植物より成り、重に溫帶地方に産す。

此の科を分ちて石竹亞科及び繁縷亞科の二亞科となす。

石竹亞科

(第一) 石竹亞科

此の亞科に於ては萼は結合したる萼片より成り、雄蕊は離蓋の下に位し、花柱を離生す。

例、なでしこからなでしこ(石竹)、むしとりなでしこ、がんひせんをうふし、どろせんをうせんをうむぎなでしこ、さぼんさうだうくわんさう等。



繁縷亞科

(第二) 繁縷亞科

此の亞科に於ては萼は離れたる萼片より成り、雄蕊は通常雌蕊周位なり。花柱は離生し、或は結合す。

例、はこべ(繁縷)うしはこべのみのふすま、つめくさ、みみなどさのみのつづり等。

效用 此の科には觀賞用に供するもの多く、又有毒なるものあり。なてしこからなてしこむしとりなてしこがんびせんをうふしどろせんをうせんをうむぎなてしこさほんさうだうくわんさう等は觀賞用となす。又むぎなてしこは有毒植物なり。

紫茉莉科

第四 紫茉莉科

此の科の植物は草本或は木本にして節の明瞭なる莖を有す。葉は通常對生し、全邊なり。花は兩性或は單性にして總苞を有す。總苞は往々萼狀をなす。萼は漏斗狀或は管狀等にして花冠様をなし、宿存する堅き基部を有す。花冠は存在せず。雄蕊は一箇或はそれより多數あり。子房は上生

商陸科

第五 商陸科

にして一室を有し、一箇の胚珠を含む。果實は閉果にして萼の堅き基部によりて圍まる。種子は胚乳を有す。胚乳は粉狀或は粘液質なり。

此の科は凡そ一百六十種の植物より成り、重に亞米利加に産す。

效用 此の科には觀賞用に供するものあり、おしろいばな、紫茉莉の如き是なり。

此の科の植物は草本或は小灌木にして托葉なき全邊葉を互生す。花は通常兩性稀に單性にして概ね總狀花序に排列す。萼は四裂或は五裂し、往々花冠様をなす。花冠は通常存在せず、或は稀に四箇若くは五箇の花弁より成る。雄蕊は萼の裂片と同數或は多數あり。心皮は通常多數ありて輪狀に排列す。果實は乾果或は肉果なり。種子は胚乳を有し、或は之を有せず。

此の科は凡そ百十五種の植物より成り、重に熱帶地方に産す。

效用 此の科の植物は一般に苛烈の成分を有す。やまごばう(商陸)の如



莧科

きは葉を食用に供すれども地下部は有毒なり。

第六 莧科

此の科の植物は草本或は灌木にして托葉なき單葉を對生或は互生す。花は小形にして兩性或は單性なり。花下には三箇或は稀に二箇の苞あり。萼は乾燥し、三乃至五箇の離れたる或は基部に於て結合したる萼片より成り、往々花冠様にして宿存す。花冠は存在せず。雄蕊は通常五箇あり、或は之より多數若くは少數あり。子房は上生にして一室を有し、一箇或はそれより多數の胚珠を含む。果實は胞果、堅果或は漿果等なり。種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ五百種の植物より成り、熱帯及び温帯地方に産す。

效用 此の科には觀賞用に供するものあり。又食用、藥用等となすものあり。

けいとうのびいとうはびいとうせんになくせんちさう等は觀賞用となし、ひゆ(莧)、いぬびゆけいとう等は食用に供し、みのこつちの如きは藥用となす。

蓼科

第七 蓼科

此の科の植物は草本或は小灌木にして托葉なき單葉を互生或は稀に對生す。花は小形、綠色にして概ね苞を具へず、兩性或は單性なり。萼は乾燥せず、五箇、三箇、二箇或は稀に四箇の綠色なる萼片より成り、花冠は存在せず。雄蕊は萼片と同數あり、或は稀に之より少數あり。子房は上生或は稍、下生にして一室を有し、一箇の胚珠を含む。果實は胞果、堅果或は稀に漿果等なり。種子は胚乳を有せず、或は之を有す。

此の科は五百餘種の植物より成り、重に温帯地方に産す。

效用 此の科には糖料、食用、曹達の原料等に供するものあり。さたらだいこんの根より砂糖を製し、はうれんさうははきぎふだんさうさんごじゆなあかざ(藜)、まつなをかひじき等は食用となし、をかひじきの如きは往時曹達の原料に用ひたり。

第十九目 蓼類

此の目に於ては花は兩性或は單性なり。萼は六箇以下の萼片より成り

蓼類



薯科

圖三十三百二第



たいわり

て往々花冠様をなし或は存在せず。花冠は存在せず。雄蕊は一乃至多數あり。雌蕊は一乃至四箇の離れたる或は結合したる心皮より成り、子房は上生にして概ね一室を有し、通常一箇の胚珠を含む。

此の目を分ちて薯科、  
金粟蘭科胡椒科及び三  
白草科の四科となす。

第一 薯科

此の科の植物は通常  
草本稀に灌木にして莖  
は明瞭なる節を有す。  
葉は互生し、鞘状の托葉  
を有す。花は兩性或は  
單性なり。萼は三乃至  
六箇の萼片より成り、萼

金粟蘭科

圖四十三百二第



そは

片は花瓣様或は綠色なり。雄蕊は一乃至十五箇あり、或は甚だ稀に多數あり。子房は通常一室にして一箇の直生胚珠を含む。果實は瘦果或は堅果にして通常三角形をなす。種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ七百  
五十種の植物より成  
り、温帯及び熱帯地方  
に産す。

效用 此の科には

は著名の瀉下薬なり。そはにはたいわりいたどりすかんほほそはたて等は食用に供し、ある藍は染料となし、おほけたてみづひき等は觀賞用に供す。

第二 金粟蘭科



此の科の植物は小木本或は草本にして莖は明瞭なる節を有す。葉は單葉にして對生し、托葉を具ふ。花は小形にして花被を有せず、兩性或は單性にして穗狀花序に排列す。雄蕊は一箇或はそれより多數あり。子房は一室にして一箇の直生胚珠を含む。果實は核果にして種子は胚乳を有す。

此の科は三十餘種の植物より成り、重に熱帶地方に産す。  
**效用** 此の科には觀賞用に供するものあり。ちやらん(金粟蘭)せんりやう等の如き是なり。ジャヅに於ては往時せんりやうの根を藥用に供したりといふ。又、フィリッピン島に於てはちやらんの根を藥用に供し、清國に於ては此の植物を用ひて茶に香氣を附すといふ。

胡椒科

第三 胡椒科

此の科の植物は草本或は木本にして莖は明瞭なる節を有し、葉は對生輪生或は互生し、全邊にして托葉を有せず。花は兩性或は單性にして花被を有せず、肉穗花序に排列す。雄蕊は一乃至十箇あり。子房は一室にして一箇の直生胚珠を含む。果實は漿果或は核果にして種子は胚乳を有す。

こせう

第二百三十五圖



此の科は一十餘種の植物より成り、重に熱帶地方に産す。本邦に産する普通のものはふうとうかつらなり。

**效用** 此の科には香辛料及び藥用に供するものあり。こせう(胡椒)の如きは果實を香辛料及び藥用となし、ひつちようかは果

實を藥用に供す。

三白草科

第四 三白草科

此の科の植物は草本にして多年生存す。葉は互生し、全邊にして托葉を有す。花は兩性にして花被を有せず、穗狀花序或は總狀花序に排列す。雄



蕁麻類

蓋は三乃至六箇あり或はそれより多數あり。雌蓋は通常三乃至六箇の結合したる或は分離したる心皮より成り、子房は一室或は三乃至六室を有す。果實は閉果或は裂果なり。種子は胚乳を有す。

此の科は四種の植物より成り、重に亞細亞及び北亞米利加に産す。

效用 此の科には觀賞用或は藥用等に供するものあり。はんげしやう(三白草)は觀賞用及び藥用となし、どくだみは藥用に供す。

第二十目 蕁麻類

此の目に於ては花は概ね單性にして花瓣を有せず。萼は四箇或は五箇の萼片より成り、雄蓋は萼片と同數ありて之と對生す。雌蓋は一箇或は二箇の心皮より成り、子房は上生、一室にして一箇の胚珠を含む。

此の目を分ちて金魚藻科、榆科及び蕁麻科の三科となす。

金魚藻科

第一 金魚藻科

此の科の植物は水生草本にして莖は明瞭なる節を有し、葉は輪生し、細裂して托葉を具へず。花は單性にして雌雄同株に生ず。花被は八乃至十二

榆科

箇の片より成りて萼狀をなす。雄花は十二乃至二十箇の雄蓋を有し、雌花は一室にして一箇の直生胚珠を含める上生子房を有す。果實は堅果にして種子は薄き胚乳を有す。

此の科は三種の植物より成り、北半球の溫帶地方に産す。本邦に産する普通のものはきんぎよも(金魚藻)なり。

あきにれ

第二 榆科

此の科の植物は木本にして水様の汁液を含む。葉は單葉にして互生し、早く脱落する托葉を有す。花は兩性或は單性にして通常叢生す。萼は

第二百三十六圖





蕁麻科

三乃至八箇の萼片より成り、花冠は存在せず。雄蕊は萼片と同數にして之と對生し、子房は二箇の結合したる心皮より成り、二室或は一室を有し、各室に一箇の倒生胚珠を含む。果實は翅果、堅果或は核果なり。種子は少量の胚乳を有し或は之を有せず。

此の科は凡そ百四十種の植物より成り、温帶及び熱帶地方に産す。

效用 此の科には材用纖維料或は觀賞用等に供するものあり。けやきはるにれこぶにれにがにれおひようにれあきにれむくのきえのき等は材用となし、にれ類の樹皮より纖維を採り、けやきあきにれえのきむくのき等は觀賞用となし、又むくのきの葉は物を磨くに用ふ。

第三 蕁麻科

此の科の植物は草本或は木本にして水様或は乳様の汁液を含む。葉は互生或は對生し、單葉或は複葉にして概ね托葉を有す。花は小形にして概ね單性なり。萼は存在し或は存在せず。花冠は存在せず。雄蕊は萼の裂片即ち萼片と同數にして之と對生す。子房は上生にして通常一室稀に二

大麻亞科

麵麩樹亞科

室を有す。果實は桑果、隱花果或は閉果なり。種子は胚乳を有し或は之を有せず。

此の科は凡そ一千四百種の植物より成り、熱帶及び温帶地方に産す。

此の科を分ちて大麻亞科、麵麩樹亞科、桑亞科及び蕁麻亞科の四亞科となす。

(第一) 大麻亞科

此の亞科の植物は草本にして水様の汁液を含み、莖は直立し或は纏繞す。雄蕊は花芽中に於て屈曲せず。果實は乾果にして裂開せず。胚珠は下垂す。

例、あさ大麻、からはなさうかなむぐら等。

(第二) 麵麩樹亞科

此の亞科の植物は總べて木本にして乳様の汁液を含む。雄蕊は花芽中に於て屈曲せず。果實は通常隱花果にして胚珠は下垂す。

例、いちじく、あかうがづまる、パンのき、麵麩樹、はらみつだんせい、ゴムの



桑亞科

き彈性護謨樹等。

(第三) 桑亞科

此の亞科の植物は通常木本稀に草本にして概ね乳様の汁液を含む。雄

まを



蓋は花芽中に於て屈曲す。果實は概ね桑果なり。胚珠は下垂す。

例、くは桑かぢのきかうぞくはくさ等。

(第四) 葶麻

亞科

此の亞科の植物は草本或は木

葶麻亞科

第 二 百 三 十 七 圖

本にして水様の汁液を含む。雄蓋は花芽中に於て屈曲す。果實は閉果なり。胚珠は直立す。

例、いらくさ(葶麻)まをあかそらせいたさう等。

效用 此の科には纖維料食用彈性護謨料蠶の飼料材用藥用觀賞用及び雜用に供するものあり。あさまをあかそいらくさらせいたさう等の莖皮の纖維を絲となし、かうぞかぢのきくは等の樹皮の纖維を製紙の料となし、いちじく、パンのきはらみつくは等の果實を食用に供し、たんせい、ゴム、のき及び之に類似せる植物より彈性護謨を採り、くはの葉を蠶の飼料となし、あかうがづまるくは等を材用となし、ホップからはなさうに似たる植物(東印度産のあさ等は藥用に供し、いぬひはあかうがづまる等は觀賞用となし、ホップの果實は苦味及び芳香を附與する爲に麥酒に加ふ。又くはの果實よりは酒を醸す。

第二十一目 莖莖花類

此の目の植物は木本なり。花は單性にして花冠を有せず、或は全く花被

莖莖花類



木麻黃科

を有せず。雄花は柔荑花序に排列す。雄蕊は萼片と同數なる時は之と對生す。雌蕊は二乃至六箇の結合せる心皮より成り、子房は下生或は上生なり。種子は胚乳を有せず。

此の目を分ちて木麻黃科、楊柳科、楊梅科、胡桃科及び殼斗科の五科となす。

第一 木麻黃科

此の科の植物は木本にして莖は明瞭なる節及び縱稜を有す。葉は小形、不明瞭にして輪生し、稍木賊類の如き觀を呈す。花は單性にして雌雄同株或は異株に生ず。雄花は各二箇づつの片より成れる花被を具へ、一箇の雄蕊を有す。雌花は頭狀花序に排列し、各の花は二箇づつの小苞を具へ、二室の子房を有す。果實は翅果にして毬果狀に集る。種子は胚乳を有せず。此の科は二十五種の植物より成り、重に濠洲に産す。

效用 此の科には材用及び觀賞用等に供するものあり。もくまわら木麻黃ときはぎよりう等は觀賞用及び材用に供す。殊にときはぎよりうの材は甚だ堅くして重きを以て鐵樹の稱あり。

楊柳科

第二 楊柳科

此の科の植物は木本にして托葉ある單葉を互生す。花は單性にして雌雄異株に生ず。花は各一箇の苞を有し、花被を具へず。雄花は二乃至數箇

第二百三十八圖



一、雌花を有する枝  
二、雄花を有する枝

の雄蕊を有し、柔荑花序に排列す。雌花は二箇の側膜胎座を具へたる一室の子房を有し、柔荑花序に排列す。果實は蒴なり。種子は有毛にして胚乳



を具へず。

此の科は凡そ一百九十種の植物より成り、温帯及び寒帯地方に産す。

しばやなぎ

效用 此の科

には有用なる木材を有するものあり。又行李籃等を編むに用ふるものあり。又觀賞用に供するものあり。てろやまならし、だれやなぎ等は材用となし、こりやなぎ、こぶやなぎ等は編物用となし、しだれやなぎ、きぬやなぎ、ねこやなぎし

第 二 百 三 十 九 圖



楊梅科

ほやなぎ等は觀賞用に供す。やなぎ類の樹皮は強壯藥、收斂藥及び下熱藥として用ふることあり。

第三 楊梅科

やまもも

第 二 百 四 十 四 圖



此の科の植物は木本にして托葉なき單葉を互生す。花は單性にして柔荑花序に排列し、雌雄同株或は異株に生ず。雄花は二乃至十六箇の雄蕊を有し、花被を具へず。雌花は一箇の胚珠を含める一室の子房を有し、花被を具へず。柱頭は二箇あり。果



此の科は凡そ四十種の植物より成り、重に亞熱帶地方に産す。

效用 此の科の植物の樹皮は通常收斂性の強壯藥となる。本邦に産するやまもも楊梅は果實を食用となし、材を挽物細工及び薪炭の料となし、樹

第二百四十一圖



- 一、おにごるみの花を有する枝
- イ、同上の雄花の集り
- ロ、同上の雌花の集り
- 二、同上の果實を有する枝
- 三、おにごるみの堅き内果皮
- 四、おにごるみの堅き内果皮

皮を褐色の染料に供す。

胡桃科

第四 胡桃科

此の科の植物は木本にして托葉なき羽狀複葉を互生す。花は單性にして雌雄同株に生ず。雄花は葇と三乃至四十箇の雄蕊とを有し、柔荑花序に排列す。雌花は一箇づつ單生するか或は數箇簇生するか或は柔荑花序に排列し、整齊なる葇と一箇の胚珠を含める一室の下生子房とを有す。果實は核果の一種にして肉質なるものと乾燥するものとあり。種子は胚乳を有せず。

此の科は凡そ三十五種の植物より成り、重に北半球の温帶地方に産す。

效用 此の科には材用に供するもの及び食用となるべき種子を生ずるものあり。さばごるみは俗にやまざりと稱し其の材を下駄及び「マッチ」の軸木に用ふ。おにごるみの效用も之に同じ。おにごるみひめごるみてうちごるみ(胡桃)等は材を種々の用に供し、種子を食用或は油料となす。

殼斗科

第五 殼斗科



此の科の植物は木本にして托葉ある單葉を互生す。花は單性にして雌雄同株或は異株に生ず。雄花は柔荑花序に排列し、萼片は一乃至五箇ありて離生し或は結合し或は存在せず。雄蕊は二乃至二十箇あり。雌花は單生するか或は穗狀花序若くは頭狀花序に排列し、萼は子房に著生し或は存在せず。子房は下生にして二乃至六室を有す。果實は堅果にして種子は胚乳を有せず。

此の科は凡そ四百五十種の植物より成り、重に北半球の温帶地方に産す。此の科を分ちて山毛櫨亞科、榛亞科及び樺木亞科の三亞科となす。

山毛櫨亞科

(第一) 山毛櫨亞科

此の亞科に於ては雄花は四乃至十裂せる萼を有し、雌花は一乃至三箇づつ殼斗中に位し、此の殼斗は果實と共に成長し、杯狀或は囊狀の器官となる。子房は三乃至七箇の室を有し、各室に一乃至二箇の胚珠を含む。

例、ふなのき、いぬふな、山毛櫨、かしはくぬぎ、こならあかがし、しらかし、コルクのき、しひのき、くり等。

榛亞科

「コルク」のき



圖 二 十 四 百 二 第

(第二) 榛亞科

此の亞科に於ては雄花は萼を有せず。雄蕊は小苞に著生す。雌花は不十分に二室を成せる子房を有し、果實は葉狀或は革質の苞を有す。

例、はしほみ、榛、つのはしほみくましてさ、はしほ等。

(第三) 樺木亞科

樺木亞科

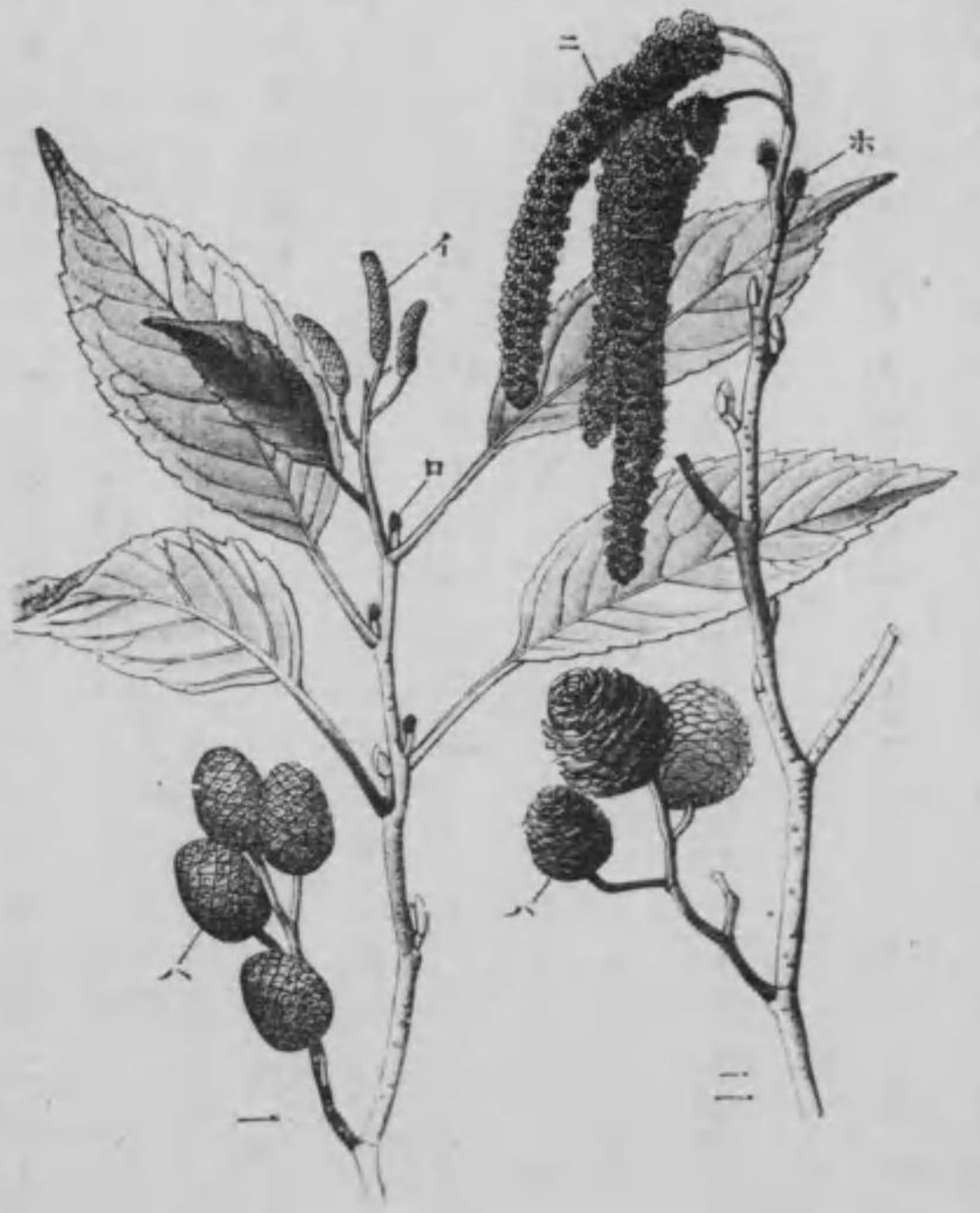
此の亞科に於ては雄花は四箇或はそれより少數の萼片を有し、雌花は穗狀花序に排列して萼を有せず。子房は二室にして各室に一箇の胚珠を含む。果實は小形扁平にして苞腋に位す。

例、しらかんば、はんのき、やしやぶし等。

效用 此の科には有用なる材を有するもの多く、又觀賞用に供するもの



第二十四三圖



- はんのき
- 一、若き花及び果實を有する枝
- イ、若き雄花の集り
- ロ、若き雌花の集り
- ハ、果實
- ニ、開きたる花及び果實を有する枝
- ニ、雄花の集り
- ホ、雌花の集り

あり。食用種子を生ずるものあり。靱皮用染料若くは「コルク」用に供すべき樹皮を有するものあり。果實或は殻斗を染料となすものあり。又葉を

天蠶の飼料となすものあり。ぶなのきいぬぶなくりしひのきかしはくぬぎみづならこならあかがししらかしあらかしうはめがしくましてしらかんははんのきやしやぶしはしはみ等は材用(建築器具或は薪炭の用)に供し、かし類かしはしひのき等は觀賞用となし、くりしひのきはしはみ等の種子は食用となし、くりかしはくぬぎ等の樹皮は靱皮用となし、又網を染むるに用ひ、「コルク」のきあべまき等の樹皮は「コルク」用となし、やしやぶし類の果實、くぬぎの殻斗等は染料となし、くりくぬぎ等の葉は天蠶の飼料に供す。

離瓣類の附屬目 馬兜鈴類

此の目に於ては花は花瓣を有せず。子房は下生す。此の目には寄生生活をなすもの多し。

此の目を分ちて蛇菰科、槲寄生科、檀香科及び馬兜鈴科の四科となす。

第一 蛇菰科

此の科の植物は草本にして他の植物の根に寄生し、緑色の葉を有せず、地下の根莖より菌茸状の花莖を出だす。花は單性にして雌雄同株或は異株

蛇菰科

馬兜鈴類



に生ず、或は稀に兩性花を混ず。花序は穗狀或は頭狀なり。雄花は管狀の  
萼と三乃至五箇或は一箇の雄蕊とを有す。雌花は管狀の萼と通常一室に  
して一胚珠を含める下生子房とを有す。果實は全面乾果なり。種子は胚  
乳を有す。

此の科は凡そ四十種の植物より成り、重に熱帶地方に産す。

**效用** 此の科には烏翹ウキウを製するものあり。本邦の暖地に産するつちも  
ち蛇菰二名つちやまもちより烏翹を製す。

第二 槲寄生科

槲寄生科

此の科の植物は木本にして他の雙子葉植物の莖幹に寄生す。葉は全邊  
にして通例對生し、稀に互生或は輪生し、多くは常綠なり。花は兩性或は單  
性なり。萼は三乃至八箇の鑷合様に排列せる萼片より成る。雄蕊は萼の  
裂片と同數にして之と對生す。子房は下生一室にして一箇或は三箇の胚  
珠を含む。果實は漿果にして種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ八百五十種の植物より成り、重に熱帶地方に産す。

檀香科

第三 檀香科

**效用** 此の科の植物は寄主に損害を與ふるものなり。然れどもやどり  
ぎ槲寄生の如きは觀賞用となし、又其の粘滑なる果肉を烏翹となす。

此の科の植物は綠色の草本或は木本にして他の植物の根に寄生す、葉は  
互生或は對生して托葉を生ぜず。花は兩性或は單性なり。萼は三乃至六  
裂し、其の裂片は鑷合様に排列す。雄蕊は萼の裂片と同數にして之と對生  
す。子房は下生一室にして一乃至五箇の胚珠を有す。果實は堅果或は肉  
果なり。種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ二百五十種の植物より成り、熱帶及溫帶地方に産す。

**效用** 此の科には芳香ある材を有するものあり。又食用果實を生ずる  
ものあり。びやくだん檀香及びせんだん梅檀の如きは芳香ある材を有し、  
之を薰物カウキとなし或は器物に造り或は香氣を附するに用ふ。つくばねの如  
きは果實を食用に供す。

第四 馬兜鈴科

馬兜鈴科



此の科の植物は草本或は纏繞灌木にして單葉を互生す。花は兩性にし  
て整齊或は不整齊なり。萼は筒狀にして其の裂片は鑷合様に排列す。雄  
蓋は通常六乃至十二箇或は稀に五箇若くは十八乃至三十六箇あり。子房  
は下生にして三乃至六室を有し多數の胚珠を含む。果實は蒴或は稀に漿  
果なり。種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ二百餘種の植物より成り、温帶及び熱帶地方に産す。

此の科を分ちて細辛亞科及び馬兜鈴亞科の二亞科となす。

細辛亞科

(第一) 細辛亞科

此の亞科の植物に於ては雄蓋は通常十二箇ありて離生し、萼は整齊なり。

例、うすばさいしん細辛・ふたばあふひかんあふひ等。

馬兜鈴亞科

(第二) 馬兜鈴亞科

此の亞科の植物に於ては雄蓋は通常六箇ありて花柱に著生し、萼は不整  
齊なり。

例、うまのすずくさ馬兜鈴・おほはうまのすずくさ等。

效用 此の科には薬用或は觀賞用に供するものあり。即ちうまのすず  
くさの如きは薬用に供し、かんあふひの如きは薬用及び觀賞用に供す。然  
れどもうまのすずくさは劇薬なるを以て用法を誤れば死を致すことあり。

第五章 單子葉類

第二綱 單子葉類

池沼生類

第一目 池沼生類

此の目の植物は河池沼等に生ず。花は單性或は兩性にして花蓋を有し  
或は之を有せず。雌蓋は上生或は下生なり、其の上生なるものは概ね數箇  
の離れたる心皮より成る。

此の目を分ちて水龍科澤瀉科及び芝菜科の三科となす。

水龍科

第一 水龍科

此の科の植物は水生草本にして通例多年生なり。葉は水上に抽出し若  
くは水面に浮び或は全く水中に沈在す。花は通例單性稀に兩性なり。花



澤瀉科

蓋は一層或は二層あり、各層は三片より成り、内層の片は花瓣様をなす。雄蓋は少数或は多数あり。子房は下生にして通常一乃至六室を有し、各室に多数の胚珠を含む。果實は胞果或は漿果なり。種子は胚乳を有せず。此の科は凡そ六十種の植物より成り、温帯及び熱帯地方に産す。本邦に産する重なるものはとちかがみ水鼈、みづおほほこせきしやうも等なり。

效用 此の科には有用なるもの少し。

第二 澤瀉科

此の科の植物は水中或は沼に生ずる多年生草本なり。葉身は心臟形箭形或は長橢圓形等にして全邊なり。花は整齊にして通例兩性甚だ稀に單性なり。花蓋は二層に排列し、各層は三片より成り、内層は美麗なり。雄蓋は少数或は多数あり。雌蓋は數箇乃至多數の離れたる心皮より成り、子房は上生にして一室を有し、一箇乃至多數の胚珠を含む。果實は乾果にして裂開し或は裂開せず。種子は胚乳を有せず。此の科は七十二種の植物より成り、熱帯及び温帯地方に産す。

芝菜科

效用 此の科には食用に供する地下莖を有するものあり。即ちくわゐの地下莖を食用に供す。又くわゐの原種なるおもだか(澤瀉)の如きは觀賞用となす。

第三 芝菜科

此の科の植物は沼生草本にして細長き葉を有す。花は通例兩性なり。花蓋は蓇葖状にして三乃至六箇の片より成るか或は存在せず。雄蓋は一乃至六箇あり。雌蓋は三乃至八箇の離れたる或は結合したる心皮より成り、各心皮は一箇或は二箇の胚珠を含む。果實は通例莢或は蒴なり。種子は胚乳を有せず。

此の科は凡そ十六種の植物より成り、温帯地方に産す。本邦に産する普通のものはしほな(芝菜)、みさきさう等なり。

效用 此の科には有用なるものなし。

第二目 雌雄合蓋類

此の目に於ては花は兩性にして不整齊なる花被を有し、雄蓋は花柱に著

雌雄合蓋類



生し、子房は下生一室にして三箇の側膜胎座を有す。種子は細微にして多數あり。

此の目に次の一科を置く。

第一 蘭科

此の科の植物は多年生草本にして陸地、沼地或は樹上に生じ、稀に寄生植物なり。花蓋は二層にして各層は三片より成り、不整齊にして概ね美色を呈す。雄蕊は一箇或は二箇あり、花粉粒は多數結合して花粉塊をなす。花柱は雄蕊と結合して柱状をなし、其の前面に粘著性の柱頭を有す。果實は蒴にして種子は胚乳を有せず。

此の科は凡そ七千二百種の植物より成り、熱帯及び温帯地方に産す。

效用 此の科には觀賞用に供するもの多く、又薬用香料或は食用に供するものあり。しゆんらんしらんせきこふうらんねごらんえびねするがらんくまがえさうあつもりさう等は觀賞用に供し、サレップの如きは薬用となし、ヴァニラの果實は菓子香水等に香氣を附するに用ひ、又しゆんらん

蘭科

錫杖科

の花の如きは鹽漬となし湯を注ぎて食用となす。

錫杖科 此の科は蘭科に近き草本なり。此の科の植物は細長き綠色の葉を有するか或は死物寄生植物にして葉緑素を含まず。花は兩性にして種々の色を有す。花蓋は三箇或は六箇の片より成り、六箇の片より成れるものは二層に排列し、内層の片は小形なり。雄蕊は三乃至六箇ありて花蓋に著生す。子房は下生一室にして三箇の側膜胎座を有するか或は三室にして中軸胎座を有す。果實は蒴なり。種子は細微にして多數あり。

此の科は凡そ六十種の植物より成り、重に熱帯地方に産す。

效用 此の科には有用なるものなし。

第三目 蕁荷類

蕁荷類

此の目に於ては花は不整齊にして同質或は異質の花蓋を有し、雄蕊は六箇あり、其の内一箇或は五箇は葯を有し、残りのものは葯を有せず。子房は下生にして概ね三室を有す。果實は漿果或は蒴なり。

此の目を分ちて曇華科、蕁荷科及び芭蕉科の三科となす。



曇華科

第一 曇華科

此の科の植物は草本にして單葉を互生す。葉身は全邊にして中肋を有し、其の兩側に平行脈を具ふ。花は兩性、不整齊にして苞を有す。花蓋は異質にして外層の三片は草質をなし、内層の三片は不整齊にして美麗なり。雄蕊は數箇あり、其の内一箇は葯を有し、残りのものは葯を有せず、扁平にして花瓣様なり。子房は下生にして三室を有す。果實は通常蒴なり。種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ六十種の植物より成り、亞米利加の熱帶地方に産す。

**效用** 此の科には觀賞用に供するものあり。又根莖より澱粉を採るものあり。**だんどう**曇華類の植物を觀賞用に供し、**だんどう**の根莖より澱粉を採る。

蕁荷科

第二 蕁荷科

此の科の植物は多年生草本にして芳香を有す。葉は單葉、全邊にして中肋の兩側に多數の平行脈を具ふ。花は兩性、不整齊にして穗狀、總狀或は圓

第 二 百 四 十 四 圖



錐狀に排列す。花蓋は二層あり。各層は三片より成る。雄蕊は六箇ありて二層に排列し、内層の一箇のみ葯を有し、他は皆葯を有せず。子房は下生にして通常三室を有し、各室に一箇乃至多數の胚珠を含む。果實は蒴或は肉果なり。種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ八百種の植物より成り、重に亞細亞及び亞非利加の熱帶地方に産す。

**效用** 此の科には食用、藥用、染料或は觀賞用等に供するものあり。

**めうが**蕁荷は若き莖及び花序を食用となし、**しやうが**は根莖を香味料、砂糖漬或は藥用となし、**きやうわう**ら**わう**蓋黄は根莖を粉末となして、**カレー**粉の主成



芭蕉科

分となし、又之を試薬或は染料となす。せうづくは果實を薬用となし、くま  
たけらんはなめうが等は觀賞用に供す。

第三 芭蕉科

此の科の植物は大形の草本にして往々木狀の高き莖を有す。葉は大形、  
「バナナ」  
全邊にして單葉なり。中

第二四百四十五圖



肋の兩側に多數の平行脈  
を具ふ。花は通常兩性、不  
整齊にして佛燄狀の苞に  
よりて被はる。花蓋は花  
冠様にして二層より成り、  
各層は三片より成る。雄  
蕊は六箇あり、其の内一乃  
至數箇は不完全なり。子  
房は下生にして三室を有

穎花類

し、各室に一箇乃至多數の胚珠を含む。果實は肉果或は乾果なり。種子は  
胚乳を有す。

此の科は凡そ八十種の植物より成り、熱帯地方に産す。

效用 此の科には食用果實を生ずるものあり、纖維料となるものあり、又  
觀賞用に供するものあり。「バナナ」甘蔗は果實を食用に供し、「マニラあさ」  
纖維料となし、「ばせう」芭蕉、「たびびと」のき等は觀賞用となし、又「たびびと」のき  
の種子を食用に供す。

第四目 穎花類

此の目に於ては花は兩性或は單性にして概ね小穗狀花序に集り、穎と稱  
する鱗片狀の苞を具ふ。眞正の花被は存在せず。子房は上生、一室にして  
一箇の胚珠を含み、果實は穎果、瘦果或は堅果等にして種子は胚乳を有す。  
葉は細長くして平行脈を具へ、鞘狀の葉柄を有す。

此の目を分ちて禾本科及び莎草科の二科となす。

第一 禾本科

禾本科



此の科の植物は總べて明瞭なる節を具へたる莖を有し、節間は往々中空なり。葉は互生して二縦列をなし、葉身と葉柄との間に小舌を具ふ。葉柄は擴がりて莖を包み、花は兩性或は單性にして小穗狀花序は穗狀總狀或は圓錐狀等に排列す。各の花は一箇或は二箇の殼と稱する小苞によりて被はれ、眞正の花被を有せざれども鱗被と稱する小體を有す。雄蕊は一乃至

かりヤサ

圖六十四百二第



多數あり。子房は羽狀の柱頭を具ふ。胚は胚乳の一侧に位す。此の科は凡そ四千種の植物より成り、地球上の各地方に散在す。

效用 此の科の植物には最も必要なる

食用種子を生ずるものあり。又糖料、飼料、建築器具料、製紙料、染料、觀賞用等に供するものあり。いね、おほむぎ、こむぎ、ライムギ、オートムギ、あはき、びたうもろこし、もろこし、ひえ等は種子を食用となし、さたらき、びさたらうもろこし等は砂糖の原料となし、むぎ類及び多數の禾本科植物は家畜の飼料となし、たけ類は建築及び器具の料となし、又むぎ類の莖は編物細工に用ひ、すすき、むぎ類等は屋根を葺くに用ひ、いねの莖及び其の他の禾本科植物を製紙の料となし、かりやす、こぶな、ごさ等は染料となし、こぼん、さうたけ類等は觀賞用に供す。

莎草科

第二 莎草科

此の科の植物は禾本科に類し、細長き葉を有す。莖は充實し、明瞭なる節を有せず、往々稜柱狀をなす。葉は互生して三縦列をなし、葉柄は概ね管狀に結合して莖を包む。花は兩性或は單性にして通常穗狀花序をなし、一乃至三箇の穎を有す。花被は全く缺如するか或は不完全にして筒狀、毛狀、鱗片狀等なり。雄蕊は一乃至十二箇あり。胚は胚乳の基部の中央に位す。



肉穗花類

第二百四十七圖



かやつりぐさ

はますびは藥用に供し、埃及に産するかみやつりは紙を作るに用ひ、又編物用となし、しちたうるふとゐ等は疊表席等を作るに用ひ、かさすびは笠を編むに用ひ、又此の科の植物には家畜の飼料に供すべきもの多し。

第五目 肉穗花類

此の科は凡そ二千六百種の植物より成り、地球上の各地に産す。本邦に最も普通なるものはかやつりぐさはますび(莎草)等なり。

效用 此の科には有用なるもの少し、然れどもくろくわゐの如きは其の塊莖を食用となし、

此の目に於ては花は通常單性にして肉穗花序に排列し、多くは大形の苞を具ふ。花被は萼狀なるか或は存在せず。葉は往々網脈を有し、雙子葉類の葉に類す。

此の目を分ちて眼子菜科浮萍科天南星科香蒲科露兜樹科及び棕櫚科の六科となす。

眼子菜科

第一 眼子菜科

此の科の植物は水中或は沼地に生ずる草本にして葉は對生互生或は稀に輪生し、水中に沈在し或は水面に浮ぶ。花は兩性或は單性にして小形なり。花蓋は筒狀なるか一箇若くは數箇の片より成るか或は存在せず。雄蓋は通常一乃至六箇あり。雌蓋は一乃至六箇の心皮より成り、心皮は離生するか或は結合す。各心皮は一室にして一乃至多數の胚珠を含む。果實は胞果瘦果或は小核果等なり。種子は胚乳を有せず。

此の科は凡そ百五十種の植物より成り、温帯及び熱帶地方に産す。本邦に産する普通のものにはひるむしろ眼子菜(えびもいばら)もあまも等なり。



浮萍科

效用 此の科には有用なるもの少し、然れどもあまもの如きは肥料となし、又乾かして布團・椅子等の心に用ふ。

第二 浮萍科

此の科の植物は水面に浮遊する扁平の植物にして尋常葉を有せず。花は單性にして花被を有せず、雌雄同株に生ず。雄花は一箇の雄蕊より成り、雌花は一乃至六箇の胚珠を含める一室の子房より成る。果實は閉果或は裂果なり。種子は胚乳を有す。

此の科は二十餘種の植物より成り、温帯及び熱帯地方に産す。本邦に最も普通なるものはうきくさ(水萍)なり。

效用 此の科には有用なるものなし。

第三 天南星科

此の科の植物は草本或は木本にして概ね苛烈の汁液を含む。葉は單葉或は複葉にして概ね網脈を具ふ。花は單性或は兩性にして肉穂花序に排列す。其の單性なるものは雌雄同株に生ず。花序は概ね佛焰によりて被

天南星科

はる。花蓋は缺如するか或は鱗片より成る。雄花は少數或は多數の雄蕊より成り、雌花は一乃至數室の子房より成る。果實は漿果なり。種子は概ね胚乳を有し、稀に之を有せず。

此の科は凡そ九百種の植物より成り、熱帯及び温帯地方に産す。

てんなんしやう

效用 此の科には有毒なるもの多し、然れども食用薬用或は觀賞用等に供するものあり。さといもやつがしら等は食用となし、こんじやくいもの地下莖よりは菫弱(コンニャク)を製し、又此の部より採れる粉末を糊料に供す。しやうぶせきしやうからはすびしやく等は薬用となし、せきしや

圖八十四百二第





香蒲科

う、オランダかいうほうらいせう等は觀賞用となす。又てんなんしやう(天南星)うらしまさうざせんさう等は著名なる有毒植物なり。

第四 香蒲科

此の科の植物は水中或は沼地に生ずる多年生草本にして根莖を有す。葉は互生し、線形全邊にして平行脈を有す。花は單性にして雌雄同株に生じ、肉穂花序或は頭狀花序に排列し、眞正の花被を有せず。雄花は一乃至六箇の雄蕊を有し、雌花は一箇の胚珠を含める一乃至二室の子房を有す。果實は乾果或は肉果なり。種子は胚乳を有す。

此の科は二十餘種の植物より成り、熱帶温帶及び寒帶地方に産す。

效用 此の科には有用なるもの少し、然れどもがま香蒲の如きは葉を席繩等に用ひ、果實を布團の心火口等となし、又若き莖葉を食することあり。

露兜樹科

第五 露兜樹科

此の科の植物は木本にして大形の氣根を生じ、莖の頂に葉を簇生す。葉は線狀披針形にして概ね其の縁邊に針狀の鋸齒を具ふ。花は總べて單性

棕櫚科

なるか或は兩性花を混じ、無枝或は有枝の肉穂花序に排列し、數箇の佛燄を具へ、花被は鱗片狀なるか或は存在せず。雄蕊は多數あり。子房は多數乃至一箇の室を有し、各室に一箇乃至多數の胚珠を含む。果實は核果狀或は漿果狀なり。種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ二百二十種の植物より成り、熱帶地方に産す。

效用 此の科には食用となすべき種子を生ずるもの、帽子を編むに適したる葉を有するもの等あり。たこのき(露兜樹)屬の植物は食用となすべき種子を生ず。又此の屬の植物には帽子を編むに適する葉を有するものあり。

第六 棕櫚科

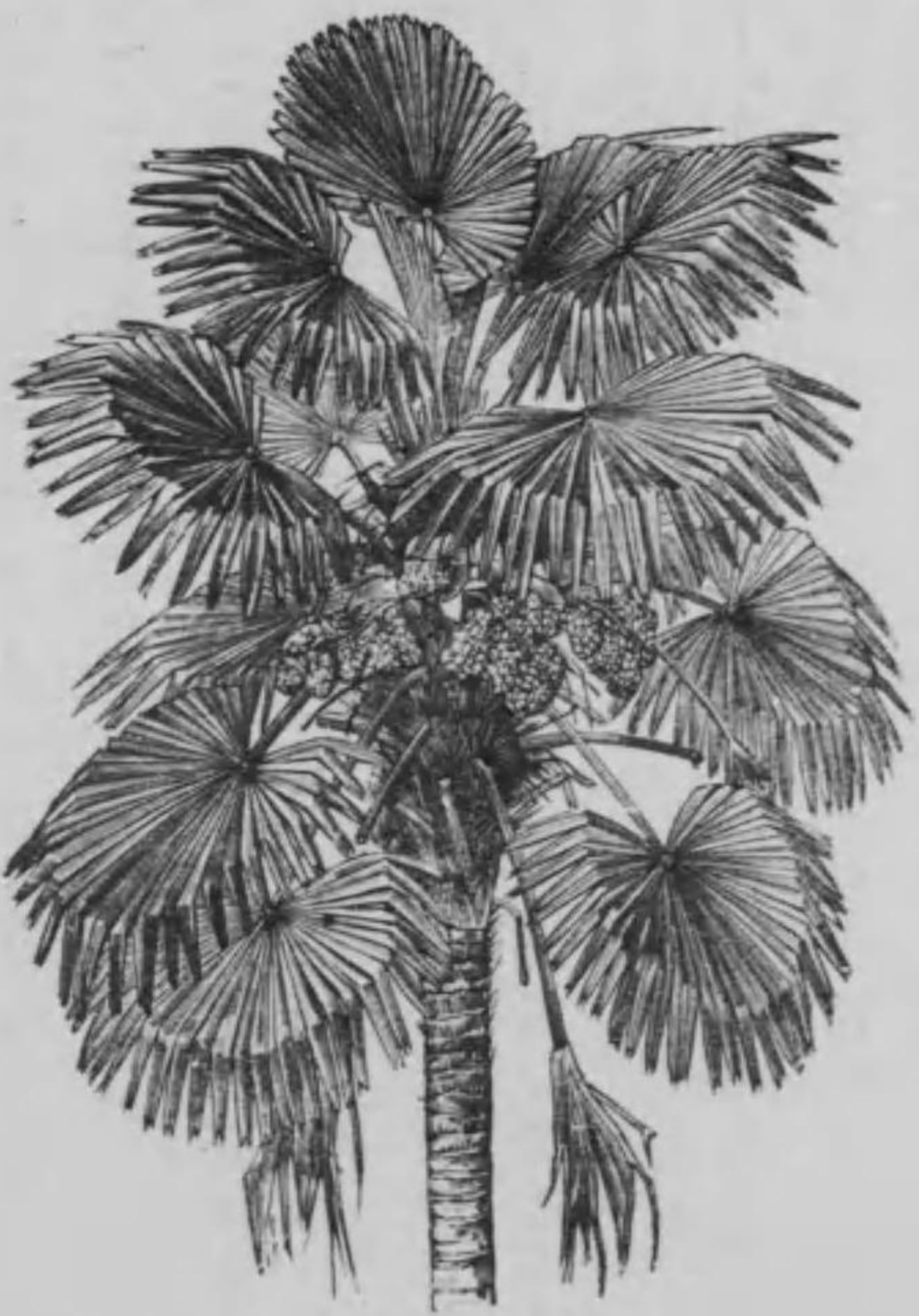
此の科の植物は木本にして莖の頂に葉を簇生す。莖は通例枝を有せず。葉は大形にして單葉或は複葉なり。單葉は掌狀或は羽狀に分裂し、複葉は掌狀或は羽狀なり。葉柄は鞘狀の脚部を有す。花は小形にして概ね單性に兩性なり。花序は通常有枝の肉穂花序にして大形の苞によりて圍ま



排列し、心皮は一乃至三箇あり、結合し或は離生す。果實は漿果、核果或は堅果状なり。種子は胚乳を有す。

しゅろ

第 二 百 四 十 九 圖



此の科は凡そ千二百種の植物より成り、主に熱帯地方に産す。

酒料・材用・雑用・觀賞用等に供するものあり。やし一名「ココヤシ」なつめやし「サゴヤシ」「キヤベツ」やし等は食用となし、さたらやしやしつど等より砂糖を

効用 此の科の植物は熱帯地方の住民に最も有用なるものなり。此の科には食用・糖料・油料・釀

製し、やし「ギニアあぶらやし」等より油を採り、やしの花軸より採りたる汁液を醸酒料となし、やし「なつめやし」「びらうしゅろ」(棕櫚)等を材用となし、たうの莖しゅろの葉鞘の纖維やしの葉及び果皮の纖維等を編物及び其の他の用に供し、ぎうげやしの種子の胚乳を扣鈕及び其の他の用となし、びんらうじの果實は健胃・利尿の效あり、且つ齒を強むるものにして東印度「マレー」半島等の土人は常に之を嚼む。

第六目 頂生胚類

此の目に於ては子房は上生にして直生胚珠を含み、胚は胚乳の頂に位す。花は兩性或は單性にして花蓋は整齊或は不整齊なり。

此の目を分ちて鴨跖草科及び穀精草科の二科となす。

第一 鴨跖草科

此の科の植物は草本にして節の明瞭なる莖を有す。葉は單葉、全邊にして互生し、脚部は鞘状をなして莖を包む。花は概ね兩性なり。花蓋は整齊或は不整齊にして二層に排列し、外層は三箇の萼片より成りて宿存し、内層

頂生胚類

鴨跖草科



つゆくさ



第二百十五圖

熱帶地方に産し、少數は温帶地方に産す。

效用 此の科には觀賞用に供するものあり、又染料となすものあり。むらさきおもとむらさきつゆくさ等は觀賞用となし、つゆくさ、鴨跖草の花を染料に供す。

は三箇の花弁より成り、花後概ね融解す。雄蕊は六箇或は三箇乃至五箇あり、其の内數箇は往來葯を有せず。雌蕊は三乃至二室の子房を有し、果實は蒴なり。種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ三百種の植物より成り、多數は

穀精草科

第二 穀精草科

此の科の植物は沼地に生ずる草本にして通常禾本科に似たる細長き葉を有す。花は通常單性にして多數集生し、穎に似たる苞を有す。雄花は二層の花蓋を有し、外層は二箇或は三箇の片より成り、内層は筒狀にして二裂或は三裂す。雄蕊は内層の花蓋の裂片と同數或は其の二倍なり。雌花は二層の花蓋を有し、内外層共に通常三箇稀に二箇の片より成り、三箇或は二箇の心皮より成れる子房を有す。果實は蒴にして種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ五百五十種の植物より成り、多數は熱帶地方に産し、少數は温帶地方に産す。

效用 此の科には有用なるものなし、然れどもほしくさ、穀精草を觀賞用に供することあり。

第七目 百合花類

百合花類

此の目に於ては花は概ね美麗なる花蓋を有し、雄蕊は六箇或は三箇あり。子房は上生或は下生にして三室を有し、通常數箇乃至多數の胚珠を含み、種



子は胚乳を有す。

此の目を分ちて狸菖蒲科水葵科山藤科鳳梨科薯蕷科鳶尾科燈心草科百部科石蒜科及び百合科の十科となす。

狸菖蒲科

第一 狸菖蒲科

此の科の植物は沼生の草本にして纖維根を有す。莖は直立し、枝を有せず。葉は劍狀にして脚部は莖を抱く。花は穗狀花序或は總狀花序に排列し、大形の苞を有す。花蓋は花冠様にして色を呈す。雄蕊は一箇あり擴がりたる花絲を有す。子房は上生にして三室或は一室を有し、多數の胚珠を含む。果實は蒴にして種子は胚乳を有す。

此の科は四種の植物より成り、本邦の南部、東印度及び濠洲に産す。本邦に産するものはたぬきあやめ、狸菖蒲なり。

效用 此の科には有用なるものなし。

水葵科

第二 水葵科

此の科の植物は池沼に生ずる草本なり。葉は互生し、葉身は卵形、圓形或

は心臟形等をなし、葉柄の中部は往々膨大す。花は穗狀花序或は圓錐花序に排列す。花蓋は筒狀にして六裂し、概ね青色、紫色或は白色にして美麗なり。花蓋の裂片は不整齊なり。雄蕊は六箇或は三箇あり。子房は上生にして三室を有し、概ね多數の胚珠を含む。果實は蒴なり。種子は胚乳を有す。此の科は凡そ二十四種の植物より成り、熱帯及び溫帶地方に産す。

山藤科

第三 山藤科

此の科の植物は木本或は草本にして莖は直立し或は上昇す。葉の下部は鞘狀をなし、其の先端は往々伸長して卷鬚狀をなす。花は小形にして圓錐花序に排列し、兩性或は單性なり。花蓋は覆瓦様に排列せる六片より成りて宿存す。雄蕊は六箇あり。子房は上生にして三室を有し、各室に一箇の胚珠を含む。果實は漿果或は核果なり。種子は胚乳を有す。

此の科は七種の植物より成り、亞細亞、亞非利加及び濠洲の熱帯に産す。



鳳梨科

效用 此の科には觀賞用に供するものあり、**さんとう**(山藤)の如きはなり。  
第四 鳳梨科

此の科の植物は通常草本稀に木質の植物にして多くは附著植物なり。葉は常緑にして硬く、概ね縁邊に鋭き鋸齒を具ふ。花は通常兩性にして穂状花序總状花序或は圓錐花序等に排列す。花蓋は二層に排列し、各層は三片より成り、外層は美麗ならず、内層は美麗なり。雄蕊は六箇あり。子房は三室にして上生半下生或は下生なり。胚珠は多數あり。果實は漿果或は蒴なり。種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ一千種の植物より成り、重に亞米利加の熱帶地方に産す。  
效用 此の科には美味なる果實を生ずるもの、纖維料に供するもの等あり。**「アナナス」**鳳梨は此の科の植物中最も美味なる果實を生じ、又其の葉より纖維を採る。

薯蕷科

第五 薯蕷科

此の科の植物は多年生の草本或は小灌木にして纏繞莖を有し、葉は互生

鳶尾科

つくねいも

圖一十五百二第



或は稍對生し、葉身は全邊或は掌狀に分裂して網脈を有し、葉柄を具ふ。花は單性にして總状或は穗状花序に排列す。花被は六裂し、雄蕊は六箇或は三箇あり。子房は下生にして三室を有し、各室に一箇二箇或は多數の胚珠を含む。果實は蒴或は漿果なり。種子は胚乳を有す。  
此の科は凡そ二百二十種の植物より成り、重に熱帶地方に産す。  
效用 此の科には食用或は觀賞用等に供するものあり。**つくねいも**や**まのいも**薯蕷等は食用となし、**つるかめさう**の如きは觀賞用に供す。

第六 鳶尾科



燈心草科

此の科の植物は多年生草本にして概ね根莖鱗莖或は塊莖を有す。葉は概ね劍狀にして其の基部は交互に相抱く。花は兩性にして大形の苞を有し、花蓋は美麗にして六裂し、二層に排列し、内層の三片は往々外層の片より小形なり。雄蕊は三箇ありて外向薬を有す。子房は下生にして三室を有し、花柱は三裂し、往々花瓣様をなす。果實は蒴なり。種子は多數ありて胚乳を有す。

此の科は七百五十餘種の植物より成り、温帯及び熱帯地方に産す。

效用 此の科には觀賞用に供するもの多く、又薬用となすものあり。はなしやうぶかきつばたあやめいちはず(鳶尾)ひあふぎ、サフラン、しやが等は觀賞用となし、サフランの如きは薬用に供す。

第七 燈心草科

此の科の植物は一年生或は多年生草本にして禾本科に似たる細長き葉を有するものあり、或は細長き綠色の莖を有し、鱗狀の葉を生ずるものあり。花は概ね兩性にして各の花は一箇の小苞を具ふ。花蓋は六片より成りて

百部科

二層に排列し、穎の如き觀を呈し宿存す。雄蕊は通常六箇稀に三箇あり。子房は上生にして三室或は一室を有し、各室に一乃至多數の胚珠を含む。果實は蒴にして種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ二百九十種の植物より成り、重に温帯地方に産す。

效用 此の科にはる燈心草、こひげ等の如く蠟表用に供するものあり。又ゐの莖の心を燈心と稱し、之を燈用及び其の他種々の用に供す。

第八 百部科

此の科の植物は草本にして往々纏繞す。葉は互生對生或は輪生し、花は整齊、兩性にして葉腋に生ず。花蓋は四片より成りて二層に排列す。雄蕊は四箇あり。子房は上生にして一室を有し、二箇或はそれより多數の胚珠を含む。果實は蒴にして種子は胚乳を有す。

此の科は少數の植物より成り、亞細亞、濠洲及び亞米利加に産す。

效用 此の科には薬用に供するものあり、びやくぶ(百部)の如き是なり。

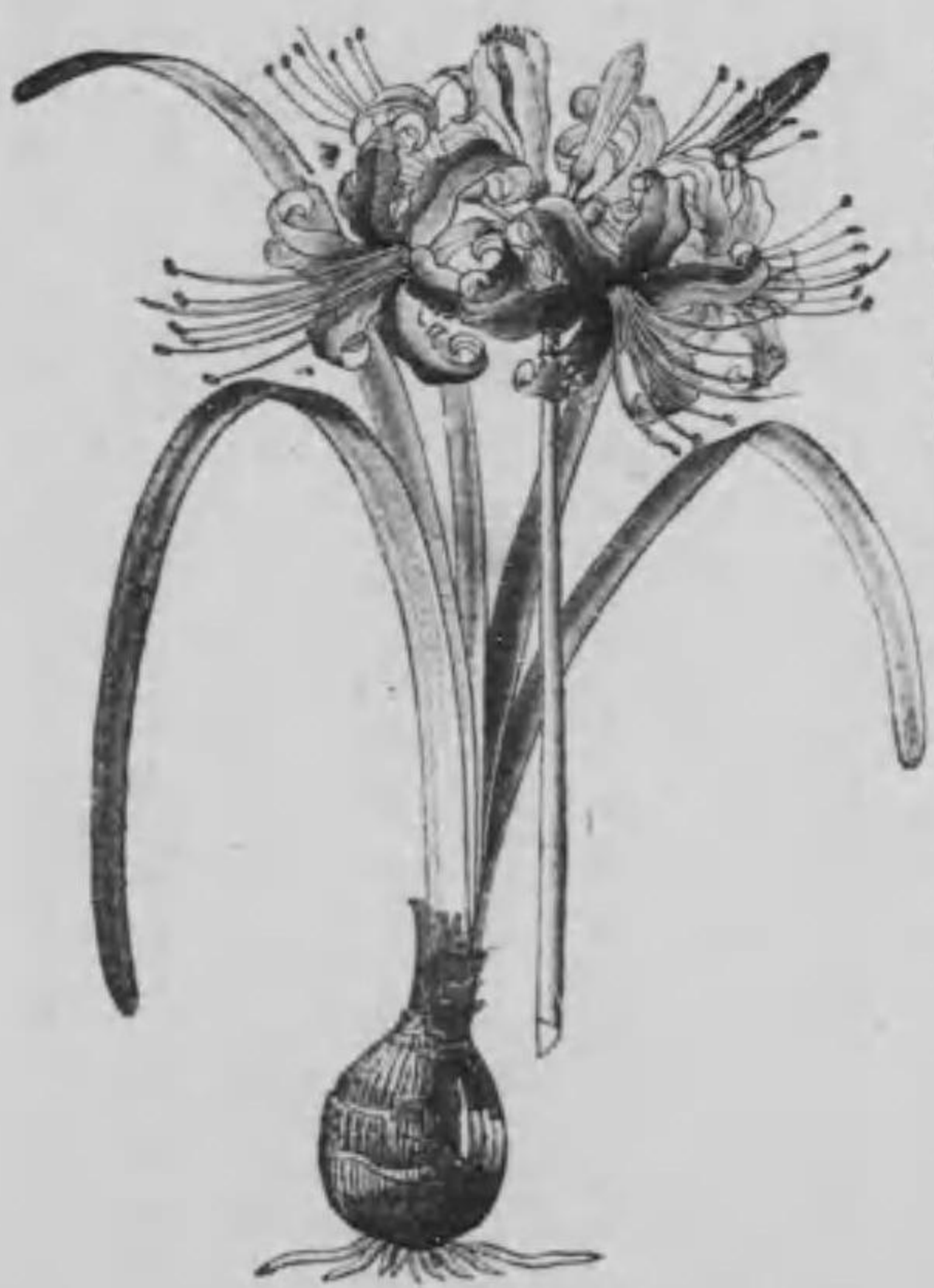
第九 石蒜科

石蒜科



此の科の植物は多年生草本にして概ね鱗莖を有す。葉は通常地下部より生じ、全邊にして平行脈を有す。花は兩性にして單生し或は繖形花序に排列し、稀に穗狀花序に排列し、孰れの場合に於ても佛燄狀の苞を具ふ。花蓋は美麗にして六片より成り、二層に排列し、往々結合して筒狀をなし、種類によりては其の咽部に小舌を具ふ。雄蕊は六箇あり。子房は下生にして三室を有し、概ね多數の胚珠を含む。果實は蒴或は稀に漿果なり。種子は胚乳を有す。

第二百五十五圖



まんじゆしやけ

此の科は七百五十餘種の植物より成り、熱帯及び温帶地方に産す。效用 此の科には觀賞用に供するもの多く、

又纖維料、醸酒用、藥用、澱粉料等に供するものあり。すゐせんきずゐせん、アマリリス、りゆうぜつらん、たますだれ等は觀賞用となし、りゆうぜつらんの葉より纖維を採り、又葉の汁液を以て一種の酒を醸す。すゐせん及びりゆうぜつらんの地下部を藥用に供す。まんじゆしやけ(石蒜)、きつねのかみそり等は有毒植物なれども、其の地下部より澱粉を採る。

百合科

第十 百合科

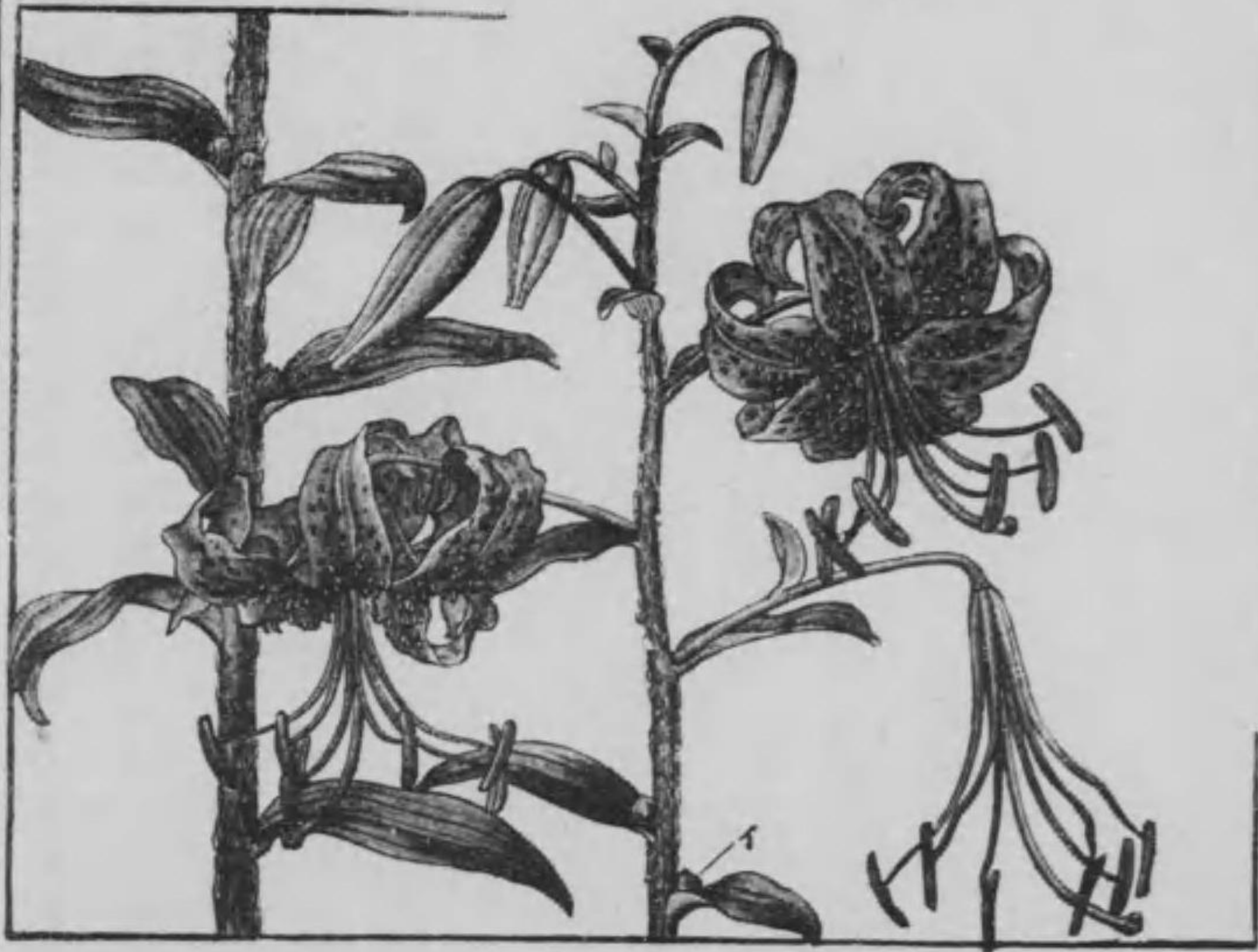
此の科の植物は通常草本稀に木本にして平行脈を具へたる單葉を有す。花は兩性にして概ね同質の花蓋を有す。花蓋は概ね六片より成り、美麗にして二層に排列し、雄蕊は概ね六箇あり。子房は上生にして三室を有し、各室に數箇乃至多數の胚珠を含む。果實は蒴或は漿果なり。種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ二千六百種の植物より成り、地球上の各地に産す。

效用 此の科には觀賞用に供するもの多く、又食用、澱粉料、藥用、纖維料等に供するものあり。チーリップ、ゆり(百合)類、きぢやうさうぎ、はうしゆ類。



圖 三 十 五 百 二 第



おにゆり  
イ、珠芽

なぎいかたは  
らん、ピアシン  
おもといと  
らん等は觀賞  
用となし、ぬぎ  
たまねぎらつ  
きようあさつ  
きにらまつば  
うどゆり類く  
さすぎかづら  
等は食用とな  
しかたくりう  
はゆりあまど  
ころ等は澱粉

料となし、かいそう、コルシクム、サルサ、ろくわい等は薬用となし、ニージー  
ランド、あさいとらん等は纖維科となす。

第六章 裸子植物

第二部 裸子植物

麻黄科

圖 四 十 五 百 二 第



うわま

裸子植物を分ちて麻黄  
科、松杉科、一位科、公孫樹科  
及び蘇鐵科の五科となす。

第一 麻黄科

此の科の植物は木本に  
して莖は明瞭なる節を有  
し、枝を生ぜず或は之を生  
ず。葉は對生して分裂せ  
ず。花は單性にして雌雄



同株或は異株に生ず、或は稀に兩性花の如く見ゆ。花は萼を有し、雄花は二乃至八箇の雄蕊を具ふ。雌花は一箇或は二箇の裸生胚珠を有し、種子は肉質或は革質の種被を具へ胚乳を有す。

此の科は凡そ四十六種の植物より成り、熱帯及び温帯地方に産す。

效用 此の科には有用なるもの少し、まわら麻黄は有毒植物なれども往時は收斂薬として下痢を治するに用ひたり。又「エルキチア」一名「ツンボサ」は尋常葉を生ずることなく、宿存して次第に成長する子葉を有するを以て著名なり。

松杉科

第二 松杉科

此の科の植物は木本にして莖は枝を生ず。葉は概ね狭長或は鱗狀なり。花は單性にして概ね雌雄同株に生じ稀に異株に生ず。雄花は數箇或は多數の雄蕊より成り、雌花は數箇或は多數の鱗片狀をなせる雌蕊より成り、果實は毬果にして概ね乾燥し稀に肉質なり。種子は胚乳を有す。

此の科は凡そ三百種の植物より成り、重に温帯地方に産す。

效用 此の

科の植物には材用に供するもの多く、又薬用・食用・觀賞用等となすものあり。ひのき、さはらすぎ、つがみあかまつくろまつ、かうやまき、ふじまつ等は材用となし、としよらの果實、カナ

第 二 百 五 十 五 圖



すき  
イ、雌花  
ロ、雄花  
ハ、毬果



一位科

圖六十五百二第



もみ

えふざんまつ類かうやまき等は觀賞用に供す。

第三 一位科

圖七十五百二第

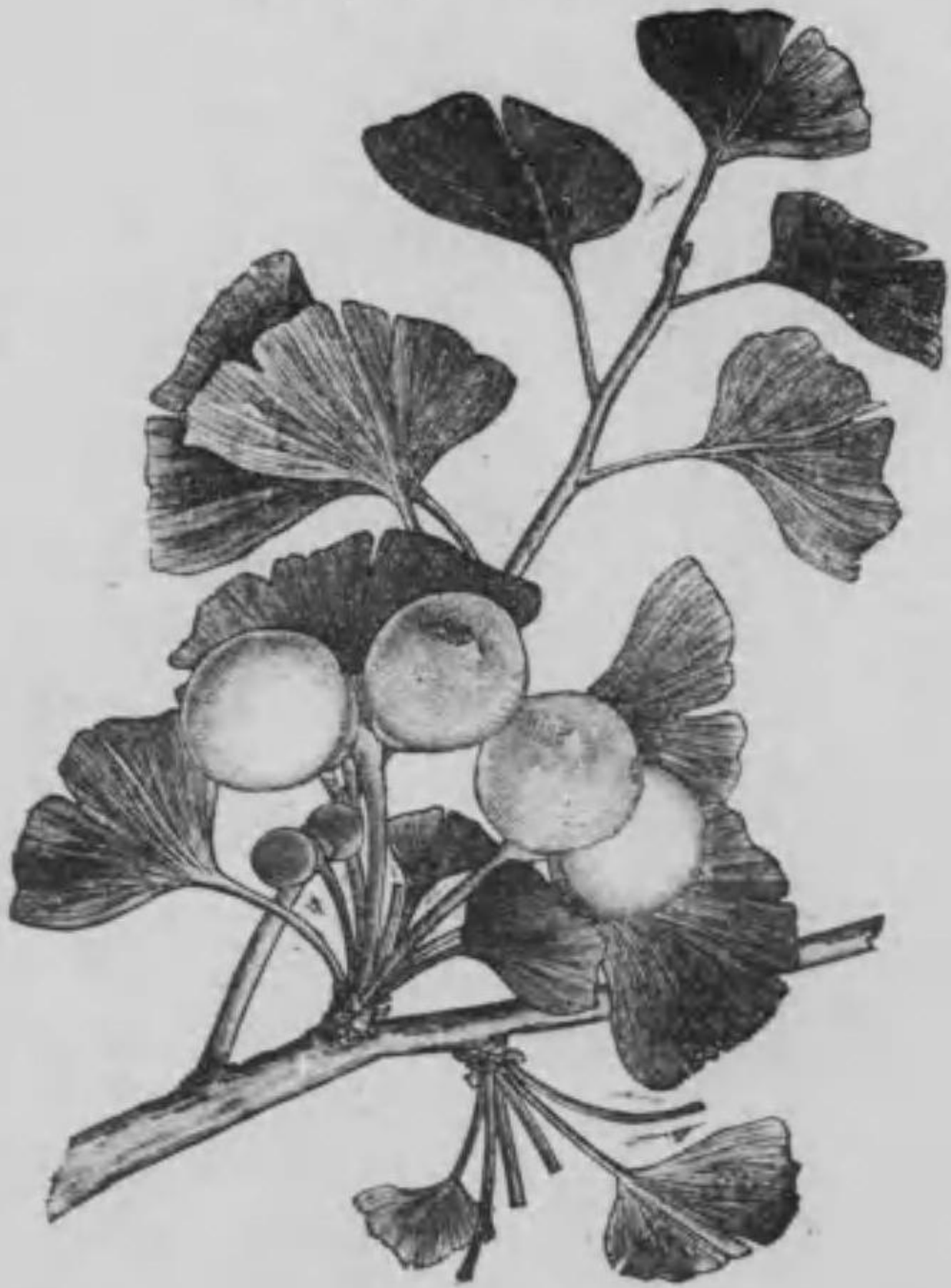


いちろ

ダバルサムのきの樹脂まつ類より採りたる松脂等は薬用となし、てうせんまつの種子の如きは食用となし、ひのきはらちやほひはしのふひはひよくひはこのてがしはあすなるくわう

公孫樹科

圖八十五百二第



いてふ

此の科の植物は木本にして莖は枝を生ず。葉は概ね線形或は披針形なり。花は單性にして雌花は單生し、種子は概ね核果様にして胚乳を有す。此の科は凡そ七十種の植物より成り、温帯及び亞熱帯地方に産す。

效用 此の科には材用に供するもの多く、又食用・油料・觀賞用等となすものあり。いちろ(一位)

かやなぎまきいぬがや等は材用及び觀賞用となし、かやの種子を食用及び油料となし、又いぬがやの種子より油を搾る、此の油は有毒なり。

第四 公孫樹科

此の科の植物は木



蘇鐵科

本にして莖は枝を生ず。葉は扇形にして二裂し、花は單性なり。胚珠は裸生し、成長して核果様の種子となる。花粉管は精蟲を生ず。

此の科は一種の植物即ちいてふ公孫樹より成り、東部亞細亞に産す。

效用 いてふは材用及び觀賞用となし、又其の種子を食用に供す。

圖九十五百二第



第五 蘇鐵科

此の科の植物は木本にして莖は通常枝を生ぜず、或は極めて少數の枝を生ず。葉は羽状をなし、莖の頂に聚

生し、花は單性にして雌雄異株に生ず。雄蓋は大形扁平にして其の下面に多數の葯胞を有す。雌蓋は扁平にして胚珠を裸生す。種子は核果様にして胚乳を有す。花粉管は精蟲を生ず。

此の科は凡そ九十種の植物より成り、重に熱帶及び亞熱帶地方に産す。

效用 此の科には食用及び觀賞用に供するものあり。そてつ(蘇鐵)は種子を食用に供し、其の莖より澱粉を採り、又此の植物を觀賞用となす。

### 第七章 羊齒植物

隱花植物

第一部 羊齒植物

第一綱 蕨類

此の綱の植物を蕨科及び羊齒科の二科に分つ。

第一 蕨科

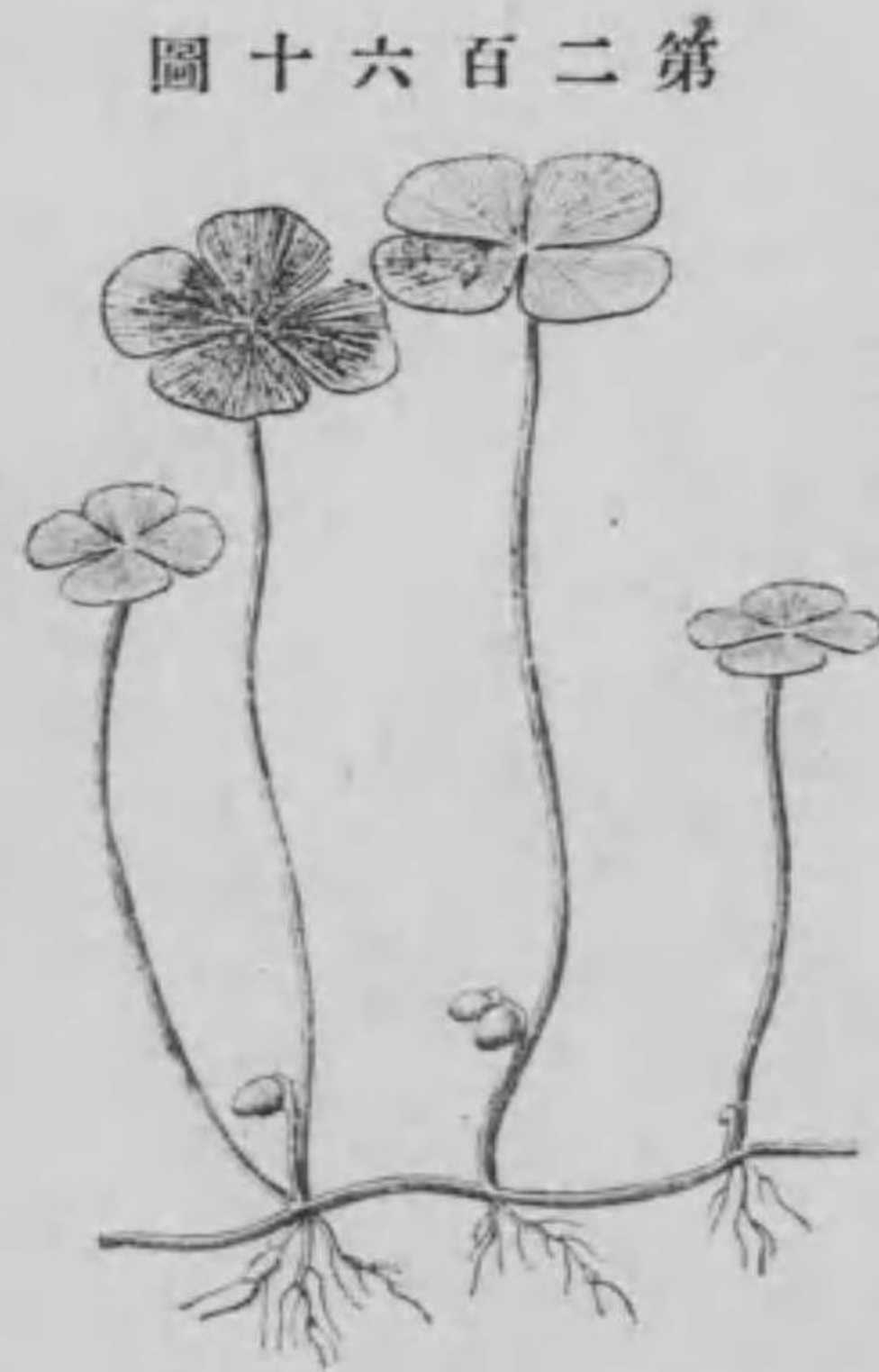
此の科の植物は水田池溝等に産し、大小二種の胞子を生ず。大胞子は一

蕨科



羊齒科

筒づつ大子囊内に生じ、小胞子は多數小子囊内に生ず。  
てんじさう



此の科は七十餘種の植物より成り、温帯及び熱帯地方に産す。本邦に産するものはてんじさう（蘋）、さんせうも及びあかうきくさの三種なり。  
效用 此の科には有用なるものなし。

第二 羊齒科

此の科の植物は概ね陸地に生じ、よく發育せる葉を有す。胞子は一種なり。子囊は多くの場合に於ては數箇或は多數聚生して子囊群を形成す。  
此の科は凡そ三千五百種の植物より成り、熱帯及び温帯地方に産す。  
效用 此の科には食用材用、纖維料、藥用、觀賞用、雜用等に供するものあり。わらび、ぜんまい等の葉は食用となし、又わらびの根莖より澱粉を採る。へ

圖 一 十 六 百 二 第



- 一、わらびの葉
- 二、同上の一部
- 三、ぜんまいの普通の葉
- 四、同上の子囊を有する葉

ごまるはち等の莖は材用となし、ぜんまいの毛は織物用となし、わらびの根莖は繩となし、めんまの根莖の如きは藥用となし、りうびんたいたましたしのぶいはおも



圖二十六百二第



蘭科及び石松科の四科に分つ。

水韭科

第一 水韭科

此の科の植物は水中に沈在し、短き莖を生ず。葉は細長くして脚部に小舌片を有し、多數簇生す。胞子には大小の二種あり。大子囊は多數の大胞

だかひとつはへど

まるはちやぶそて

つくさそてつ等は

觀賞用となし、うら

じろは新年の飾に

用ひ、又其の葉柄を

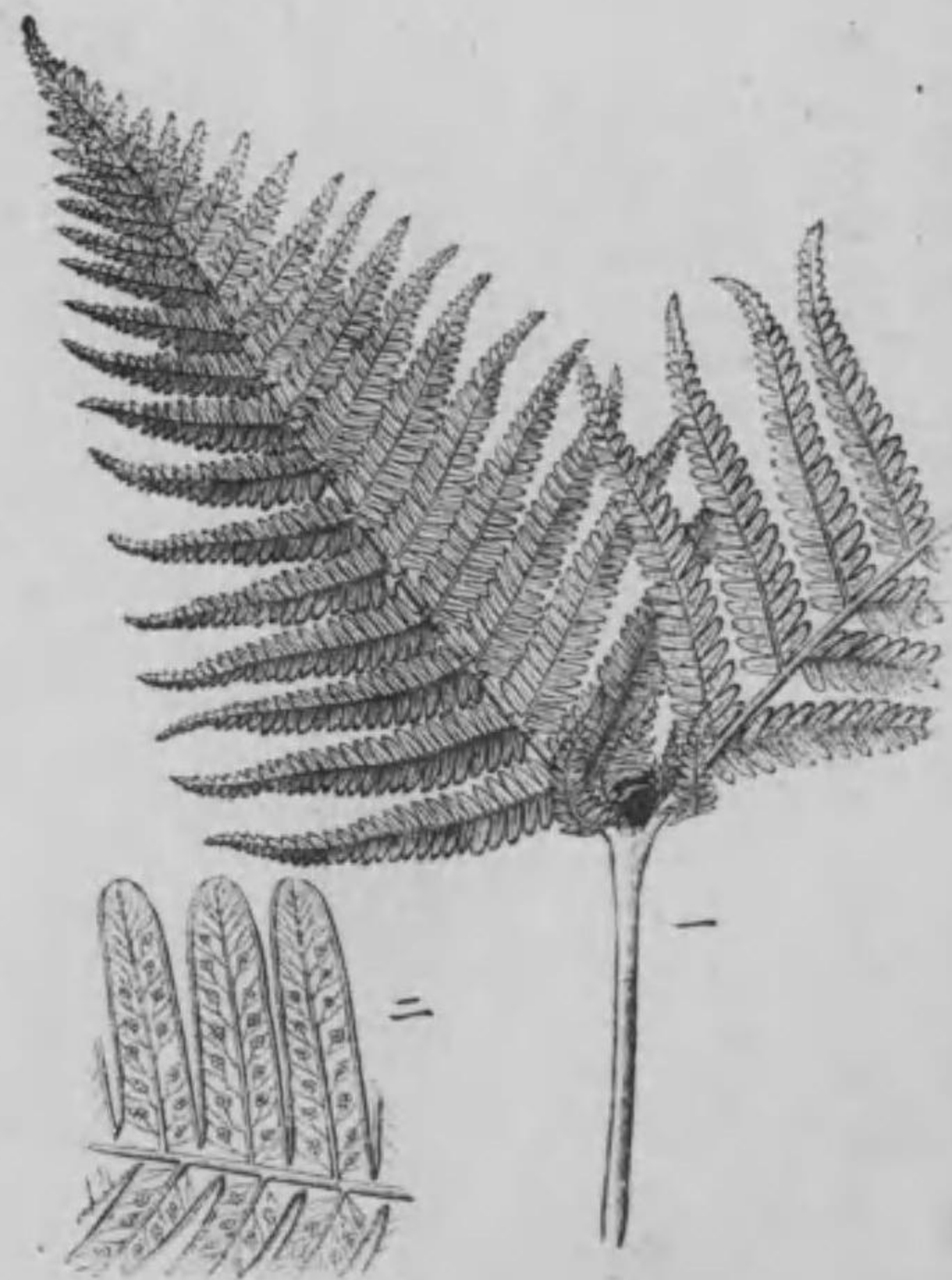
箬簾等に作る。

第二綱 石松類

此の綱の植物を

水韭科 卷柏科 松葉

圖三十六百二第



うらじろ

一、葉

二、葉の一部にして子囊を示す

子を含み、小子囊は多數の小胞子を含む。

此の科は凡そ六十種の植物より成り、熱帯及び温帯地方に産す。本邦に産する普通のもののみづにら水韭なり。

效用 此の科には有用なるものなし。



卷柏科

第二 卷柏科

此の科の植物は陸地に生じ、分岐せる細長き莖を有す。葉は小形鱗片状にして脚部に小舌片を具

いはひば



圖四十六百二第

いはひば(卷柏)かたひばくらまごけ等は觀賞用に供す。

松葉蘭科

第三 松葉蘭科

ふ。胞子には大小の二種あり。大子嚢は通例四箇づつの大胞子を含み、小子嚢は無数の小胞子を含む。此の科は凡そ七百種の植物より成り、重に熱帶地方に産す。

效用 此の科には有用なるもの少し。然れども

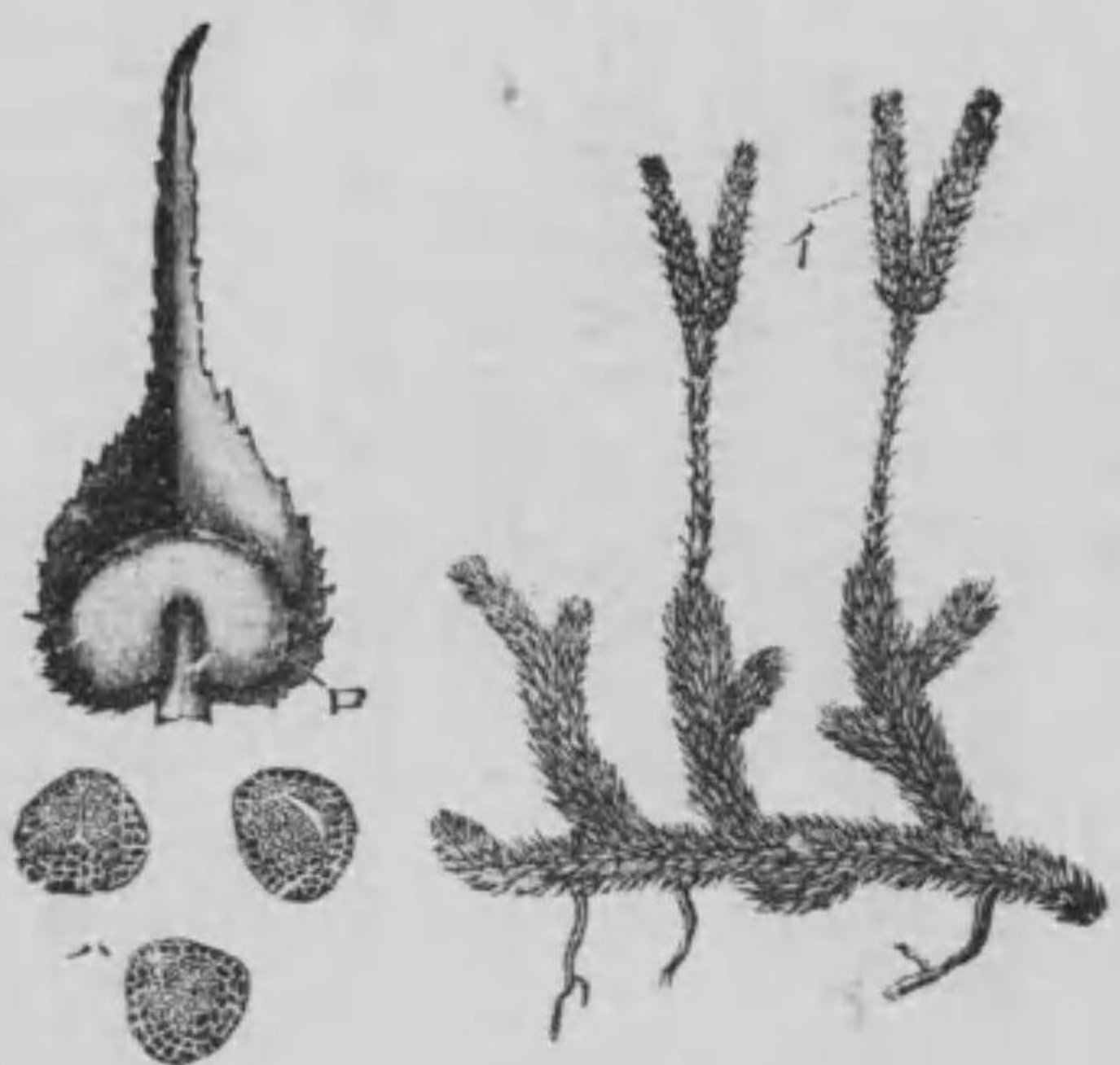
石松科

第四 石松科

此の科の植物は真正の根を有せず、往々樹上に著生す。胞子は一種にして二室或は三室をなせる子嚢中に生ず。

此の科は四種の植物より成り、熱帯及び亞熱帶地方に産す。效用 此の科には觀賞用に供するものあり、まつばらん(松葉蘭)の如き是なり。

圖五十六百二第



ひかげのかつら  
イ、子嚢を有する特別の枝  
ロ、子嚢  
ハ、胞子

此の科の植物は陸地に生じ、細長き莖を有す。葉は小形にして密生す。胞子は一種なり。子嚢は葉の基部に單生し、一室を有し、成熟すれば縦に二



分す。

此の科は凡そ二百種の植物より成り、熱帯及び温帯地方に産す。

效用 此の科には有用なるもの少し。然れどもひかげのかづら(石松)ま  
んねんすぎなんかくらん等は觀賞用となし、又ひかげのかづらの胞子は薬  
用及び煙花用に供す。

第三綱 木賊類

此の綱には木賊科の一種あり。

第一 木賊科

此の科の植物は陸地或は水地に生じ、明瞭なる節を具へたる中空の莖を  
有す。葉は小形鱗片状にして鞘状に輪生す。胞子は一種あり。子嚢を生  
ずる葉は楕形をなし、多數聚りて筆頭状を呈す。

此の科は二十四種の植物より成り、熱帯温帯及び寒帯地方に産す。

效用 此の科には有用なるもの少し。然れどもとくさ木賊の莖は物を  
磨くに用ひ、すぎなの胞子を生ずる枝即ちつくしは食用に供し、又とくさは

木賊科

觀賞用として栽培す。

第八章 蘚苔植物

第二部 蘚苔植物

第一群 蘚類

此の群に於ては有性世代は莖及び葉を有し、通常假根によりて他物に附  
著す。假根は多細胞より成る。無性世代は有性世代に著生し、概ね有柄の  
子嚢體より成り、子嚢體は概ね中軸を具へ、成熟すれば通常蓋を開きて胞子  
を出だす。此の子嚢體は概ね笠を具ふ。胞子は發芽して絲狀體となり、此  
の體より芽を生じ、芽は成長して有性世代の植物となる。

此の群の植物を眞蘚科閉囊蘚科裂囊蘚科及び水蘚科の四科に分つ。

第一 眞蘚科

此の科に於ては子嚢體は笠を具へ、蓋を開きて胞子を出だし、子嚢體の口  
縁は概ね齒毛を有し、子嚢體の中軸は概ねよく發育す。

眞蘚科



第二百六十六圖



すぎこけ  
 イ、無性世代  
 ロ、有性世代  
 ハ、假根  
 ニ、有毛の笠  
 ホ、子囊體

此の科は一萬二千餘種の植物より成り、熱帶温帶及び寒帶地方に産す。  
 效用 此の科には有用なるものなし。然れどもかうやのまんねんどさ  
 すぎこけ等の如きは觀賞用に供することあり。

閉囊蘚科

此の科に於ては子囊體は全く閉合するか或は甚だ不規則に裂開す。  
 此の科は少數の植物より成る。

裂囊蘚科

第三 裂囊蘚科  
 此の科の植物は岩石上に生じ、帯黒色を呈す。子囊體は假柄を有し、縦に

四裂す。

此の科は凡そ一百五種の植物より成り、重に高山に生ず。本邦の高山に  
 産するものはくろごけなり。

效用 此の科には有用なるものなし。

水蘚科

第四 水蘚科

此の科の植物は沼地に生じ、淡綠色を呈す。子囊體は假柄を有し、笠を具  
 へず、成熟すれば蓋を開きて胞子を出だす。葉及び莖は環紋或は螺旋紋を  
 具へたる有孔の大細胞を有し、此の細胞内に水を貯ふ。

此の科は凡そ二百五十種の植物より成る。

效用 此の科の植物は水分を長く貯ふる性あるを以て、生活する植物を  
 輸送する時其の根を包むに用ふ。

第二群 苔類

此の群に於ては有性世代は莖及び葉を有するか、或は是等の部分を有せ  
 ずして葉狀體より成る。孰れの場合に於ても植物體は表裏の兩面を具へ、



鱗苔科

單細胞の假根を有す。子囊體は概ね中軸を具へず、成熟すれば二乃至八片に縦裂し、或は不規則に裂開し、或は全く裂開せず。笠は存在せず。胞子は概ね彈絲を伴ひ、發芽して不明瞭なる絲狀體を生ず。

此の群の植物を鱗苔科、角苔科及び地錢科の三科に分つ。

第一 鱗苔科

此の科に於ては有性世代は葉狀體より成るか、或は莖及び葉を有し、子囊體は概ね縦に四分して胞子を出だす。

此の科は凡そ三千五百種の植物より成る。

效用 此の科には有用なるものなし。

第二 角苔科

此の科に於ては有性世代は葉狀體より成り、子囊體は長き角狀にして中軸を有し、成熟すれば縦に二分す。

此の科は一百餘種の植物より成る。

效用 此の科には有用なるものなし。

角苔科

地錢科

圖七十六百二第



せごけ  
一、同上の雄株  
二、同上の雌株  
へ、雄器を生ずる體  
ト、雌器を生ずる體  
チ、杯狀の器官  
リ、假根

第三 地錢科

此の科に於ては有性世代は葉狀にして往々其の下面に葉の痕跡を有す。子囊體は無柄或は有柄にして裂開せず、或は不規則に裂開す。

此の科は二百七十餘種の植物より成る。普通なるはぜにごけ(地錢)なり。



效用 此の科には有用なるものなし。

### 第九章 菌類

#### 第三部 菌藻植物

##### 第一綱 菌類

##### 第一群 地衣類

此の群は菌類と藻類との共生によりて成れるものなれども、菌類は主體にして十分に發育し、生殖器を生じ、藻類は決して生殖器を生ぜず。

地衣類には其の體の全部に藻類を含めるものあり、之を**同層地衣**或は**混層地衣**といひ、又其の體の特別の部にのみ藻類を含めるものあり、之を**異層地衣**或は**別層地衣**といふ。

地衣類に於ては其主體をなせる菌類は胞子を生ずれども、此の胞子は繁殖の用をなすこと少くして此の群の植物は多くは粉狀體によりて繁殖す。粉狀體は粉狀の小體にして藻類を包める菌絲の集りより成る。

同層地衣  
異層地衣  
粉狀體

木狀地衣  
葉狀地衣  
固著地衣  
擔子胞地衣類  
擔子細胞

地衣類には木狀をなすものあり、之を**木狀地衣**と稱し、葉狀をなすものあり、之を**葉狀地衣**と稱し、岩石或は樹皮に固著して特殊の形狀を呈せざるものあり、之を**固著地衣**と稱す。

此の群の植物を分ちて**擔子胞地衣類**及び**子囊地衣類**の二別となす。

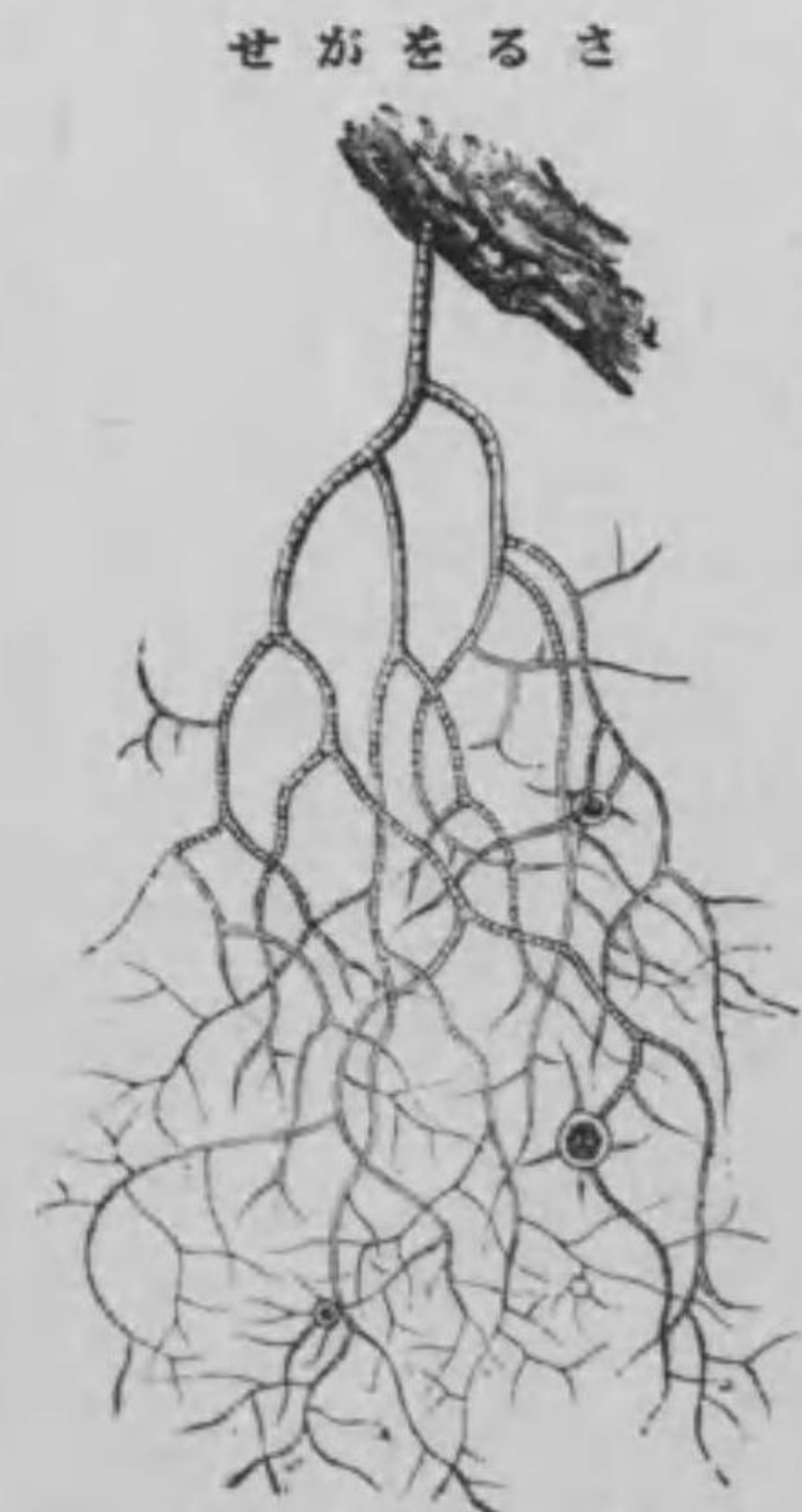
##### 第一 擔子胞地衣類

此の類の植物に於ては其の主體をなせる菌類は**擔子細胞**と稱する特殊の細胞の上に胞子を生ず。

第二百六十八圖



第二百六十九圖





子囊地衣類

此の類は少數の植物より成り、重に熱帶地方に産す。  
效用 此の類の植物には有用なるものなし。

第二 子囊地衣類

此の類の植物に於ては其の主體をなせる菌類は子囊内に胞子を生ず。  
此の類は六千餘種の植物より成り、温帶熱帶及び寒帶地方に産す。

效用 此の類の植物には有用なるもの少し、イスラント、ごけいはたけ等は食用となし、ざるをがせ、イスラント、ごけ等は薬用となし、リトマス、ごけの如きはリトマス液を製し、之を化學上の試薬に用ふ。

第二群 真菌類

第一目 擔子胞菌類

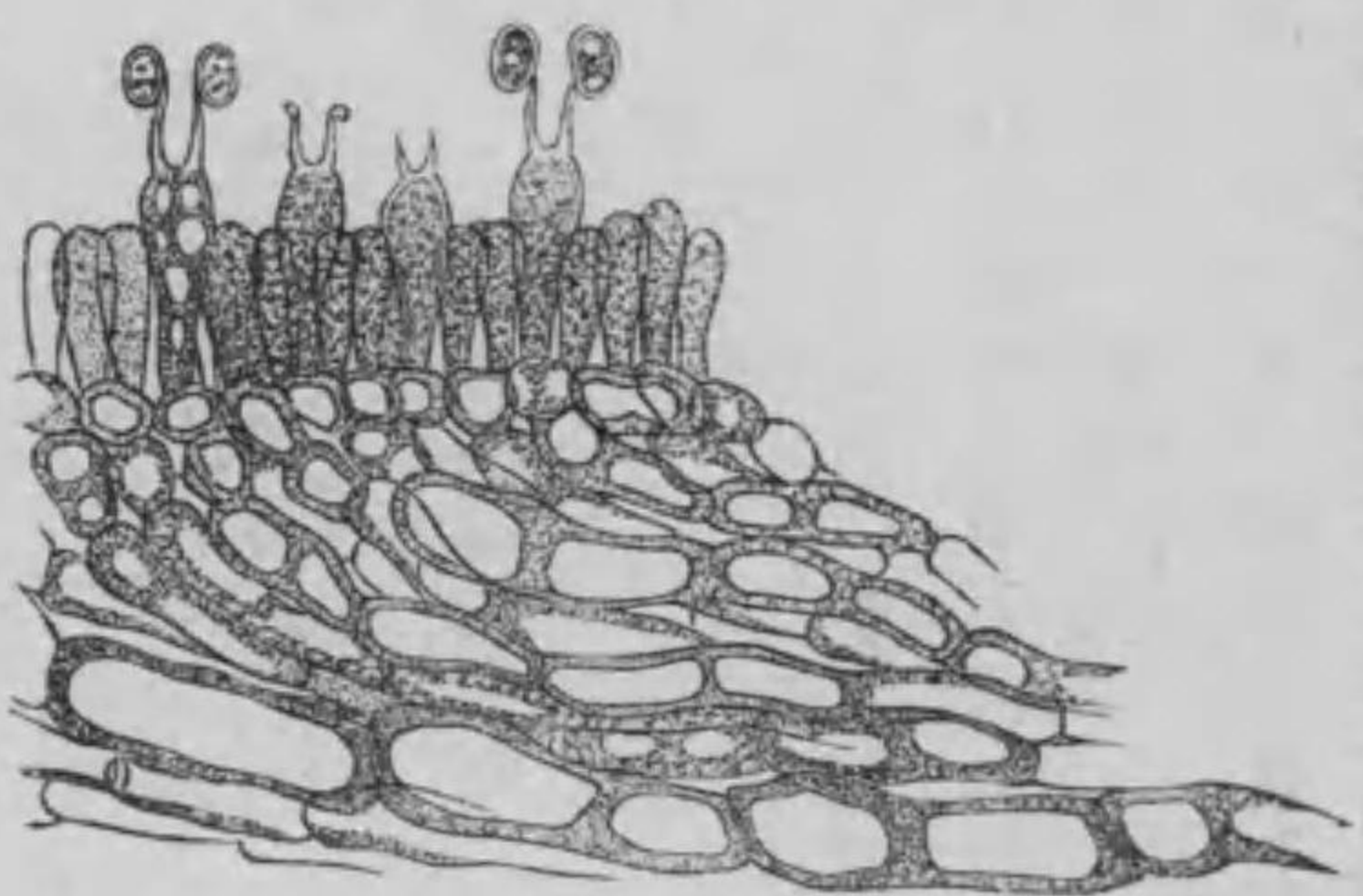
擔子胞菌類

此の目の植物は概ね大形の生殖體を生じ、多くは死物寄生なり。生殖體は多數の擔子細胞を生じ、其の上に胞子を形成す。

此の目は多數の植物より成り、地球上の各地に産す。

效用 此の目の植物には食用、薬用、觀賞用及び雜用に供するものあり。

擔子細胞より胞子を生ずる順序を示す



圖一七百二第

まつたけ



圖一七百二第

又有毒なるものあり。まつたけ、しひたけ、はつたけ、むらさき、しめぢき、しめぢか、はたけ、まひたけ、ひらたけ、しよろ、きくらげ等は食用となし、えぶり、こほくち、たけ等は薬用となし、れいしの如きは觀賞用となし、ほくち、たけの如きは其の生殖體を以て帽子、小箱等を作り、或は之を火口となす。又どくべにたけ、どくすぎたけ、はへとり、たけあしたかべにたけたまごて、んどたけ、どくつるたけ、つきよ



子囊菌類

圖二十七百二第



しひたけ

圖三十七百二第



かはたけ

たけ等は有毒なり。

第二目 子囊菌類

此の目の植物は子囊内に胞子を生ず。

此の目は多数の植物より成り、地球上の各地に産す。

效用 此の目の植物には食用薬用醸造用等に供するものあり、又有害なるもの多し。ふらんすしよろのほりりよろしくようあみがさたけ等

圖四十七百二第



きくらげ

圖五十七百二第



しよくようあみがさたけ

は食用となし、ほくかく(麥角)とうちゆうかさう(冬蟲夏草)等は薬用となし、かうぼきん(酵母菌)の如きは酒類を醸すに用ひ、かうぢかひの如きは澱粉を糖化するに用ふ。

又うどんこ菌類、さくらのてんどうす病菌くろやに菌類はふるひ菌

圖六十七百二第



ほくかく

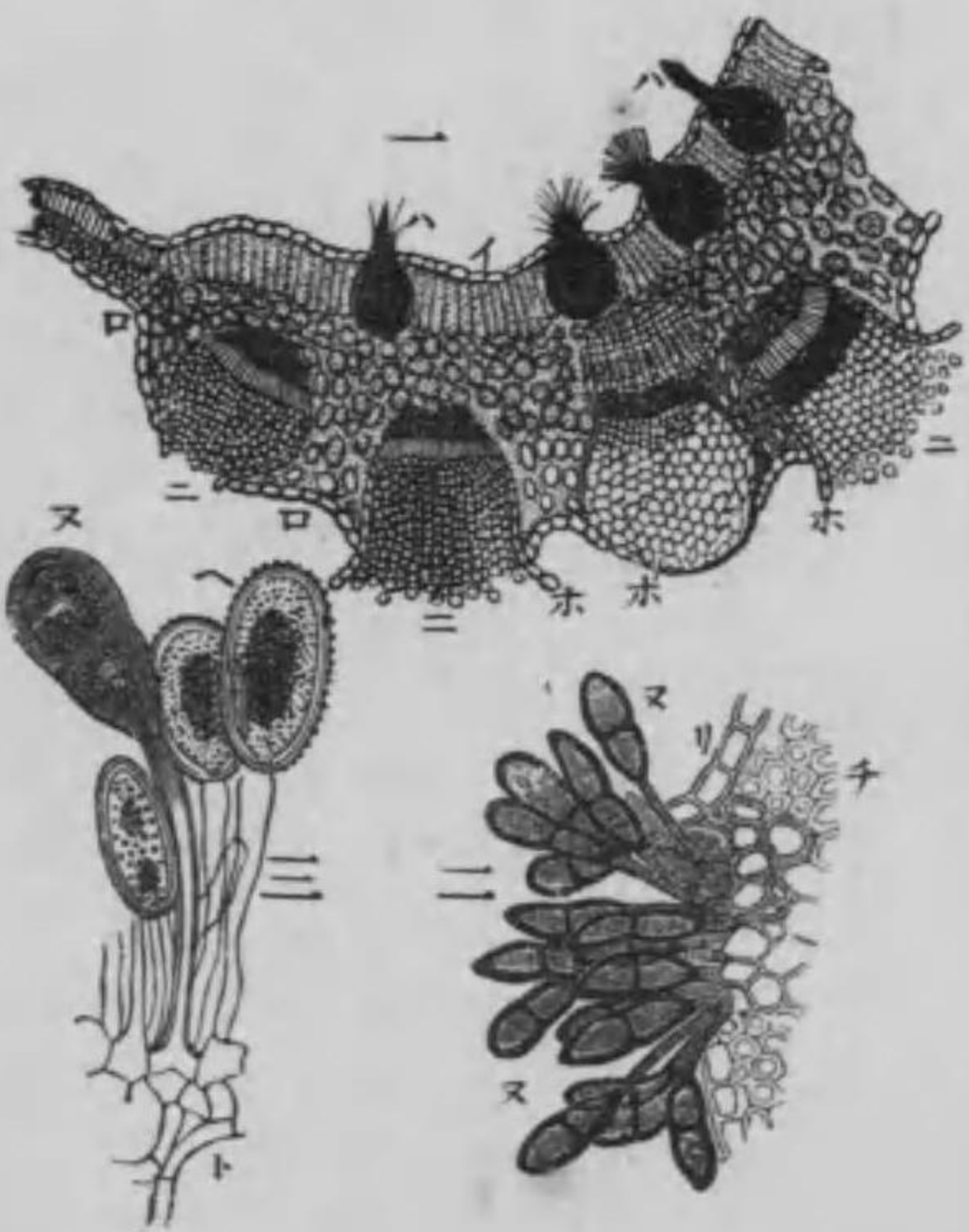


銹菌類

類等は生活せる高等の植物に寄生し、寄主に損害を與ふ。

第三目 銹菌類

圖七十七百二第



くろさび菌  
 一、へびのぼらずの葉の横斷にし  
 て銹胞子を示す  
 イ、上面    ロ、下面  
 ハ、藏精器    ニ、銹胞子  
 ホ、銹胞子を生ずる器官  
 ニ、冬胞子を示す  
 チ、寄主の組織  
 リ、寄主の表皮  
 ヌ、冬胞子  
 三、夏胞子及び冬胞子を示す  
 ヘ、夏胞子    ト、菌絲  
 ヌ、冬胞子

圖八十七百二第



くろさび菌の前菌絲を示す  
 イ、冬胞子  
 ロ、臺上胞子

夏胞子  
冬胞子  
臺上胞子  
銹胞子

前菌絲

黒穂菌類

此の目の植物は生活せる高等の植物に寄生し、寄主の葉或は莖に銹狀の斑紋を生ず。銹菌類のよく發育せるものは夏胞子冬胞子臺上胞子及び銹胞子を生ず。夏胞子は薄き膜を具へたる胞子にして通常黄色を帯び、發芽すれば直に母植物と同様の植物を生ず。冬胞子は厚き膜を具へたる胞子にして寒氣に抵抗する力を有し、發芽すれば前菌絲と稱する小形の植物を生ず。前菌絲は臺上胞子を生ず。臺上胞子は發芽して生活せる特殊の植物に寄生し、銹胞子を生ず。銹胞子は連鎖狀に排列し、發芽すれば夏胞子或は冬胞子を生ずる植物となる。

此の目は多數の植物より成り、廣く分布す。

損害 此の目の植物は總べて有害なり。くろさび菌きさび菌あかきくらげ類等は高等植物に寄生し、寄主に損害を與ふる著名なるものなり。

第四目 黒穂菌類

此の目の植物は生活せる高等の植物に寄生し、多くは寄主の花部に於て無性の厚膜胞子を生ず。此の胞子は概ね黒色にして粉狀をなし、發芽すれ







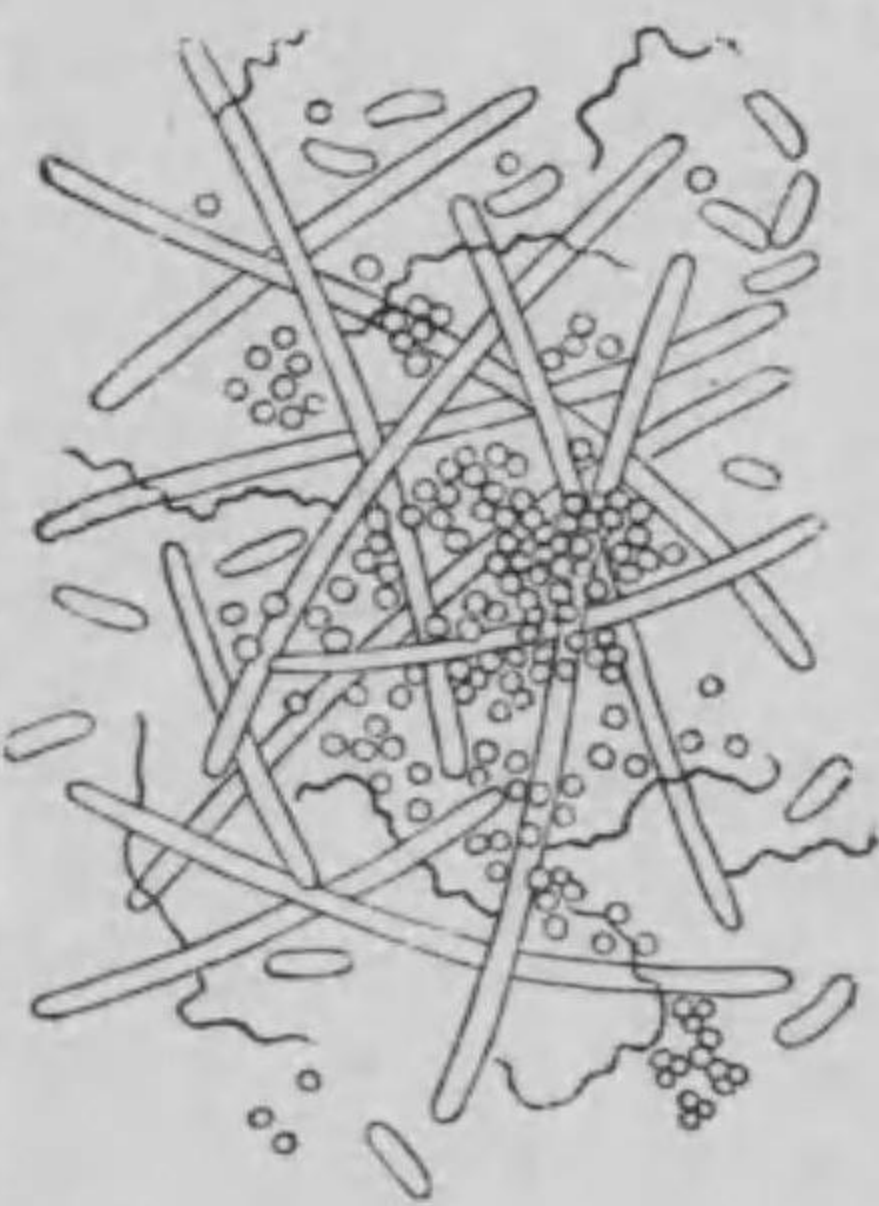
此の群の植物は單細胞より成り、植物界中最も細微なるものにして廓大力の大きな顯微鏡によりてのみ觀察することを得。其の生殖は普通の場合に於ては細胞分裂により、特殊の場合(外圍の状態の生活に不適當なる時の如き)に於ては孢子の成生による。

分生菌類の細胞は球狀、桿狀、絲狀或は螺旋狀なり。球狀のものを球狀「バクテリア」、桿狀のものを桿狀「バクテリア」、絲狀のものを絲狀「バクテリア」、螺旋狀のものを螺旋狀「バクテリア」といふ。

分生菌類は一箇づつ離れて生存し、或は數箇若くは多數結合して群體をなす。

此の群は凡そ一千五百餘種の植物より成り、地球上の各所に産す。

效害 此の群の植物には土壤中に生活して肥料を生ずるもの、醸造



圖一十八百二第

口中の「バクテリア」にして球狀・桿狀・絲狀及び螺旋狀の「バクテリア」を示す

用に供するもの、動植物の死體を分解するもの、硫化水素を分解するもの、亞酸化鐵を酸化するもの、生活せる動植物に寄生して其の疾病を起さしむるもの等あり。硝酸「バクテリア」類、遊離窒素同化「バクテリア」類等は土壤中に於て肥料を生じ、醋酸「バクテリア」の如きは醋を醸すに用ひ、腐敗「バクテリア」

硝酸「バクテリア」類

類の如きは動植物の死體を分解し、硫黃「バクテリア」

類は硫化水素に酸素を加へて硫黃及び水を生じ、鐵

「バクテリア」類は亞酸化鐵を酸化して酸化鐵を生じ、

結核「バクテリア」、虎列刺「バクテリア」、ペスト「バクテリ

ア等の如きは人體に寄生して疾病を起さしめ、豚疫

「バクテリア」、牛肺炎「バクテリア」、雞虎列刺「バクテリア」

等の如きは前記の動物に寄生して疾病を起さしめ、

うり類の青枯病「バクテリア」、なし類の腐爛病「バクテ

リア等は前記の植物に寄生して疾病を起さしむ。

圖二十八百二第





### 第十章 藻類

#### 第二綱 藻類

#### 第一群 紅藻類

あさくさのり



圖三十八百二第

造果器  
受精絲  
四分胞子

藻紅素

卵球とを生じ、其の高等なるものは造果器と受精絲との二部より成れる雌器と一箇の雄精體を含める雄器とを生ず。又此の群の植物は概ね四分胞子と稱する無性の胞子を生ず。此の胞子は各子囊の内に通例四箇づつ形

此の群の植物は總べて多細胞より成り、其の多數は海中に生じ、少數は淡水中に生ず。色素體は葉綠素の外に藻紅素と稱する色素を含む。

紅藻類の中等なるものは小形の雄性體と大形の

てんぐさ



圖四十八百二第

藻褐素

#### 第二群 褐藻類

此の群の植物は總べて多細胞より成り、海中に生ず。色素體は藻褐素と稱する褐色の色素を含む、此の色素は葉綠素に等しく炭素同化作用を営むに必要なものなり。

薬用となし、又總べての紅藻類は肥料となす。

成せらる。

此の群は多數の植物より成り、各地の海中に産す。

效用 此の群の植物には食用糊料、薬用肥料等に供するものあり。あさくさのり、てんぐさとさかのり、うみさうめん等は食用となし、ふのり、つのまた類等は糊料となし、まくりの如きは



圖五十八百二第

こんぶ



球を生じ、雄器は纖毛を具へたる多數の精蟲を生ず。其の下の等なるものは游走子を生じ、其の接合によりて接合子を形成す。此の群の植物には又無性生殖をなすものあり。あみぢごさ類の植物は雌雄の生殖器の外に四分

胞子を生じ、むちも類の植物の如きは接合生殖をなすべき游走子の外に無性の游走子を生ず。

此の群は多數の植物より成り、廣く分布す。  
效用 此の群の植物には食用、沃度料、肥料、雜用等に供するものあり。こんぶ、わかめ、ひじき、あらめ、もづくほん、だはら等々を食用となし、かぢめ、あらめ、こんぶ類等を沃度の原料となし、此の群の總べての植物を肥料となし、ほん

輪藻類

だはら、こんぶ等を新年の飾となし、かぢめの莖狀部を杖或は蝙蝠傘の柄等に用ふ。

第三群 綠藻類

第一目 輪藻類

此の目の植物は多細胞より成り、枝を輪生し、多數は淡水中に産し、少數は鹹水中に産す。

輪藻類は雌雄の生殖器を生じ、雌器は其の下より生じたる細長き五箇の枝によりて螺旋狀に圍繞せられ、雄器は球形にして八箇の細胞より成れる壁を有し、其の各細胞は内面の中央より一箇

圖六十八百二第

わかめ



圖七十八百二第

ひじき





動物類

の把手細胞を出だし、把手細胞は其の頂に球形をなせる小頭細胞を有し、小頭細胞は再び其の上に小頭細胞を生ず。頂に位する小頭細胞は一列の細胞より成れる長き絲狀體を出だし、絲狀體の各細胞は一箇づつの精蟲を生ず。此の目は凡そ一百六十種の植物より成り、廣く分布す。本邦に普通なるものはしやぢくも及びふらすもなり。

效用 此の目の植物には有用なるものなし。

あそりのり

第二目 動物類

此の目の植物は單細胞或は多細胞より成り、游走子(動物)を生じ、概ね淡水或は鹹水中に産し、稀に地上に生ず。

此の目は一千七百餘種

の植物より成り、廣く分布す。

第二八百八十八圖



接合類

效用 此の目の植物には食用、肥料等に供するものあり。あそりのりあをさみる等は食用となし、此の目の大形なるものは總べて肥料に供す。

第三目 接合類

此の目の植物は單細胞より成り、箇々離生し或は數箇結合して纖維狀をなす。生殖は細胞分裂及び接合による。此の目の植物は良好なる外圍の狀態にありては細胞分裂によりて盛に繁殖し、良好ならざる外圍の狀態にありては細胞は他の細胞と接合し、其の含有物を合せて一塊となし、以て接合子を形成す。

此の目は二千三百餘種の植物より成り、地球上の各地に分布し、重に淡水に産す。

效用 此の目の植物には有用なるものなし。

第四群 硅藻類

此の群の植物は單細胞より成り、硅藻素と稱する褐色の色素を有するを以て褐色を帯び、箇々離生し或は集りて群體をなす。

硅藻素



硅藻類は通常の場合に於ては細胞分裂によりて繁殖す。此の類の植物は他の植物と異り細胞分裂によりて次第に小形の植物を生ず。斯くの如くにして生じたる最小形の植物は其の含有物より一箇或は二箇の無性の胞子を生ずるか若くは他の最小形の植物と接合し、一箇或は二箇の接合子を生ず。無性の胞子或は接合子は萌發して最も大形の植物となる。

此の群は五千二百餘種の植物より成り、河海濕地等に廣く産す。

效用 此の群の植物は魚類の食物として最も有用なるものの一なり。

又硅藻土は此の群の植物の遺體にして種々の用に供せらる。

第五群 藍藻類

藻青素

此の群の植物は單細胞より成り、藻青素と稱する藍色の色素を有するを以て藍色を帯び、箇々離生し或は集りて群體をなす。

藍藻類は通例細胞分裂によりて繁殖し、又胞子を形成することあり。

此の群は多數の植物より成り、廣く分布し、淡水、鹹水及び濕地に産す。

效用 此の群の植物には有用なるもの少し、本邦に於ては**すゐぜんじ**の

りを食用に供す。



## 第七篇 有用植物及び有害植物

### 第一 有用植物

#### 第一章 食用植物

食用植物には食用となるべき部分を其のまま調理して食用に供するもの(第一類)と特殊の含有物を取り出だして食用に供するもの(第二類)と特殊の部分(飲料香辛料或は喫煙料)に供するもの(第三類)と特殊の部分或は含有物に菌類の作用を受けしめて食用或は飲料に供するもの(第四類)とあり。

#### 第一類

此の類には種子・果實・花・根・莖・葉或は通長體を食用に供するものあり。

種子 種子を食用に供する植物の中普通なるものはいね類・むぎ類・たうもろこし・もろこし・あはきび・ひえ・まめ類・そば・くり・しひのき・くるみ類・かやてうせんまつ等なり。

いね類・むぎ類・たうもろこし・もろこし・あはきび及びひえは禾本科に屬し、其の種子の食用となる部分は胚乳にして多量の澱粉を含む。まめ類は荳科に屬し、其の食用となる部分は子葉にして多量の蛋白質を含み、又澱粉及び油を含むものあり。そばは蓼科に屬し、其の食用となる部分は胚乳にして多量の澱粉を含む。くり及びしひのきは殼斗科に屬し、其の食用となる部分は子葉にして多量の澱粉を含む。くるみ類は胡桃科に屬し、其の子葉を食用となす、此の子葉は多量の油を含む。かやは一位科に屬し、其の胚乳を食用となす、此の胚乳は多量の油を含む。てふせんまつは松杉科に屬し、其の胚乳を食用となす、此の胚乳も亦多量の油を含む。

果實 果實を食用に供する植物の中普通なるものはうめもも・あんず・みさくら・なし・りんご・まるめろ・オランダいちご・ぶだう・みかん類・いんげん・まめ・えんどう・なたまめ・ふぢ・まめ・なす・たらなす・きうり・しろうり・まくはうり・すゐくわかき・バナナ・アナナス等なり。

うめもも・あんず・みさくら・なし・りんご・まるめろ及びオランダいちごは蕎



薇科に屬し、うめももあんず及びみぎくらは其の中果皮を食用となし、なしりんご及びまるめるは其の萼及び花托より成長したる肉部を食用となし、「オランダいちご」は其の膨大せる花托を食用となす。ぶどうは葡萄科に屬し、其の果肉を食用となす。みかん類は芸香科に屬し、其の子房内に突出したる肉部を食用となす。いんげんまめ、えんどう、なたまめ及びふぢまめは荳科に屬し、其の若き果實の全部を食用となす。なすは茄科に屬し、其の果實の全部を食用となす。たらなす、きりぎりす、うりまきはうり及びすゐくわは葫蘆科に屬し、其の萼と子房との結合より成れる肉部を食用となす。かきは柿樹科に屬し、其の果肉を食用となす。「バナナ」は芭蕉科に屬し、其の果肉を食用となす。「アナナス」は鳳梨科に屬し、主として其の花軸と花被との結合より成れる肉部を食用となす。

花 花を食用に供する植物の中普通なるものはきくふきはなやさいめうが等なり。きく及びふきは菊科に屬し、きくは其の花冠を食用となし、ふきは花芽の全部を食用となす。はなやさいは十字花科に屬し、其の多肉な

る花序の全部を食用となす。めうがは襄荷科に屬し、其の若き花序の全部を食用に供す。

根 根を食用に供する植物の中普通なるものはだいこん、かぶら、にんじん、さつまいも、ごぼう、てんもんどら等なり。だいこん及びかぶらは十字花科に屬し、にんじんは繖形科に屬し、さつまいもは旋花科に屬し、ごぼうは菊科に屬し、てんもんどらは百合科に屬す。

莖 莖を食用に供する植物の中普通なるものはすうど、じゃがたら、いもち、よろぎ、さといも、こんにやく、いもくわ、あまつほうど、くろくわ、あけのこ等なり。はすは睡蓮科に屬し、其の根莖を食用となす。うどは五加科に屬し、其の若き莖及び葉を食用となす。じゃがたらは茄科に屬し、其の塊莖を食用となす。ちよろぎは唇形科に屬し、其の連球狀の根莖を食用となす。さといも及びこんにやく、いもは天南星科に屬し、さといもに於ては其の塊莖を食用となし、こんにやく、いもに於ては其の球狀の塊莖よりこんにやく、菫蕪を製し、之を食用となす。くわゐは澤瀉科に屬し、其の球狀の塊